

#### IV. 労働者アンケート調査結果



# 労働者アンケート調査結果 目次

|                                                                             |     |
|-----------------------------------------------------------------------------|-----|
| 1. 調査の概要 .....                                                              | 94  |
| 1.1 調査の目的 .....                                                             | 94  |
| 1.2 調査の実施概要 .....                                                           | 95  |
| (1) 調査対象 .....                                                              | 95  |
| (2) 調査方法 .....                                                              | 97  |
| (3) 調査期間 .....                                                              | 97  |
| 1.3 回収状況 .....                                                              | 98  |
| (1) スクリーニング調査の回収状況 .....                                                    | 98  |
| (2) 本調査の回収状況 .....                                                          | 99  |
| 1.4 集計方法 .....                                                              | 100 |
| 1.5 自由回答の掲載方法 .....                                                         | 101 |
| 2. 集計結果 .....                                                               | 102 |
| 2.1 回答者の属性 .....                                                            | 102 |
| (1) 出生届に記載された性別 .....                                                       | 102 |
| (2) 性自認 .....                                                               | 103 |
| (3) 性的指向 .....                                                              | 104 |
| (4) 性別移行の状況 .....                                                           | 105 |
| (5) 性的指向のあり方 .....                                                          | 106 |
| (6) 性自認のあり方 .....                                                           | 107 |
| (7) 性的マイノリティの知人の有無 .....                                                    | 108 |
| (8) 正社員として勤務しているか .....                                                     | 109 |
| (9) 勤務先の業種 .....                                                            | 110 |
| (10) 居住する都道府県 .....                                                         | 112 |
| (11) 年齢 .....                                                               | 114 |
| (12) 最終学歴 .....                                                             | 115 |
| (13) 年収 .....                                                               | 116 |
| (14) 配偶者・パートナーとの関係性 .....                                                   | 117 |
| 2.2 性的指向・性自認に関する認知や経験 .....                                                 | 118 |
| (1) 「同じ性別の人が好きな人」や、「自分の性別に違和感があったり、性別を変えた、または変えたいと思っている人」がいることを知っているか ..... | 118 |
| (2) 性的指向・性自認に関する言葉の認知 .....                                                 | 118 |
| (3) これまでにあった、性的マイノリティについて知る機会 .....                                         | 124 |
| (4) 偏見や差別等の有無に関する認識 .....                                                   | 125 |
| (5) 自身が性的マイノリティであることを伝えているか .....                                           | 134 |
| 2.3 現在の仕事や職場について .....                                                      | 137 |
| (1) 勤務先での仕事の内容 .....                                                        | 137 |

|      |                                                                     |     |
|------|---------------------------------------------------------------------|-----|
| (2)  | 勤務先の企業全体の従業員規模 .....                                                | 138 |
| (3)  | 現在の勤務先での勤続年数 .....                                                  | 139 |
| (4)  | いまの職場でどの性別として働いているか .....                                           | 140 |
| (5)  | いまの職場で働くことに関する意識 .....                                              | 141 |
| (6)  | 多様な属性の人々といっしょに働くことに関する意識 .....                                      | 143 |
| (7)  | いまの職場の性的マイノリティに関する認知 .....                                          | 148 |
| (8)  | 性的マイノリティといっしょに働くことに関する意識 .....                                      | 152 |
| (9)  | 職場の人から「性的マイノリティである」と伝えられたとき、どのように接すればよいか不安に思うか .....                | 156 |
| (10) | 職場の人から「性的マイノリティである」と伝えられたとき、その事実や内容を第三者に伝えることについてどのように考えるか .....    | 157 |
| (11) | いまの職場で自身が性的マイノリティであることを伝えているか .....                                 | 158 |
| (12) | いまの職場におけるアライについて .....                                              | 163 |
| (13) | 職場の風土 .....                                                         | 165 |
| (14) | 性的マイノリティが働きやすい職場とは、どのような職場だと思うか .....                               | 171 |
| (15) | 職場におけるハラスメントの状況 .....                                               | 173 |
| (16) | 就業上の困難 .....                                                        | 177 |
| (17) | 職場での性的マイノリティに関する取組の状況 .....                                         | 184 |
| 2.4  | これまでの求職時の状況 .....                                                   | 191 |
| (1)  | これまでの就職活動において、応募する企業の性的マイノリティに関する取組状況について、情報を得た経験 .....             | 191 |
| (2)  | これまでの就職活動において、就職活動をしていたときに重視していた点 .....                             | 193 |
| (3)  | これまでの就職活動における困難 .....                                               | 195 |
| (4)  | これまでの就職活動において、性的マイノリティであることを伝えていたか ....                             | 202 |
| (5)  | 就職活動時から配属後までの経験 .....                                               | 203 |
| (6)  | 転職の状況 .....                                                         | 204 |
| (7)  | 職場で不快な思いをしたことや働きづらくなったことがきっかけで、心身に重大な不調が生じたり、通院したり仕事を長期間休んだ経験 ..... | 206 |
| 2.5  | 現在の心身の状況や仕事に対する意欲 .....                                             | 207 |
| (1)  | メンタルヘルスの状況 .....                                                    | 207 |
| (2)  | 仕事に対する意欲 .....                                                      | 212 |
| 2.6  | 行政への要望 .....                                                        | 214 |

## IV. 労働者アンケート調査結果

### 1. 調査の概要

#### 1.1 調査の目的

労働者アンケート調査は、性的指向・性自認に関わらず誰もが働きやすい職場環境を整備することが求められていることを背景に、労働者の実態を把握することを目的として実施した。

性的マイノリティの労働者については、職場において固有の困難を抱えていることや、企業の取組に関するニーズがあると考えられる。また、職場で多数を占めると想定される性的マイノリティ以外の労働者については、性的指向・性自認の多様性に関する受容度が様々であり、そのことが職場風土の醸成に大きく影響していると考えられる。そこで本調査では、職場環境の整備に資する基礎的知見を提供すべく、性的マイノリティの労働者、性的マイノリティ以外の労働者それぞれを対象に、職場に関する意識・職場の状況等について調査した。

## 1.2 調査の実施概要

### (1) 調査対象

「官公庁・公務員」、「農林水産業」以外の業種に「正社員」として従事している 20～69 歳の者を調査対象とした。

また、性的指向・性自認の多様性に応じた実態の違いを明らかにするため、出生届に記載された性別（Q1）、性自認（Q2）、性的指向（Q3）への回答をもとに対象者を区分し、割付を行った。

対象者の区分に用いた具体的な設問文・選択肢は、以下の通りである。

#### ＜出生届に記載された性別（Q1）・性自認（Q2）・性的指向（Q3）の設問文・選択肢＞

##### Q1

あなたの出生届に記載された性別は次のうちどれですか。

1 ☐ 男性

2 ☐ 女性

##### Q2

あなたの自認する性別は次のうちどれですか。

1 ☐ 男性

2 ☐ 女性

3 ☐ どちらでもない

4 ☐ 決めたくない・決められない

5 ☐ 状況などによって変わる・揺れ動く

6 ☐ その他（具体的に  ）

##### Q3

あなたの恋愛対象となる相手の性別は次のうちどれですか。

1 ☐ 男性

2 ☐ 女性

3 ☐ 両性(男性と女性)

4 ☐ 誰も好きにならない

5 ☐ その他（具体的に  ）

注）調査実施時には、各設問が別ページで表示された。

対象者の区分について、出生届に記載された性別（Q1）と性自認（Q2）が同じ性別であり、性的指向（Q3）が異性である者を「シスジェンダーの異性愛者」と定義した。また、出生届に記載された性別（Q1）と性自認（Q2）、性的指向（Q3）がいずれも女性である者を「シスジェンダーのレズビアン」、いずれも男性である者を「シスジェンダーのゲイ」と定義した。さらに、出生届に記載された性別（Q1）と性自認（Q2）が同じ性別であり、性的指向（Q3）が両性である者は、「シスジェンダーのバイセクシュアル」と定義した。

出生届に記載された性別（Q1）と性自認（Q2）が異なる性別である者は、性的指向（Q3）に関わらず「トランスジェンダー」と定義した。性的指向と性自認は異なるため、本調査において「トランスジェンダー」と定義される者についても、性的指向が異性の場合、同性の場合など、様々な可能性があり得る。しかし、出生届に記載された性別と性自認が異なる性別である労働者の実態を把握するという目的のもと、当該労働者のサンプルを確保するために、本調査では「トランスジェンダー」について、性的指向（Q3）による細分化は行わないものとした。

さらに、性自認（Q2）が男性・女性以外の者（「どちらでもない」「決めたくない・決められない」「状況などによって変わる・揺れ動く」「その他」のいずれかを選んだ者）、または、出生届に記載された性別（Q1）と性自認（Q2）が同じ性別であり、性的指向（Q3）が男性・女性・両性以外の者（「誰も好きにならない」「その他」のいずれかを選んだ者）を、「その他」と定義した。

以上について、下表の通り割付を行った。なお、「シスジェンダーの異性愛者」については、性的指向・性自認に関する理解の程度の違いをとらえるため、性的マイノリティの知人等の有無（Q7）への回答を指標として、さらに細分化した。

＜本調査における回答者区分と回収目標数＞

| 回答者の区分                          | 出生届に記載された性別(Q1)                                                              | 性自認(Q2) | 性的指向(Q3) | 性的マイノリティの知人等の有無(Q7) | 回収目標数および割付 |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|---------|----------|---------------------|------------|
| シスジェンダーの異性愛者<br>(性的マイノリティの知人あり) | 男性                                                                           | 男性      | 女性       | 有                   | 500        |
|                                 | 女性                                                                           | 女性      | 男性       | 有                   | 500        |
| シスジェンダーの異性愛者<br>(性的マイノリティの知人なし) | 男性                                                                           | 男性      | 女性       | 無                   | 500        |
|                                 | 女性                                                                           | 女性      | 男性       | 無                   | 500        |
| シスジェンダーのレズビアン                   | 女性                                                                           | 女性      | 女性       | —                   | 200        |
| シスジェンダーのゲイ                      | 男性                                                                           | 男性      | 男性       | —                   | 200        |
| シスジェンダーのバイセクシュアル                | 男性                                                                           | 男性      | 両性       | —                   | 200        |
|                                 | 女性                                                                           | 女性      | 両性       | —                   |            |
| トランスジェンダー                       | 男性                                                                           | 女性      | —        | —                   | 100        |
|                                 | 女性                                                                           | 男性      | —        | —                   | 100        |
| その他                             | ・ 性自認(Q2)が男性・女性以外の者<br>・ 出生届に記載された性別(Q1)と性自認(Q2)が同じ性別で、性的指向(Q3)が男性・女性・両性以外の者 |         |          |                     | 200        |
| 合計                              |                                                                              |         |          |                     | 3,000      |

注）「—」は当該設問における回答内容を問わないことを意味する。

## (2) 調査方法

インターネットによるモニター調査を行った。

### ① 配信方法

A社のモニター及びA社提携先のモニターに配信を行った。配信数は下表の通りである。いずれの配信先においても、雇用形態に関する登録情報が「パート・アルバイト」及び「無職」以外のモニターを対象とした。

なお、調査の配信時には、「あなたに関する調査」という名称で配信した。

＜スクリーニング調査の配信数＞

|           | モニターへの登録上の性別 |         | 合計      |
|-----------|--------------|---------|---------|
|           | 男性           | 女性      |         |
| A社モニター    | 440,862      | 368,426 | 809,288 |
| A社提携先モニター | 125,000      | 125,000 | 250,000 |

### ② 対象者であることの判定方法及び回答者の区分方法

モニターに対して、Q14までの設問をスクリーニング調査として配信した。

調査対象であるかを判定するため、正社員として勤務しているか（Q8）、勤務先の業種（Q9）を用いた。

また、回答者の区分のため、出生届に記載された性別（Q1）、性自認（Q2）、性的指向（Q3）、性的マイノリティの知人等の有無（Q7）を用いた。

Q14までの設問のうち、上記以外の設問は、調査対象者であるかどうかの判定及び回答者の区分には用いなかった。

### ③ 回収方法

Q14までのスクリーニング調査において、調査対象の条件に合致した場合、スクリーニング調査に続いて本調査への回答に進んだ。スクリーニング調査を含む全設問への回答を終了したサンプルについて、集計対象とした。

なお、スクリーニング調査への回答によって判定された調査対象区分について、すでに回収サンプル数が回収目標数を上回っていた場合は、当該回答者は本調査に進まず、スクリーニング調査のみで回答終了とした。したがって、スクリーニング調査において調査対象の条件に合致したモニターのすべてが、本調査へ進んだわけではない。

## (3) 調査期間

調査は以下の期間に実施した。

■配信開始日：令和元年11月22日（金）

■回収締切日：令和元年12月9日（月）



## 1.3 回収状況

### (1) スクリーニング調査の回収状況

スクリーニング調査の全設問に回答したのは、合計で 117,192 人であった。このうち 97,227 人は A 社のモニター、19,965 人は A 社提携先のモニターであった。

スクリーニング調査の全設問への回答をした人のうち、各区分に該当する回答者の数（出現数）およびその割合は下表の通りである。

＜スクリーニング調査における調査対象区分ごとの出現数および出現率＞

| 回答者の区分                          | 出生届に<br>記載され<br>た性別<br>(Q1)                                                          | 性自認<br>(Q2) | 性的指向<br>(Q3) | 性的マイノ<br>リティの知<br>人等の有<br>無(Q7) | スクリー<br>ニング調<br>査での<br>出現数 | 出現数全体に<br>占める割合 |        |
|---------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|-------------|--------------|---------------------------------|----------------------------|-----------------|--------|
| シスジェンダーの異性愛者<br>(性的マイノリティの知人あり) | 男性                                                                                   | 男性          | 女性           | 有                               | 6,162                      | 5.26%           | 92.0%  |
|                                 | 女性                                                                                   | 女性          | 男性           | 有                               | 5,647                      | 4.82%           |        |
| シスジェンダーの異性愛者<br>(性的マイノリティの知人なし) | 男性                                                                                   | 男性          | 女性           | 無                               | 70,657                     | 60.29%          |        |
|                                 | 女性                                                                                   | 女性          | 男性           | 無                               | 25,353                     | 21.63%          |        |
| シスジェンダーのレズビアン                   | 女性                                                                                   | 女性          | 女性           | —                               | 1,607                      | 1.37%           | 8.0%   |
| シスジェンダーのゲイ                      | 男性                                                                                   | 男性          | 男性           | —                               | 3,254                      | 2.78%           |        |
| シスジェンダーの<br>バイセクシュアル            | 男性                                                                                   | 男性          | 両性           | —                               | 1,379                      | 1.18%           |        |
|                                 | 女性                                                                                   | 女性          | 両性           | —                               |                            |                 |        |
| トランスジェンダー                       | 男性                                                                                   | 女性          | —            | —                               | 336                        | 0.29%           |        |
|                                 | 女性                                                                                   | 男性          | —            | —                               | 151                        | 0.13%           |        |
| その他                             | ・ 性自認(Q2)が男性・女性以外の者<br>・ 出生届に記載された性別(Q1)と性自認(Q2)が<br>同じ性別で、性的指向(Q3)が男性・女性・両性<br>以外の者 |             |              |                                 | 2,646                      | 2.26%           |        |
| 合計                              |                                                                                      |             |              |                                 | 117,192                    | 100.0%          | 100.0% |

注)「—」は当該設問における回答内容を問わないことを意味する。

## (2) 本調査の回収状況

本調査の全設問に回答したのは、合計で 4,884 人であった。各区分における本調査の回収数は下表の通りである。

＜本調査における回答者区分ごとの回収数＞

| 回答者の区分                          | 出生届に記載された性別(Q1)                                                              | 性自認(Q2) | 性的指向(Q3) | 性的マイノリティの知人等の有無(Q7) | スクリーニング調査での出現数 | 回収目標数 | 回収数   |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|---------|----------|---------------------|----------------|-------|-------|
| シスジェンダーの異性愛者<br>(性的マイノリティの知人あり) | 男性                                                                           | 男性      | 女性       | 有                   | 6,162          | 500   | 665   |
|                                 | 女性                                                                           | 女性      | 男性       | 有                   | 5,647          | 500   | 668   |
| シスジェンダーの異性愛者<br>(性的マイノリティの知人なし) | 男性                                                                           | 男性      | 女性       | 無                   | 70,657         | 500   | 733   |
|                                 | 女性                                                                           | 女性      | 男性       | 無                   | 25,353         | 500   | 708   |
| シスジェンダーのレズビアン                   | 女性                                                                           | 女性      | 女性       | —                   | 1,607          | 200   | 419   |
| シスジェンダーのゲイ                      | 男性                                                                           | 男性      | 男性       | —                   | 3,254          | 200   | 464   |
| シスジェンダーの<br>バイセクシュアル            | 男性                                                                           | 男性      | 両性       | —                   | 1,379          | 200   | 463   |
|                                 | 女性                                                                           | 女性      | 両性       | —                   |                |       |       |
| トランスジェンダー                       | 男性                                                                           | 女性      | —        | —                   | 336            | 100   | 213   |
|                                 | 女性                                                                           | 男性      | —        | —                   | 151            | 100   | 88    |
| その他                             | ・ 性自認(Q2)が男性・女性以外の者<br>・ 出生届に記載された性別(Q1)と性自認(Q2)が同じ性別で、性的指向(Q3)が男性・女性・両性以外の者 |         |          |                     | 2,646          | 200   | 463   |
| 合計                              |                                                                              |         |          |                     | 117,192        | 3,000 | 4,884 |

注)「—」は当該設問における回答内容を問わないことを意味する。

## 1.4 集計方法

インターネットによるモニター調査によって回収したサンプルに対してデータクリーニング※を行った。

※多重回答（アンケート画面へのアクセス情報により確認）や回答者年齢と学齢の不整合回答、自由記述欄の不適切回答（記号の羅列等）を除いた。

さらに、回答者が設問を十分に読んでいるかを確認する設問※を設け、指示通りの回答を行ったサンプルを有効回答として、集計対象とした。

※インターネットによるモニター調査では、回答者が設問を十分に読まずに回答する場合があるとされる。そこで、「この設問では〇〇を選んでください」と指示する設問を、本調査の中で2問設けた（Q18\_10 及び Q37\_4）。

以上の手続きの結果残った 2,405 サンプルを集計対象とした。

集計にあたっては、回答者の年齢や性別等が国内全体の分布のそれと同じになるようなウェイトバック（復元）は行っていない。以降のページに示す調査結果は、有効回答サンプルにおける集計結果である。

また、スクリーニング調査においては、「出生届に記載された性別」（Q1）、「性自認」（Q2）、「性的指向」（Q3）の内容のほかに、「性的指向のあり方」（Q5）や「性自認のあり方」（Q6）を聴取した。Q1～Q3 による区分と Q5 や Q6 における回答内容が、必ずしも一致しないケースが見られたが、本調査結果の報告にあたっては、下表に示す通り、Q1～Q3 への回答内容の組み合わせに基づく区分をもとに集計を行っている。

### ＜集計対象＞

| 回答者の区分                          | 出生届に記載された性別(Q1)                                                              | 性自認(Q2) | 性的指向(Q3) | 性的マイノリティの知人等の有無(Q7) | 回収数    | データクリーニングにより除いた件数 | 指示設問不正解者 | 集計対象   |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|---------|----------|---------------------|--------|-------------------|----------|--------|
| シスジェンダーの異性愛者<br>(性的マイノリティの知人あり) | 男性                                                                           | 男性      | 女性       | 有                   | 665    | 37                | 288      | 340    |
|                                 | 女性                                                                           | 女性      | 男性       | 有                   | 668    | 25                | 237      | 406    |
| シスジェンダーの異性愛者<br>(性的マイノリティの知人なし) | 男性                                                                           | 男性      | 女性       | 無                   | 733    | 28                | 315      | 390    |
|                                 | 女性                                                                           | 女性      | 男性       | 無                   | 708    | 15                | 318      | 375    |
| シスジェンダーのレズビアン                   | 女性                                                                           | 女性      | 女性       | —                   | 419    | 36                | 231      | 152    |
| シスジェンダーのゲイ                      | 男性                                                                           | 男性      | 男性       | —                   | 464    | 46                | 283      | 135    |
| シスジェンダーの<br>バイセクシュアル            | 男性                                                                           | 男性      | 両性       | —                   | 463    | 31                | 145      | 287    |
|                                 | 女性                                                                           | 女性      | 両性       | —                   |        |                   |          |        |
| トランスジェンダー                       | 男性                                                                           | 女性      | —        | —                   | 213    | 26                | 118      | 69     |
|                                 | 女性                                                                           | 男性      | —        | —                   | 88     | 9                 | 47       | 32     |
| その他                             | ・ 性自認(Q2)が男性・女性以外の者<br>・ 出生届に記載された性別(Q1)と性自認(Q2)が同じ性別で、性的指向(Q3)が男性・女性・両性以外の者 |         |          |                     | 463    | 61                | 183      | 219    |
| 合計                              |                                                                              |         |          |                     | 4, 884 | 314               | 2, 165   | 2, 405 |

注)「—」は当該設問における回答内容を問わないことを意味する。

## 1.5 自由回答の掲載方法

自由回答の項目について、類似の回答があった場合は、代表的な回答例を掲載している。また、設問の趣旨と一致しない回答については掲載していない。なお、掲載にあたっては、誤字脱字等の修正を行い、文意が変わらない範囲で文章を整えている。

## 2. 集計結果

集計結果の解釈においては、「正社員」を調査対象としている点に留意が必要である。性的マイノリティの労働者の中には、性的指向・性自認に関連する就業上の困難から、正社員として就業することができずにいる者がいる可能性も考えられるが、正社員ではない者は調査対象となっていない。正社員として就業している性的マイノリティの労働者は、正社員として就業していない性的マイノリティの労働者と比較し、いまの職場に満足しており、困難を感じていない可能性があるため、集計結果はその点を踏まえて解釈する必要がある。

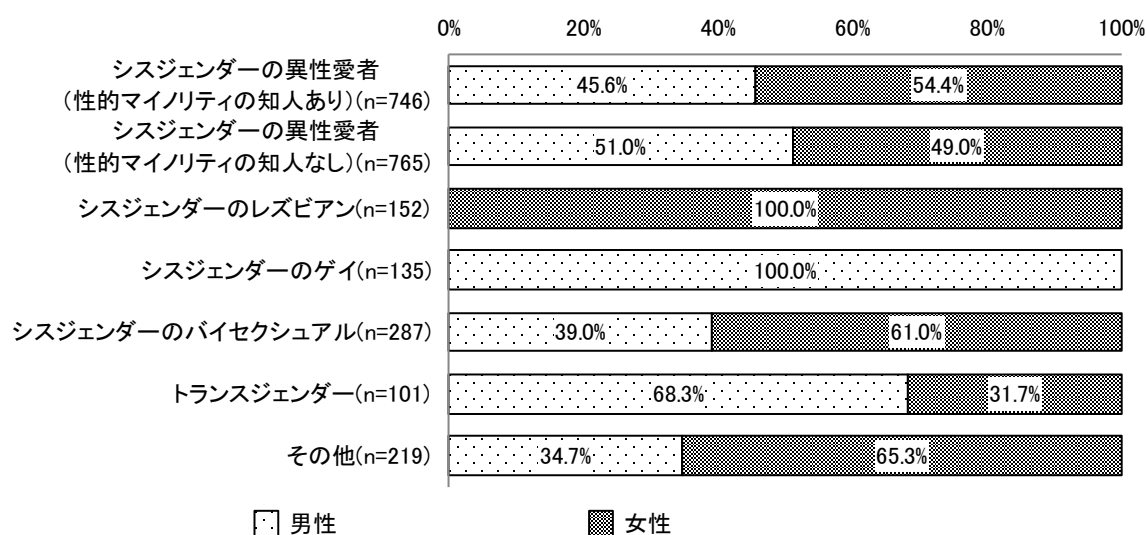
### 2.1 回答者の属性

#### (1) 出生届に記載された性別

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「男性」が45.6%、「女性」が54.4%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「男性」が51.0%、「女性」が49.0%であった。

スクリーニング調査での区分通り、「シスジェンダーのレズビアン」では「女性」が100.0%、「シスジェンダーのゲイ」では「男性」が100.0%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「男性」が39.0%、「女性」が61.0%であった。「トランスジェンダー」では、「男性」が68.3%、「女性」が31.7%であった。「その他」では、「男性」が34.7%、「女性」が65.3%であった。

図表Ⅳ- 1 出生届に記載された性別：単数回答（Q1）



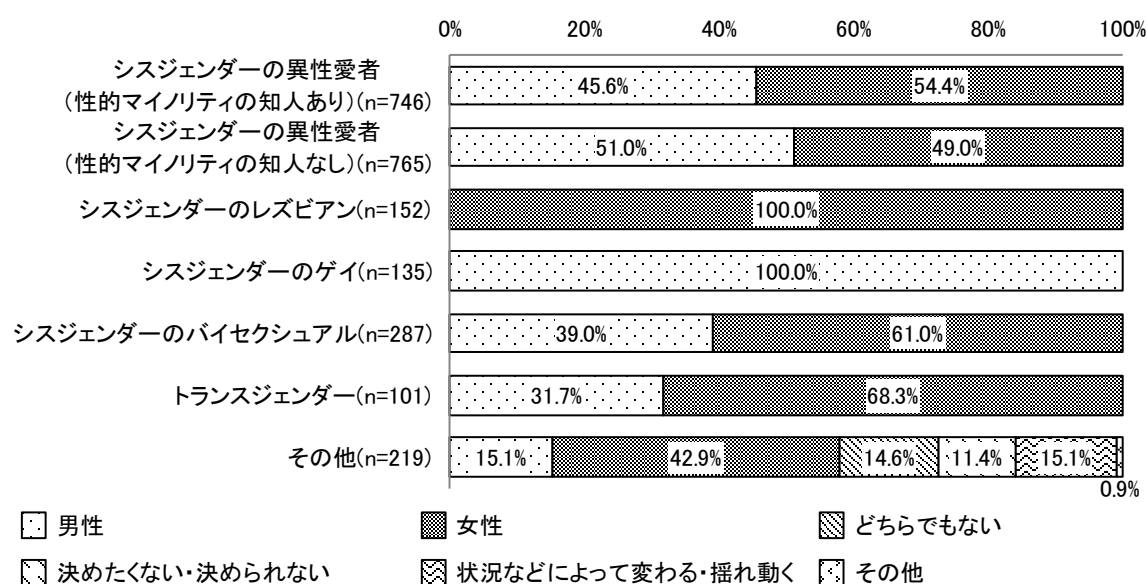
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別 (Q1)、性自認 (Q2)、性的指向 (Q3)、性的マイノリティの知人等の有無 (Q7) への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## (2) 性自認

「あなたの自認する性別は次のうちどれですか。」という設問文にて、回答者の性自認を把握したところ、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「男性」が45.6%、「女性」が54.4%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「男性」が51.0%、「女性」が49.0%であった。

スクリーニング調査での区分通り、「シスジェンダーのレズビアン」では「女性」が100.0%、「シスジェンダーのゲイ」では「男性」が100.0%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「男性」が39.0%、「女性」が61.0%であった。「トランスジェンダー」では、「男性」が31.7%、「女性」が68.3%であった。「その他」では、「男性」が15.1%、「女性」が42.9%、「状況などによって変わる・揺れ動く」が15.1%であった。

図表Ⅳ- 2 性自認：単数回答（Q2）



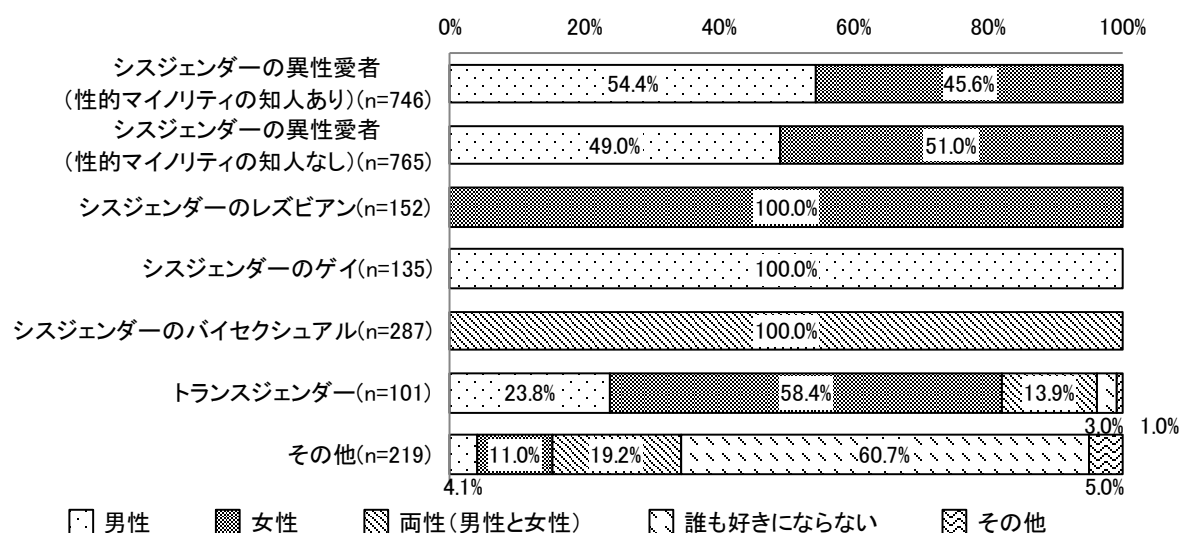
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

### (3) 性的指向

「あなたの恋愛対象となる相手の性別は次のうちどれですか。」という設問文にて、回答者の性的指向を把握したところ、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「男性」が 54.4%、「女性」が 45.6%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「男性」が 49.0%、「女性」が 51.0%であった。

スクリーニング調査での区分通り、「シスジェンダーのレズビアン」では「女性」が 100.0%、「シスジェンダーのゲイ」では「男性」が 100.0%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では「両性（男性と女性）」が 100.0%であった。「トランスジェンダー」では、「男性」が 23.8%、「女性」が 58.4%であった。「その他」では、「誰も好きにならない」が 60.7%、「両性（男性と女性）」が 19.2%であった。

図表Ⅳ- 3 性的指向：単数回答（Q3）

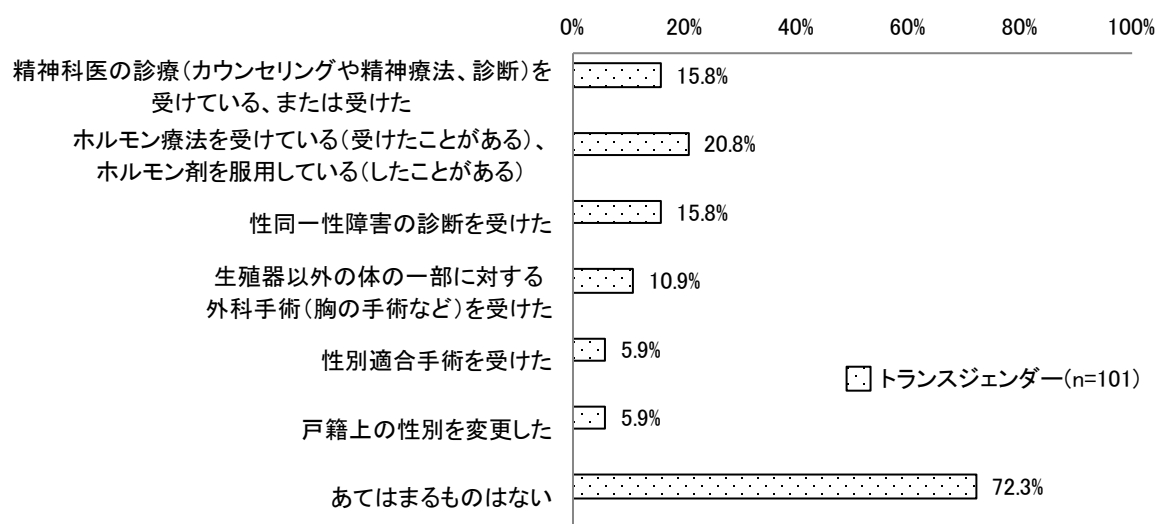


注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

#### (4) 性別移行の状況

性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)への回答の結果、「トランスジェンダー」に区分される回答者について、性別移行の状況に関する質問についての回答をみると、「ホルモン療法を受けている(受けたことがある)、ホルモン剤を服用している(したことがある)」が20.8%、「精神科医の診療(カウンセリングや精神療法、診断)を受けている、または受けた」、「性同一性障害の診断を受けた」がそれぞれ15.8%であり、「あてはまるものはない」は72.3%であった。

図表IV- 4 性別移行の状況：複数回答 (Q4)



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

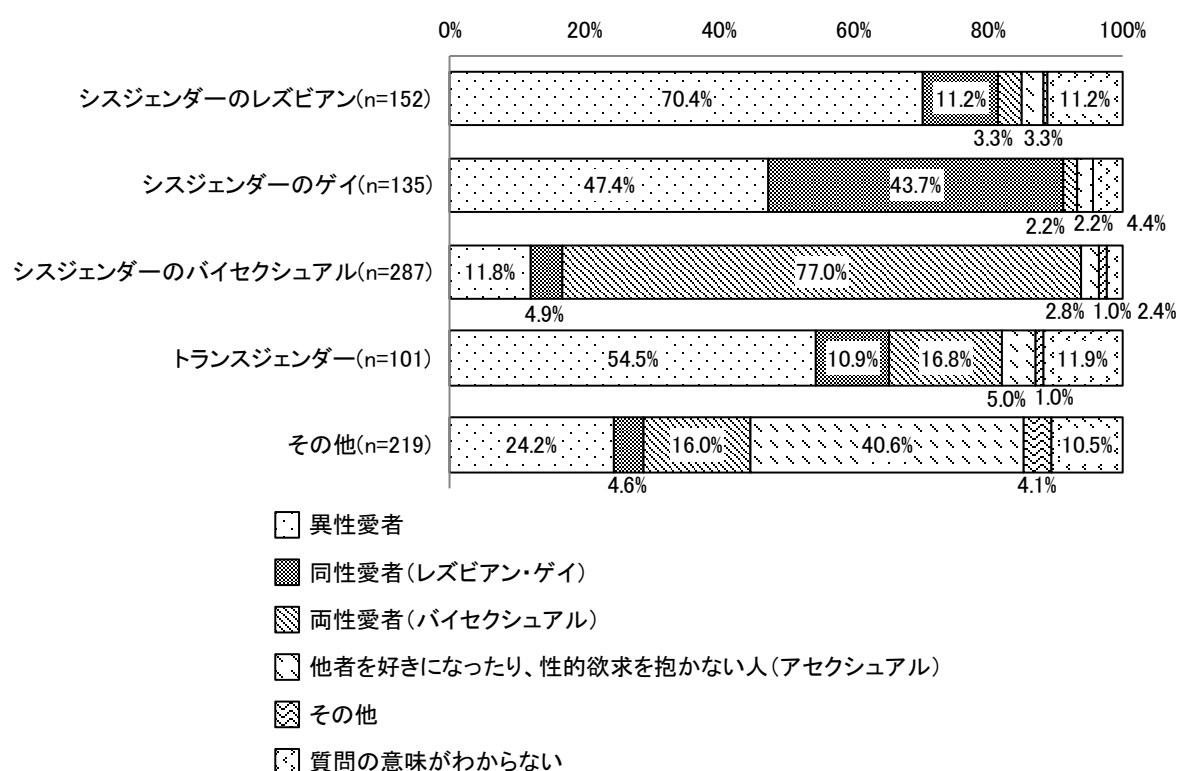


## (5) 性的指向のあり方

「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者について、性的指向のあり方に関する質問についての回答をみると、「シスジェンダーのレズビアン」では、「異性愛者」が70.4%、「同性愛者（レズビアン・ゲイ）」、「質問の意味がわからない」がそれぞれ11.2%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「異性愛者」が47.4%、「同性愛者（レズビアン・ゲイ）」が43.7%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「両性愛者（バイセクシュアル）」が77.0%、「異性愛者」が11.8%であった。「トランスジェンダー」では、「異性愛者」が54.5%、「両性愛者（バイセクシュアル）」が16.8%であった。「その他」では、「他者を好きになったり、性的欲求を抱かない人（アセクシュアル）」が40.6%、「異性愛者」が24.2%であった。

上記の通り、本調査における回答者の区分（注1）と、回答者が自身の性的指向をどのようにとらえているかは必ずしも一致していない（注2）。

図表Ⅳ- 5 性的指向のあり方：単数回答（Q5）



注1）回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

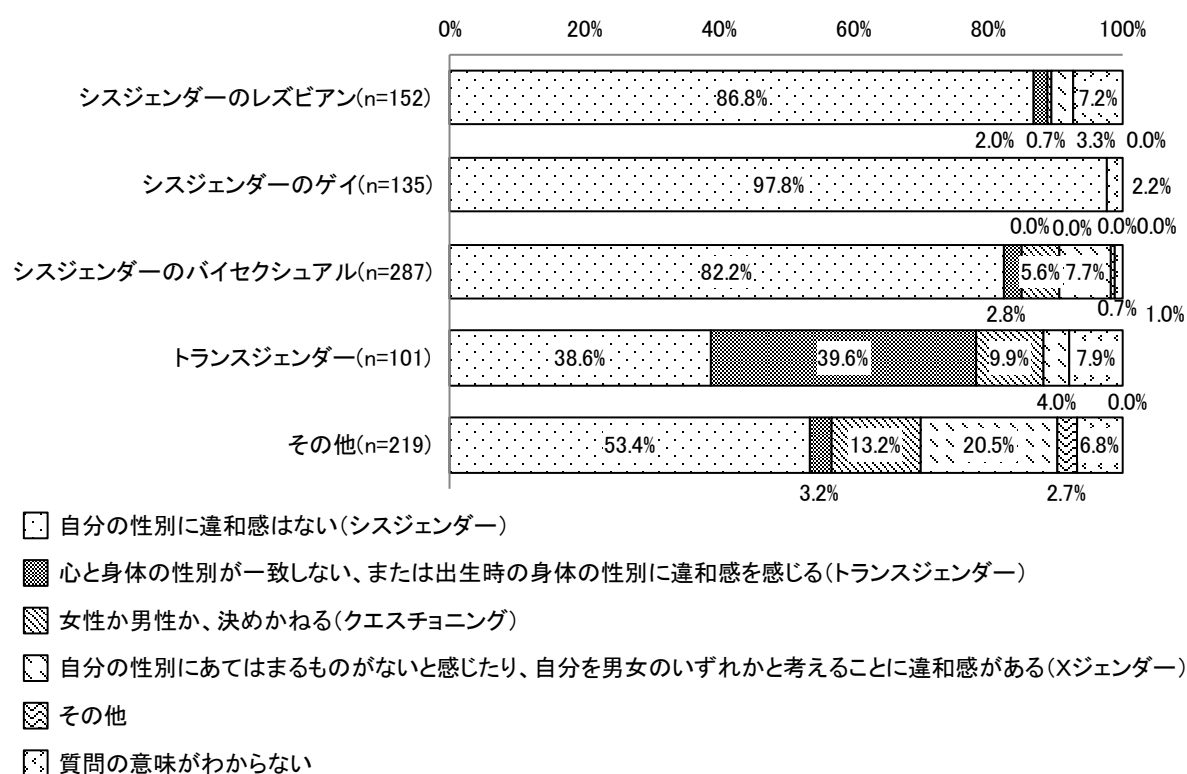
注2）こうした不一致は、既存の調査（特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター、2018、『niji voice 2018～2LGBTも働きやすい職場づくり、生きやすい社会づくりのための「声」集め』。）でも見られることがある。

## (6) 性自認のあり方

「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者について、性自認のあり方に関する質問についての回答をみると、「シスジェンダーのレズビアン」では、「自分の性別に違和感はない（シスジェンダー）」が 86.8%、「質問の意味がわからない」が 7.2%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「自分の性別に違和感はない（シスジェンダー）」が 97.8%、「質問の意味がわからない」が 2.2%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「自分の性別に違和感はない（シスジェンダー）」が 82.2%、「自分の性別にあてはまるものがないと感じたり、自分を男女のいずれかと考えることに違和感がある（Xジェンダー）」が 7.7%であった。「トランスジェンダー」では、「心と身体の性別が一致しない、または出生時の身体の性別に違和感を感じる（トランスジェンダー）」が 39.6%、「自分の性別に違和感はない（シスジェンダー）」が 38.6%であった。「その他」では、「自分の性別に違和感はない（シスジェンダー）」が 53.4%、「自分の性別にあてはまるものがないと感じたり、自分を男女のいずれかと考えることに違和感がある（Xジェンダー）」が 20.5%であった。

性的指向のあり方(Q5)と同様、本調査における回答者の区分（注1）と、回答者の性自認に関する質問についての回答は必ずしも一致していない（注2）。

図表IV- 6 性自認のあり方：単数回答（Q6）



注1）回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

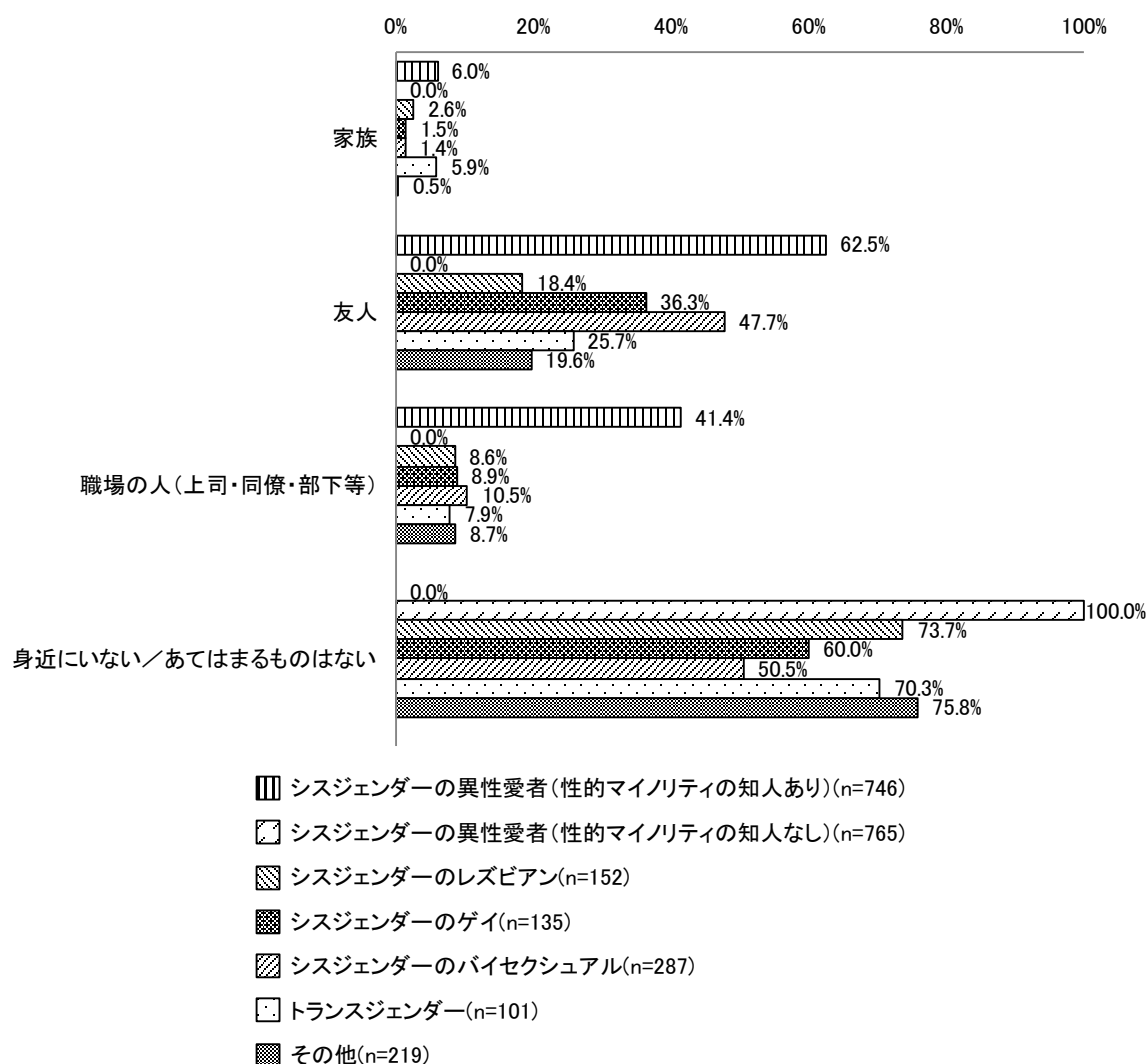
注2）こうした不一致は、既存の調査（特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ、国際基督教大学ジェンダー研究センター、2018、『niji voice 2018～2LGBT も働きやすい職場づくり、生きやすい社会づくりのための「声」集め』）でもみられることがある。

## (7) 性的マイノリティの知人の有無

身近な人の中に、性的マイノリティの人がいるかどうか、また、いた場合の間柄をたずねたところ、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「友人」が62.5%、「職場の人（上司・同僚・部下等）」が41.4%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、スクリーニング調査での区分通り、「身近にいない／あてはまるものはない」が100.0%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「友人」が18.4%、「職場の人（上司・同僚・部下等）」が8.6%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「友人」が36.3%、「職場の人（上司・同僚・部下等）」が8.9%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「友人」が47.7%、「職場の人（上司・同僚・部下等）」が10.5%であった。「トランスジェンダー」では、「友人」が25.7%、「職場の人（上司・同僚・部下等）」が7.9%であった。「その他」では、「友人」が19.6%、「職場の人（上司・同僚・部下等）」が8.7%であった。

図表IV- 7 性的マイノリティの知人等の有無：複数回答（Q7）



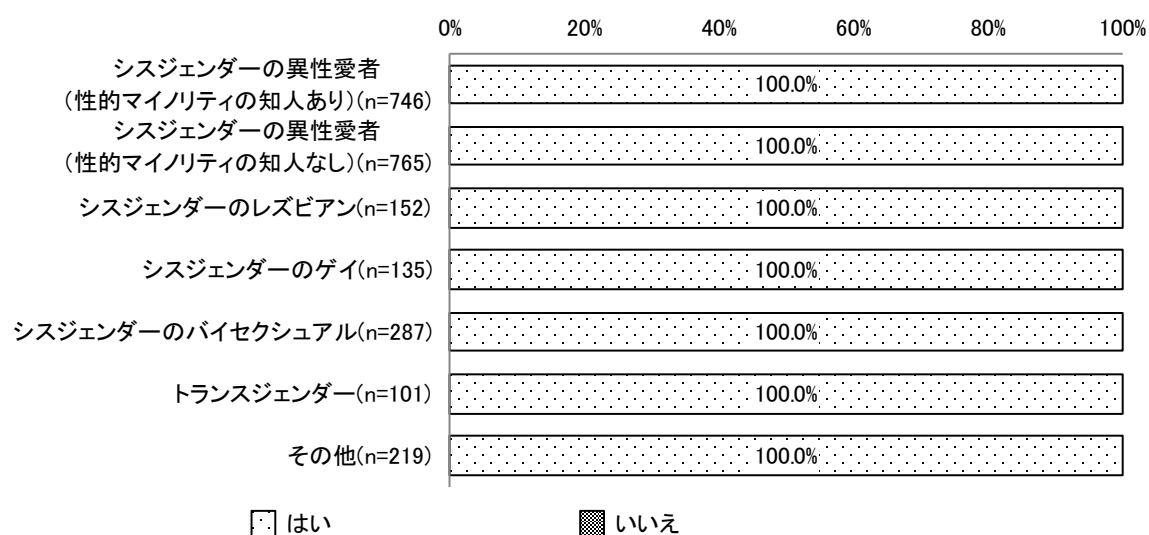
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## (8) 正社員として勤務しているか

調査対象として設定した通り、回答者はすべて「正社員」である。

なお、本設問以外の設問の自由回答において、「自営業」「個人事業である」「自分一人だけの職場」等の回答をしているサンプルが約 10 件みられたが、これらのサンプルを含めて集計対象としている。

図表Ⅳ- 8 正社員として勤務しているか：単数回答（Q8）



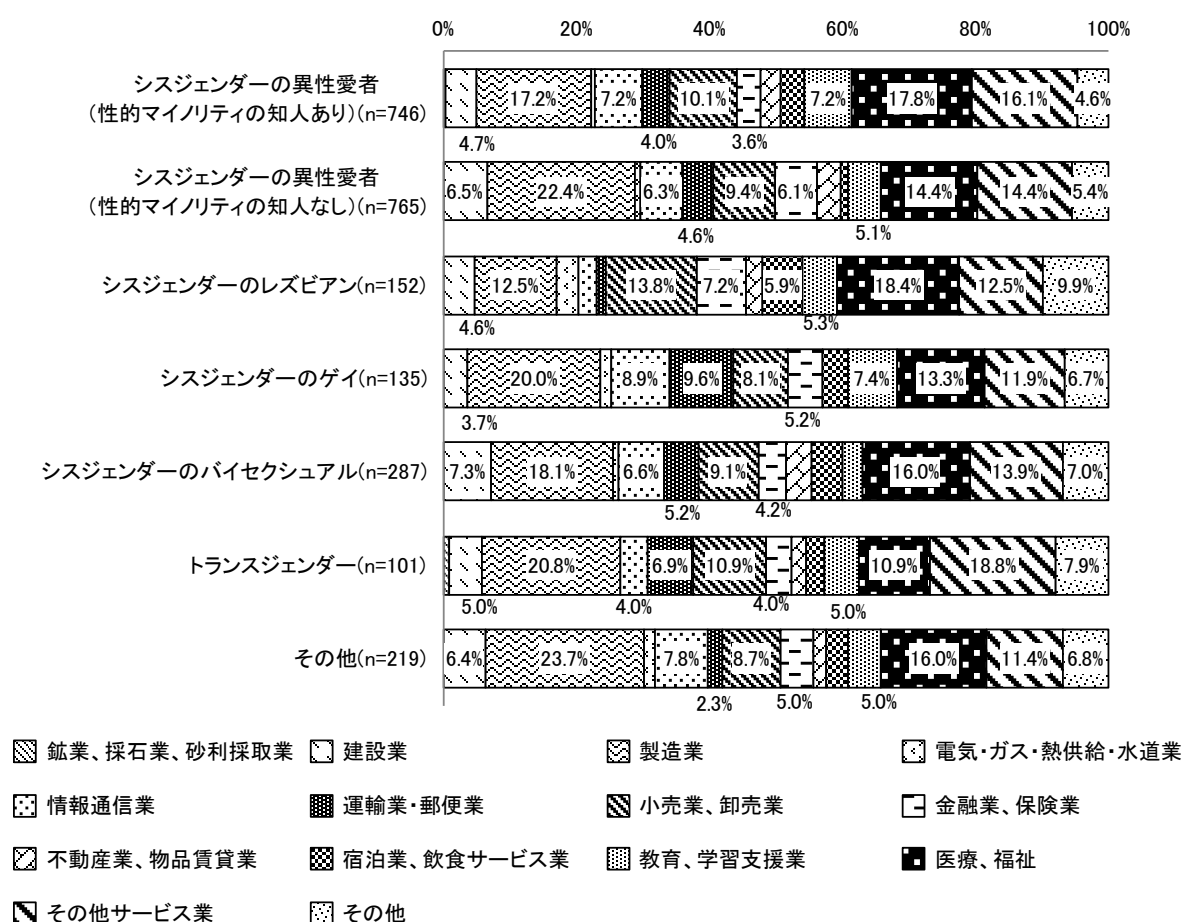
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## (9) 勤務先の業種

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「医療、福祉」が17.8%、「製造業」が17.2%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「製造業」が22.4%、「医療、福祉」、「その他サービス業」がそれぞれ14.4%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「医療、福祉」が18.4%、「小売業、卸売業」が13.8%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「製造業」が20.0%、「医療、福祉」が13.3%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「製造業」が18.1%、「医療、福祉」が16.0%であった。「トランスジェンダー」では、「製造業」が20.8%、「その他サービス業」が18.8%であった。「その他」では、「製造業」が23.7%、「医療、福祉」が16.0%であった。

図表Ⅳ- 9 勤務先の業種：単数回答（Q9）



(数値表は次ページに掲載)

<数値表>

|                             | 合計  | Q9. 勤務先      |     |      |               |       |         |         |
|-----------------------------|-----|--------------|-----|------|---------------|-------|---------|---------|
|                             |     | 鉱業、採石業、砂利採取業 | 建設業 | 製造業  | 電気・ガス・熱供給・水道業 | 情報通信業 | 運輸業・郵便業 | 小売業、卸売業 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり） | 746 | 0.3          | 4.7 | 17.2 | 0.7           | 7.2   | 4.0     | 10.1    |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし） | 765 | 0.0          | 6.5 | 22.4 | 0.8           | 6.3   | 4.6     | 9.4     |
| シスジェンダーのレズビアン               | 152 | 0.0          | 4.6 | 12.5 | 3.3           | 2.6   | 1.3     | 13.8    |
| シスジェンダーのゲイ                  | 135 | 0.0          | 3.7 | 20.0 | 1.5           | 8.9   | 9.6     | 8.1     |
| シスジェンダーのバイセクシュアル            | 287 | 0.0          | 7.3 | 18.1 | 1.0           | 6.6   | 5.2     | 9.1     |
| トランスジェンダー                   | 101 | 1.0          | 5.0 | 20.8 | 0.0           | 4.0   | 6.9     | 10.9    |
| その他                         | 219 | 0.0          | 6.4 | 23.7 | 1.8           | 7.8   | 2.3     | 8.7     |

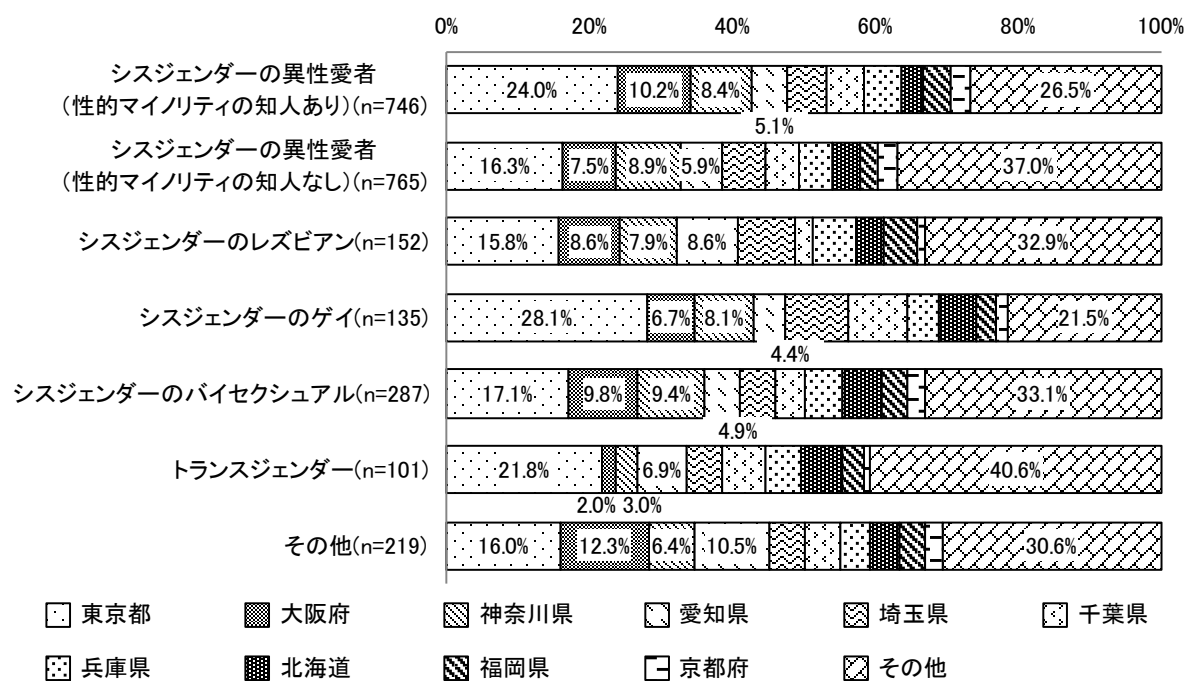
|                             | 合計  | Q9. 勤務先 |            |             |          |       |          |     |
|-----------------------------|-----|---------|------------|-------------|----------|-------|----------|-----|
|                             |     | 金融業、保険業 | 不動産業、物品賃貸業 | 宿泊業、飲食サービス業 | 教育、学習支援業 | 医療、福祉 | その他サービス業 | その他 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり） | 746 | 3.6     | 2.9        | 3.6         | 7.2      | 17.8  | 16.1     | 4.6 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし） | 765 | 6.1     | 3.8        | 0.9         | 5.1      | 14.4  | 14.4     | 5.4 |
| シスジェンダーのレズビアン               | 152 | 7.2     | 2.6        | 5.9         | 5.3      | 18.4  | 12.5     | 9.9 |
| シスジェンダーのゲイ                  | 135 | 5.2     | 0.0        | 3.7         | 7.4      | 13.3  | 11.9     | 6.7 |
| シスジェンダーのバイセクシュアル            | 287 | 4.2     | 3.8        | 4.5         | 3.1      | 16.0  | 13.9     | 7.0 |
| トランスジェンダー                   | 101 | 4.0     | 2.0        | 3.0         | 5.0      | 10.9  | 18.8     | 7.9 |
| その他                         | 219 | 5.0     | 1.8        | 3.2         | 5.0      | 16.0  | 11.4     | 6.8 |

注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp. 100を参照のこと。

## (10) 居住する都道府県

回答者の居住する都道府県は以下の通りであった。

図表Ⅳ- 10 居住する都道府県：単数回答（Q10）



注) 回答者全体において割合の高い上位 10 都道府県とその他にて集計したもの。全都道府県について、数値表を次ページに掲載。

<数値表>

|                             |     | Q10. 居住都道府県 |     |     |     |     |     |     |     |
|-----------------------------|-----|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|                             | 合計  | 北海道         | 青森県 | 岩手県 | 宮城県 | 秋田県 | 山形県 | 福島県 | 茨城県 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり） | 746 | 3.1         | 1.1 | 0.7 | 1.9 | 0.0 | 0.1 | 0.3 | 2.3 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし） | 765 | 3.9         | 0.8 | 0.8 | 1.8 | 0.4 | 0.4 | 1.3 | 1.7 |
| シスジェンダーのレズビアン               | 152 | 3.9         | 1.3 | 1.3 | 1.3 | 0.0 | 0.7 | 0.7 | 2.0 |
| シスジェンダーのゲイ                  | 135 | 5.2         | 0.7 | 0.7 | 1.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 2.2 |
| シスジェンダーのバイセクシュアル            | 287 | 5.6         | 0.7 | 0.7 | 1.7 | 0.3 | 0.0 | 1.4 | 1.4 |
| トランスジェンダー                   | 101 | 5.9         | 1.0 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | 0.0 | 3.0 | 2.0 |
| その他                         | 219 | 4.1         | 1.4 | 0.5 | 1.8 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 1.4 |

|                             |     | Q10. 居住都道府県 |     |     |     |      |     |     |     |
|-----------------------------|-----|-------------|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|
|                             | 合計  | 栃木県         | 群馬県 | 埼玉県 | 千葉県 | 東京都  | 神奈川 | 新潟県 | 富山県 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり） | 746 | 0.9         | 0.5 | 5.5 | 5.2 | 24.0 | 8.4 | 1.3 | 0.7 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし） | 765 | 0.9         | 0.7 | 6.0 | 4.8 | 16.3 | 8.9 | 1.0 | 0.9 |
| シスジェンダーのレズビアン               | 152 | 2.0         | 0.0 | 7.9 | 2.6 | 15.8 | 7.9 | 0.7 | 0.0 |
| シスジェンダーのゲイ                  | 135 | 1.5         | 1.5 | 8.9 | 8.1 | 28.1 | 8.1 | 1.5 | 0.0 |
| シスジェンダーのバイセクシュアル            | 287 | 1.7         | 0.3 | 4.9 | 4.2 | 17.1 | 9.4 | 0.3 | 0.0 |
| トランスジェンダー                   | 101 | 1.0         | 1.0 | 5.0 | 5.9 | 21.8 | 3.0 | 1.0 | 1.0 |
| その他                         | 219 | 0.9         | 0.5 | 5.0 | 5.0 | 16.0 | 6.4 | 1.4 | 0.9 |

|                             |     | Q10. 居住都道府県 |     |     |     |     |     |      |     |
|-----------------------------|-----|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
|                             | 合計  | 石川県         | 福井県 | 山梨県 | 長野県 | 岐阜県 | 静岡県 | 愛知県  | 三重県 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり） | 746 | 0.4         | 0.1 | 0.3 | 0.8 | 0.8 | 2.0 | 5.1  | 0.7 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし） | 765 | 0.9         | 1.2 | 0.1 | 1.8 | 2.1 | 3.3 | 5.9  | 1.7 |
| シスジェンダーのレズビアン               | 152 | 3.3         | 0.7 | 0.0 | 0.7 | 1.3 | 3.3 | 8.6  | 2.6 |
| シスジェンダーのゲイ                  | 135 | 0.7         | 0.0 | 0.7 | 0.7 | 0.0 | 0.7 | 4.4  | 1.5 |
| シスジェンダーのバイセクシュアル            | 287 | 0.7         | 1.7 | 1.4 | 0.3 | 1.0 | 3.1 | 4.9  | 1.0 |
| トランスジェンダー                   | 101 | 1.0         | 0.0 | 2.0 | 0.0 | 1.0 | 1.0 | 6.9  | 0.0 |
| その他                         | 219 | 1.4         | 0.0 | 0.5 | 1.8 | 2.7 | 0.9 | 10.5 | 1.8 |

|                             |     | Q10. 居住都道府県 |     |      |     |     |     |     |     |
|-----------------------------|-----|-------------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|
|                             | 合計  | 滋賀県         | 京都府 | 大阪府  | 兵庫県 | 奈良県 | 和歌山 | 鳥取県 | 島根県 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり） | 746 | 0.3         | 2.9 | 10.2 | 5.2 | 1.1 | 0.5 | 0.5 | 0.4 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし） | 765 | 1.0         | 2.6 | 7.5  | 4.6 | 1.3 | 0.3 | 0.3 | 0.8 |
| シスジェンダーのレズビアン               | 152 | 0.7         | 1.3 | 8.6  | 5.9 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 1.3 |
| シスジェンダーのゲイ                  | 135 | 0.0         | 1.5 | 6.7  | 4.4 | 1.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| シスジェンダーのバイセクシュアル            | 287 | 0.7         | 2.4 | 9.8  | 5.2 | 0.7 | 1.4 | 0.0 | 0.3 |
| トランスジェンダー                   | 101 | 0.0         | 1.0 | 2.0  | 5.0 | 1.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 |
| その他                         | 219 | 0.5         | 2.3 | 12.3 | 4.1 | 0.9 | 0.0 | 0.5 | 0.9 |

|                             |     | Q10. 居住都道府県 |     |     |     |     |     |     |     |
|-----------------------------|-----|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|                             | 合計  | 岡山県         | 広島県 | 山口県 | 徳島県 | 香川県 | 愛媛県 | 高知県 | 福岡県 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり） | 746 | 1.5         | 1.2 | 0.8 | 0.3 | 0.7 | 0.7 | 0.5 | 3.8 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし） | 765 | 2.2         | 2.6 | 1.0 | 0.3 | 1.2 | 0.7 | 0.1 | 2.5 |
| シスジェンダーのレズビアン               | 152 | 2.0         | 3.3 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 0.0 | 0.0 | 4.6 |
| シスジェンダーのゲイ                  | 135 | 0.0         | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.7 | 3.0 |
| シスジェンダーのバイセクシュアル            | 287 | 2.4         | 3.1 | 0.7 | 0.3 | 0.7 | 0.0 | 0.3 | 3.5 |
| トランスジェンダー                   | 101 | 2.0         | 5.9 | 2.0 | 1.0 | 1.0 | 2.0 | 1.0 | 3.0 |
| その他                         | 219 | 0.9         | 1.8 | 1.4 | 0.9 | 0.9 | 0.9 | 0.0 | 3.7 |

|                             |     | Q10. 居住都道府県 |     |     |     |     |     |     |     |
|-----------------------------|-----|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|                             | 合計  | 佐賀県         | 長崎県 | 熊本県 | 大分県 | 宮崎県 | 鹿児島 | 沖縄県 | 海外  |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり） | 746 | 0.1         | 0.7 | 0.4 | 0.5 | 0.1 | 0.3 | 0.9 | 0.1 |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし） | 765 | 0.3         | 0.8 | 1.0 | 0.4 | 0.1 | 0.5 | 0.3 | 0.0 |
| シスジェンダーのレズビアン               | 152 | 0.0         | 0.0 | 0.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 1.3 | 0.0 |
| シスジェンダーのゲイ                  | 135 | 0.0         | 0.0 | 2.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 0.7 |
| シスジェンダーのバイセクシュアル            | 287 | 0.7         | 0.0 | 1.4 | 0.3 | 0.7 | 0.0 | 1.0 | 0.0 |
| トランスジェンダー                   | 101 | 0.0         | 1.0 | 0.0 | 1.0 | 2.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| その他                         | 219 | 0.5         | 0.5 | 0.5 | 0.0 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | 0.0 |

注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

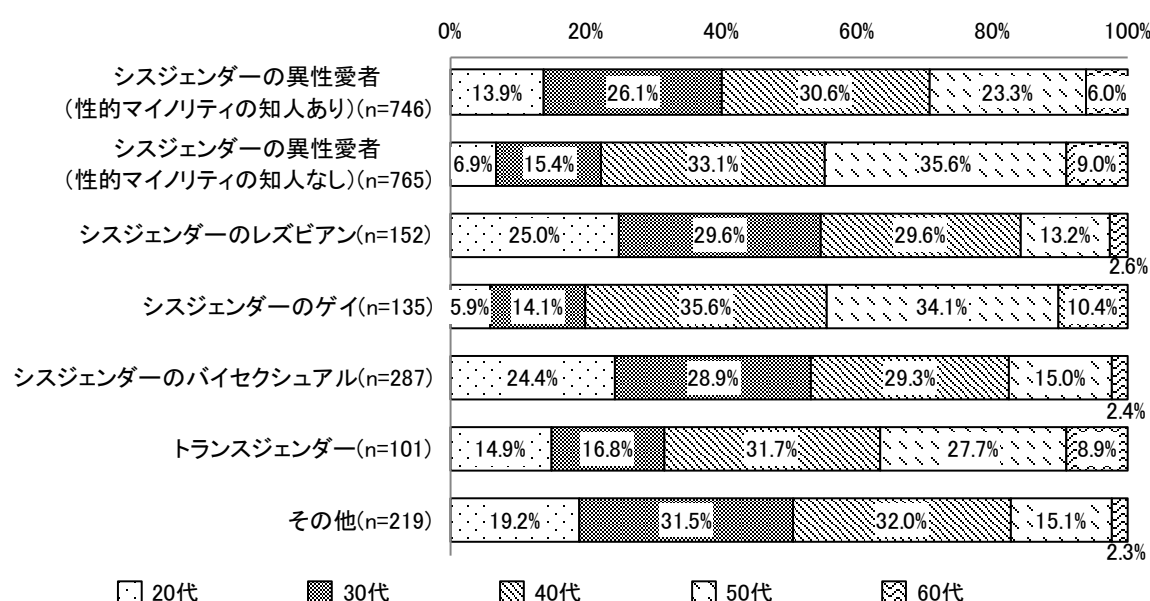


# (11) 年齢

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「40代」が30.6%、「30代」が26.1%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「50代」が35.6%、「40代」が33.1%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「30代」、「40代」がそれぞれ29.6%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「40代」が35.6%、「50代」が34.1%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「40代」が29.3%、「30代」が28.9%であった。「トランスジェンダー」では、「40代」が31.7%、「50代」が27.7%であった。「その他」は、「40代」が32.0%、「30代」が31.5%であった。

表Ⅳ- 11 年齢：数値回答（Q11）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp. 100を参照のこと。

図表Ⅳ- 12 年齢に関する基本統計量：数値回答（Q11）

単位：歳

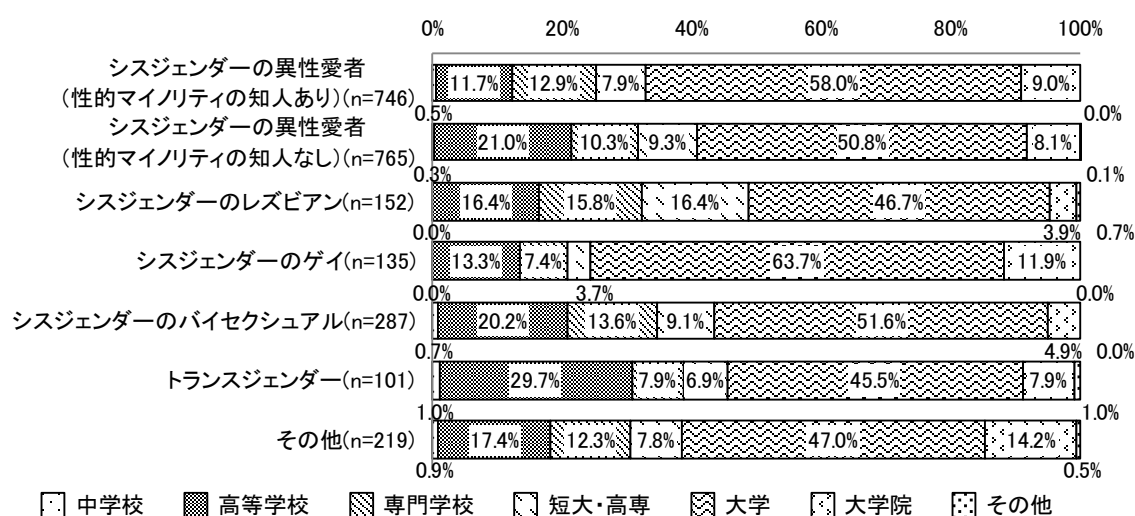
|                             | n   | 平均   | 標準偏差 | 最大値 | 最小値 | 中央値 |
|-----------------------------|-----|------|------|-----|-----|-----|
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり） | 746 | 42.7 | 10.9 | 69  | 21  | 43  |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし） | 765 | 47.0 | 10.2 | 69  | 20  | 48  |
| シスジェンダーのレズビアン               | 152 | 38.5 | 10.3 | 68  | 21  | 37  |
| シスジェンダーのゲイ                  | 135 | 47.1 | 9.8  | 67  | 24  | 47  |
| シスジェンダーのバイセクシュアル            | 287 | 38.8 | 10.9 | 69  | 20  | 39  |
| トランスジェンダー                   | 101 | 44.1 | 11.1 | 66  | 23  | 45  |
| その他                         | 219 | 39.9 | 9.9  | 68  | 22  | 39  |

## (12) 最終学歴

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「大学」が58.0%、「専門学校」が12.9%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「大学」が50.8%、「高等学校」が21.0%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「大学」が46.7%、「高等学校」が16.4%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「大学」が63.7%、「高等学校」が13.3%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「大学」が51.6%、「高等学校」が20.2%であった。「トランスジェンダー」では、「大学」が45.5%、「高等学校」が29.7%であった。「その他」では、「大学」が47.0%、「高等学校」が17.4%であった。

図表Ⅳ- 13 最終学歴：単数回答（Q12）



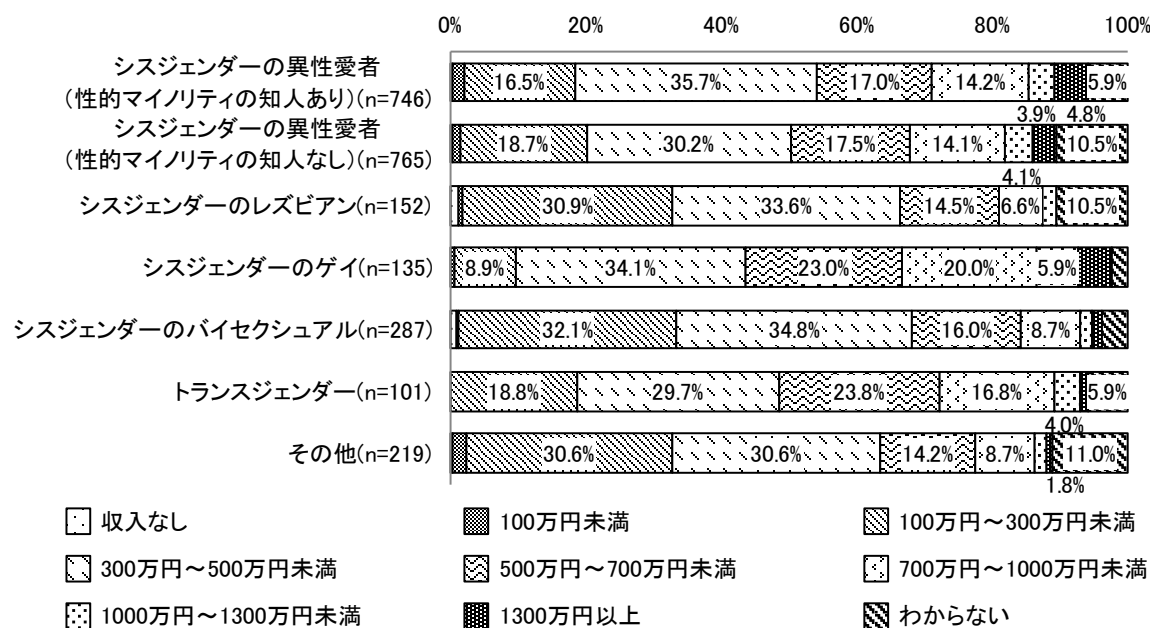
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

### (13) 年収

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「300～500 万円未満」が 35.7%、「500 万円～700 万円」が 17.0%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「300 万円～500 万円未満」が 30.2%、「100 万円～300 万円未満」が 18.7%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「300 万円～500 万円未満」が 33.6%、「100 万円～300 万円未満」が 30.9%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「300 万円～500 万円未満」が 34.1%、「500 万円～700 万円未満」が 23.0%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「300 万円～500 万円未満」が 34.8%、「100 万円～300 万円未満」が 32.1%であった。「トランスジェンダー」では、「300 万円～500 万円未満」が 29.7%、「500 万円～700 万円未満」が 23.8%であった。「その他」では、「100 万円～300 万円未満」、「300 万円～500 万円未満」がそれぞれ 30.6%であった。

図表Ⅳ- 14 年収：単数回答（Q13）



<数値表>

|                             | 合計  | Q13. 昨年度の年収 |         |               |               |               |                |                 |          |       |
|-----------------------------|-----|-------------|---------|---------------|---------------|---------------|----------------|-----------------|----------|-------|
|                             |     | 収入なし        | 100万円未満 | 100万円～300万円未満 | 300万円～500万円未満 | 500万円～700万円未満 | 700万円～1000万円未満 | 1000万円～1300万円未満 | 1300万円以上 | わからない |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり） | 746 | 0.4         | 1.6     | 16.5          | 35.7          | 17.0          | 14.2           | 3.9             | 4.8      | 5.9   |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし） | 765 | 0.3         | 1.2     | 18.7          | 30.2          | 17.5          | 14.1           | 4.1             | 3.5      | 10.5  |
| シスジェンダーのレズビアン               | 152 | 1.3         | 0.7     | 30.9          | 33.6          | 14.5          | 6.6            | 2.0             | 0.0      | 10.5  |
| シスジェンダーのゲイ                  | 135 | 0.0         | 0.7     | 8.9           | 34.1          | 23.0          | 20.0           | 5.9             | 5.2      | 2.2   |
| シスジェンダーのバイセクシュアル            | 287 | 1.0         | 0.3     | 32.1          | 34.8          | 16.0          | 8.7            | 1.7             | 1.4      | 3.8   |
| トランスジェンダー                   | 101 | 0.0         | 0.0     | 18.8          | 29.7          | 23.8          | 16.8           | 4.0             | 1.0      | 5.9   |
| その他                         | 219 | 0.5         | 1.8     | 30.6          | 30.6          | 14.2          | 8.7            | 1.8             | 0.9      | 11.0  |

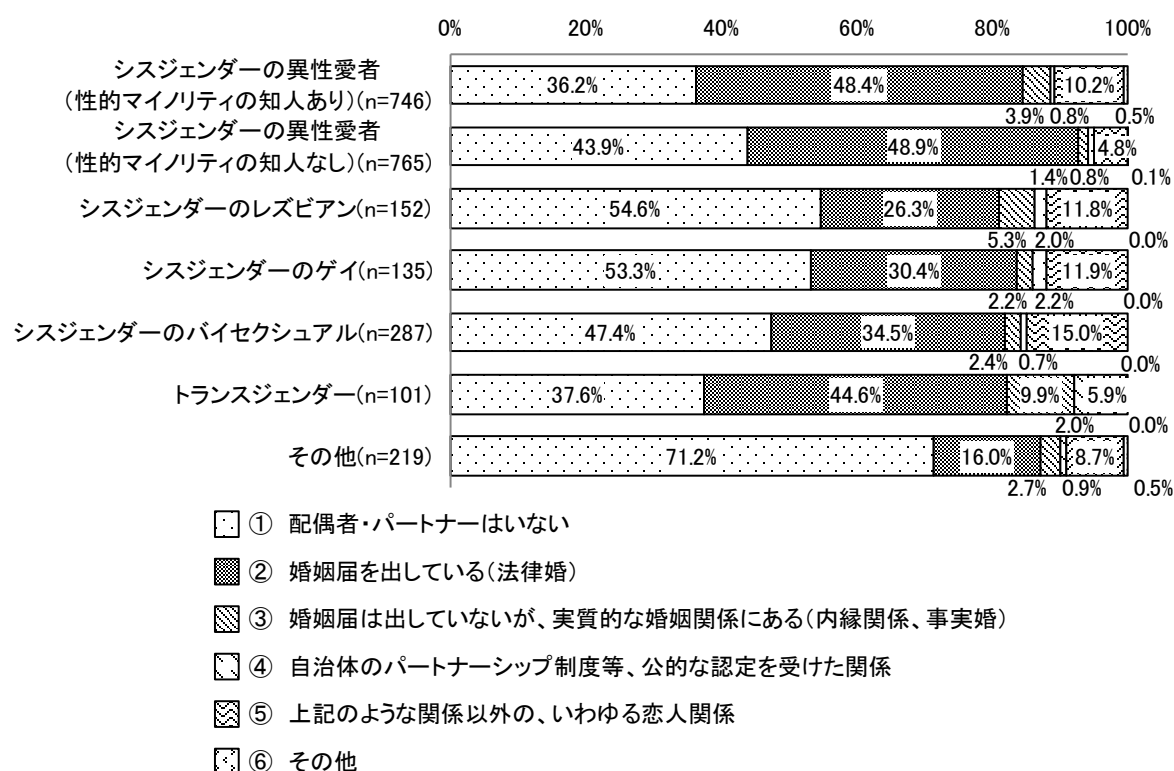
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## (14) 配偶者・パートナーとの関係性

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「婚姻届を出している（法律婚）」が 48.4%、「配偶者・パートナーはいない」が 36.2%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「婚姻届を出している（法律婚）」が 48.9%、「配偶者・パートナーはいない」が 43.9%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「配偶者・パートナーはいない」が 54.6%、「婚姻届を出している（法律婚）」が 26.3%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「配偶者・パートナーはいない」が 53.3%、「婚姻届を出している（法律婚）」が 30.4%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「配偶者・パートナーはいない」が 47.4%、「婚姻届を出している（法律婚）」が 34.5%であった。「トランスジェンダー」では、「婚姻届を出している（法律婚）」が 44.6%、「配偶者・パートナーはいない」が 37.6%であった。「その他」では、「配偶者・パートナーはいない」が 71.2%、「婚姻届を出している（法律婚）」が 16.0%であった。

図表Ⅳ- 15 配偶者・パートナーとの関係性：単数回答（Q14）



注) 同性のパートナーがいる場合は、選択肢③～⑥のいずれかで回答するように求めた。

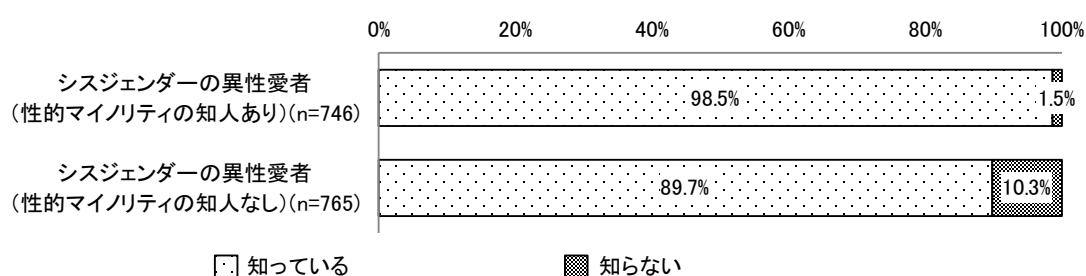
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## 2.2 性的指向・性自認に関する認知や経験

### (1) 「同じ性別の人が好きな人」や、「自分の性別に違和感があったり、性別を変えた、または変えたいと思っている人」がいることを知っているか

「シスジェンダーの異性愛者」に区分される回答者について、「同じ性別の人が好きな人」や、「自分の性別に違和感があったり、性別を変えた、または変えたいと思っている人」がいることを知っているかをみると、「知っている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では98.5%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では89.7%であった。

図表Ⅳ- 16 「同じ性別の人が好きな人」や、「自分の性別に違和感があったり、性別を変えた、または変えたいと思っている人」がいることを知っているか：単数回答（Q15）



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

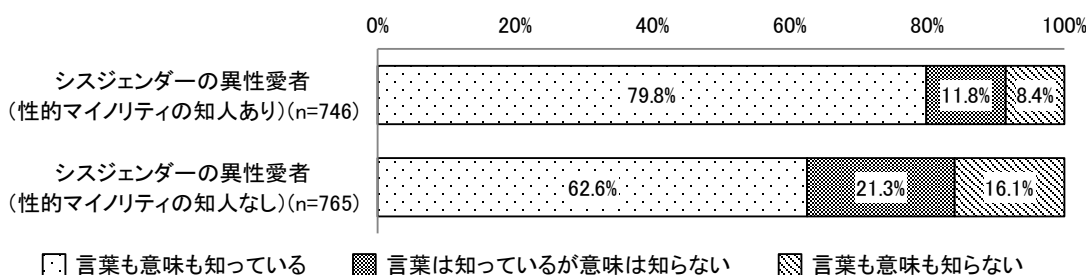
### (2) 性的指向・性自認に関する言葉の認知

「シスジェンダーの異性愛者」に区分される回答者について、性的指向・性自認に関する言葉や言葉の意味を知っているかをたずねた。

#### ① 「LGBT」という言葉やその意味を知っているか

「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では79.8%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では62.6%であった。

図表Ⅳ- 17 「LGBT」という言葉やその意味を知っているか：単数回答（Q16\_1）

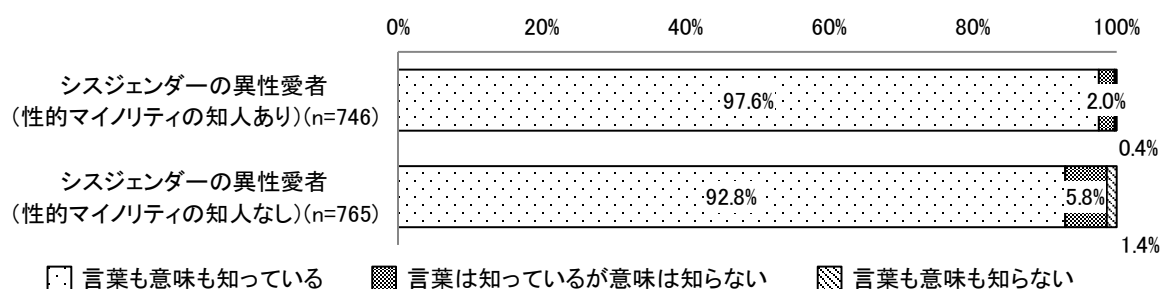


注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

## ② 「レズビアン」という言葉やその意味を知っているか

「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 97.6%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 92.8%であった。

図表Ⅳ- 18 「レズビアン」という言葉やその意味を知っているか：単数回答（Q16\_2）

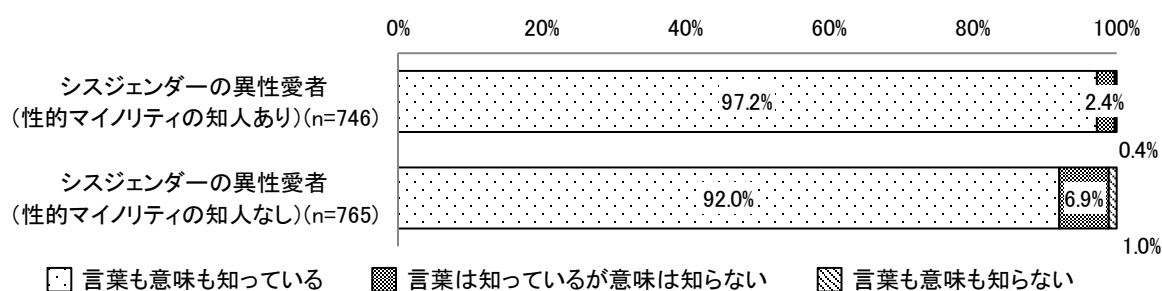


注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ③ 「ゲイ」という言葉やその意味を知っているか

「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 97.2%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 92.0%であった。

図表Ⅳ- 19 「ゲイ」という言葉やその意味を知っているか：単数回答（Q16\_3）

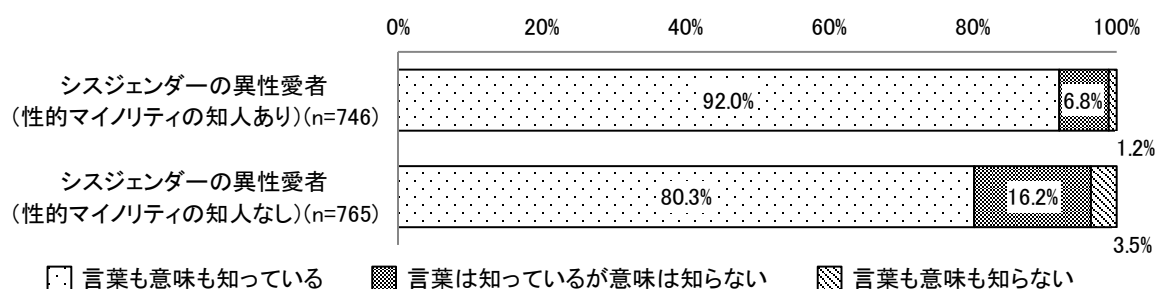


注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

#### ④ 「バイセクシュアル」という言葉やその意味を知っているか

「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 92.0%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 80.3%であった。

図表Ⅳ- 20 「バイセクシュアル」という言葉やその意味を知っているか：単数回答（Q16\_4）

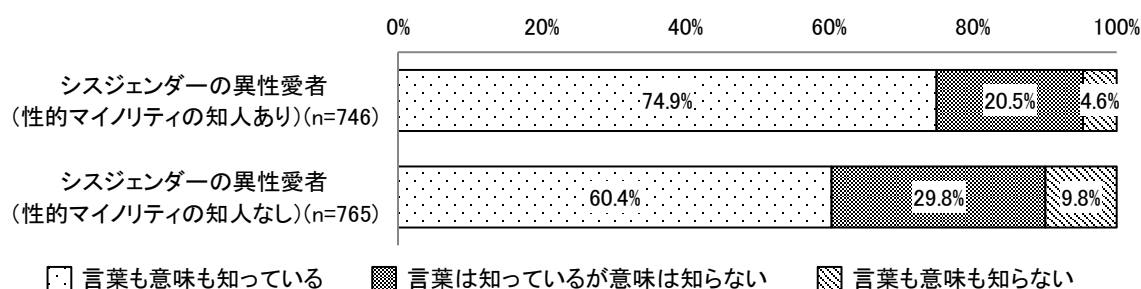


注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

#### ⑤ 「トランスジェンダー」という言葉やその意味を知っているか

「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 74.9%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 60.4%であった。

図表Ⅳ- 21 「トランスジェンダー」という言葉やその意味を知っているか：単数回答（Q16\_5）

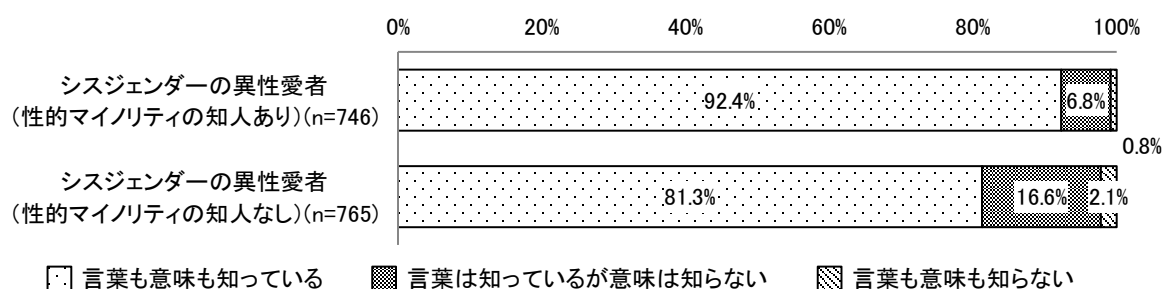


注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ⑥ 「性同一性障害」という言葉やその意味を知っているか

「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 92.4%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 81.3%であった。

図表Ⅳ- 22 「性同一性障害」という言葉やその意味を知っているか：単数回答（Q16\_6）

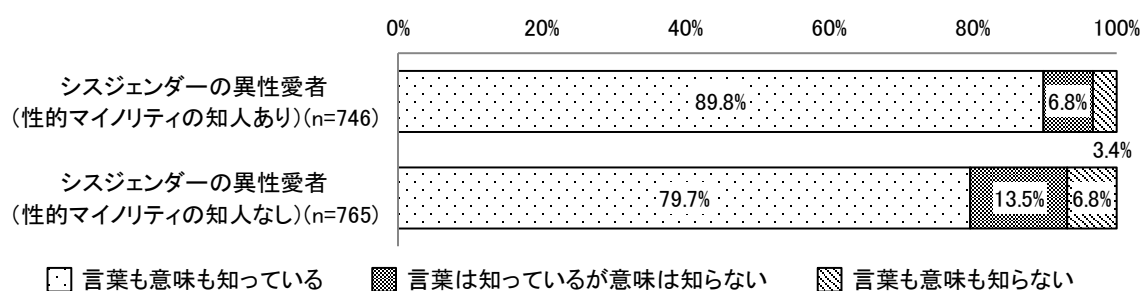


注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ⑦ 「カミングアウト」という言葉やその意味を知っているか

「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 89.8%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 79.7%であった。

図表Ⅳ- 23 「カミングアウト」という言葉やその意味を知っているか：単数回答（Q16\_7）



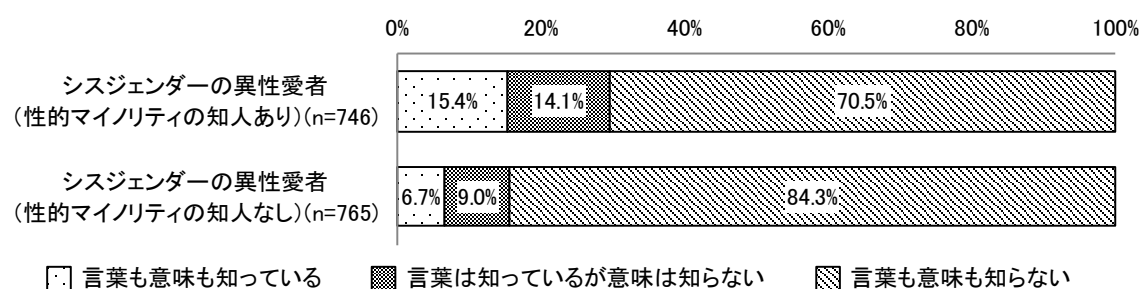
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。



## ⑧ 「アウティング」という言葉やその意味を知っているか

「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 15.4%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 6.7%であった。

図表Ⅳ- 24 「アウティング」という言葉やその意味を知っているか：単数回答（Q16\_8）

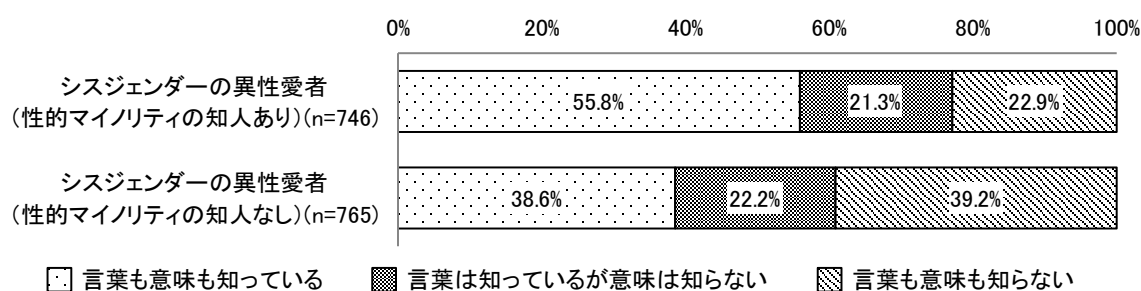


注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ⑨ 「性的指向」という言葉やその意味を知っているか

「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 55.8%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 38.6%であった。

図表Ⅳ- 25 「性的指向」という言葉やその意味を知っているか：単数回答（Q16\_9）

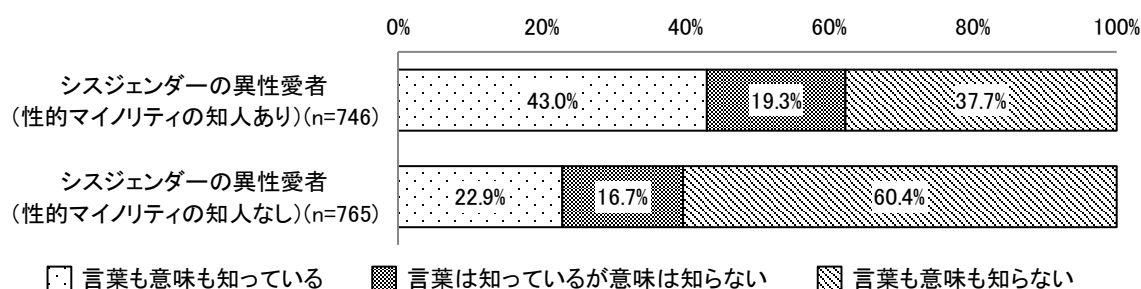


注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ⑩ 「性自認」という言葉やその意味を知っているか

「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 43.0%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 22.9%であった。

図表Ⅳ- 26 「性自認」という言葉やその意味を知っているか：単数回答（Q16\_10）

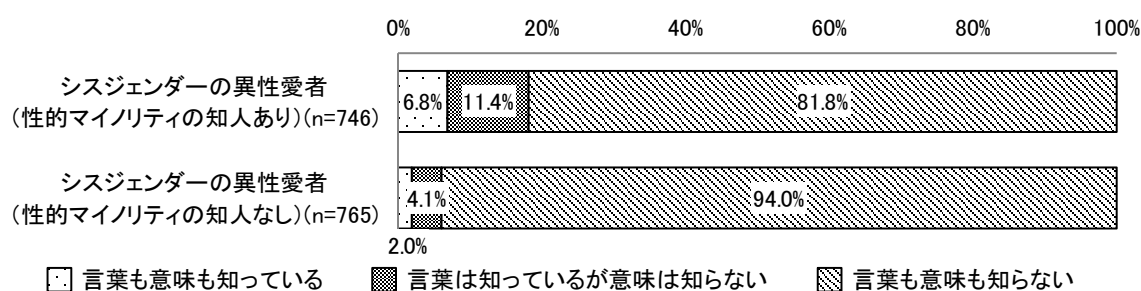


注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ⑪ 「SOGI」という言葉やその意味を知っているか

「言葉も意味も知っている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 6.8%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 2.0%であった。

図表Ⅳ- 27 「SOGI」という言葉やその意味を知っているか：単数回答（Q16\_11）

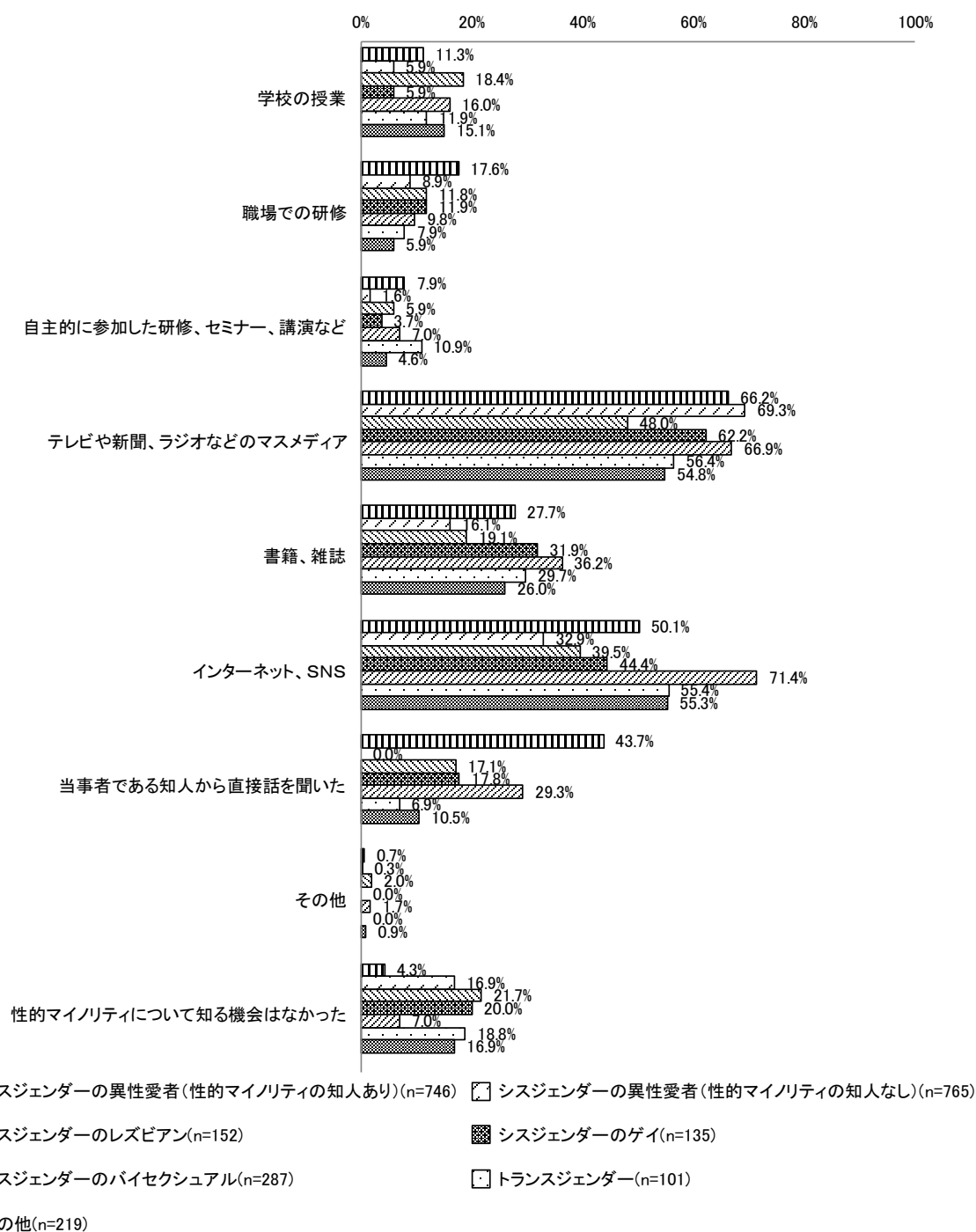


注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

### (3) これまでにあった、性的マイノリティについて知る機会

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」が66.2%、「インターネット、SNS」が50.1%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」が69.3%、「インターネット、SNS」が32.9%であった。

図表Ⅳ- 28 これまでにあった、性的マイノリティについて知る機会：複数回答（Q17）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

Q17の回答が「その他」の場合の自由回答  
(文末の【】内は、回答者区分を示す。)

- ・ 留学中の研修にて【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）】
- ・ 演劇【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）】
- ・ 海外【シスジェンダーのバイセクシュアル】

#### (4) 偏見や差別等の有無に関する認識

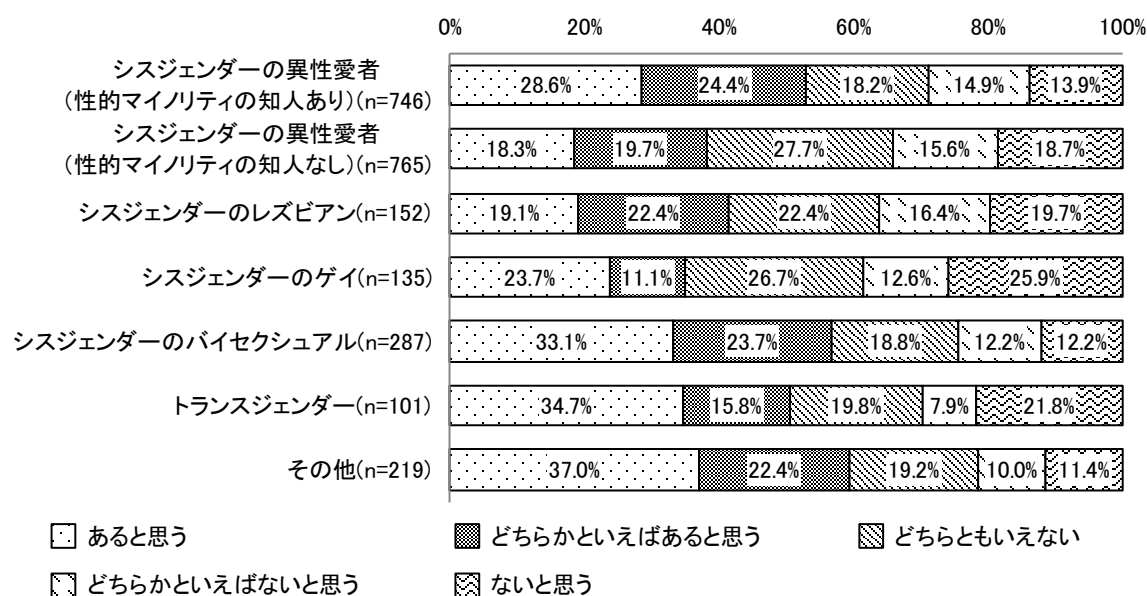
社会一般におけるダイバーシティに関する認識を問うために、様々な属性の者に対する認識をたずねた。

##### ① 「男性」に対する偏見や差別等の有無の認識

「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 28.6%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 18.3%であった。

同様に、「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 19.1%、「シスジェンダーのゲイ」では 23.7%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 33.1%、「トランスジェンダー」では 34.7%、「その他」では 37.0%であった。

図表Ⅳ- 29 「男性」に対する偏見や差別等があると思うか：単数回答（Q18\_1）



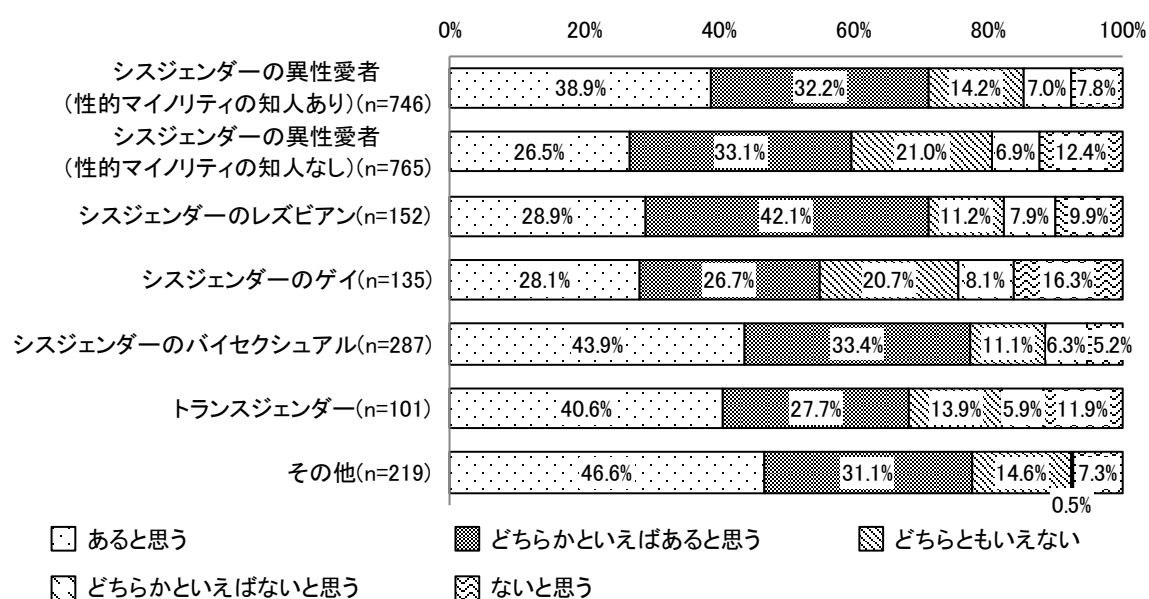
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ② 「女性」に対する偏見や差別等の有無の認識

「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 38.9%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 26.5%であった。

同様に、「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 28.9%、「シスジェンダーのゲイ」では 28.1%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 43.9%、「トランスジェンダー」では 40.6%、「その他」では 46.6%であった。

図表Ⅳ- 30 「女性」に対する偏見や差別等があると思うか：単数回答（Q18\_2）



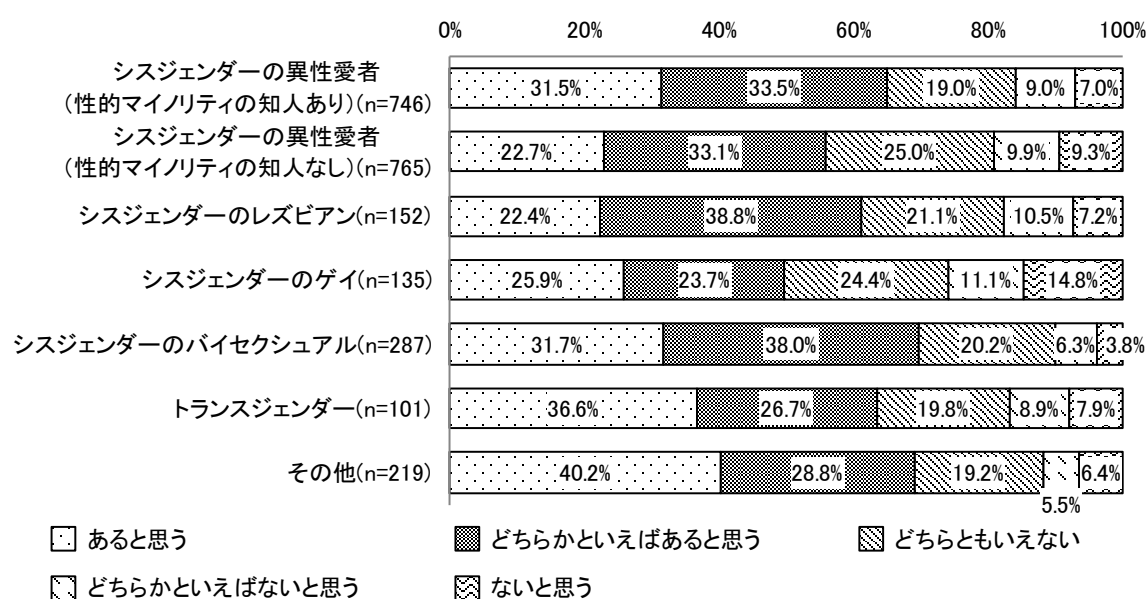
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

### ③ 「高齢者」に対する偏見や差別等の有無の認識

「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 31.5%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 22.7%であった。

同様に、「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 22.4%、「シスジェンダーのゲイ」では 25.9%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 31.7%、「トランスジェンダー」では 36.6%、「その他」では 40.2%であった。

図表Ⅳ- 31 「高齢者」に対する偏見や差別等があると思うか：単数回答（Q18\_3）



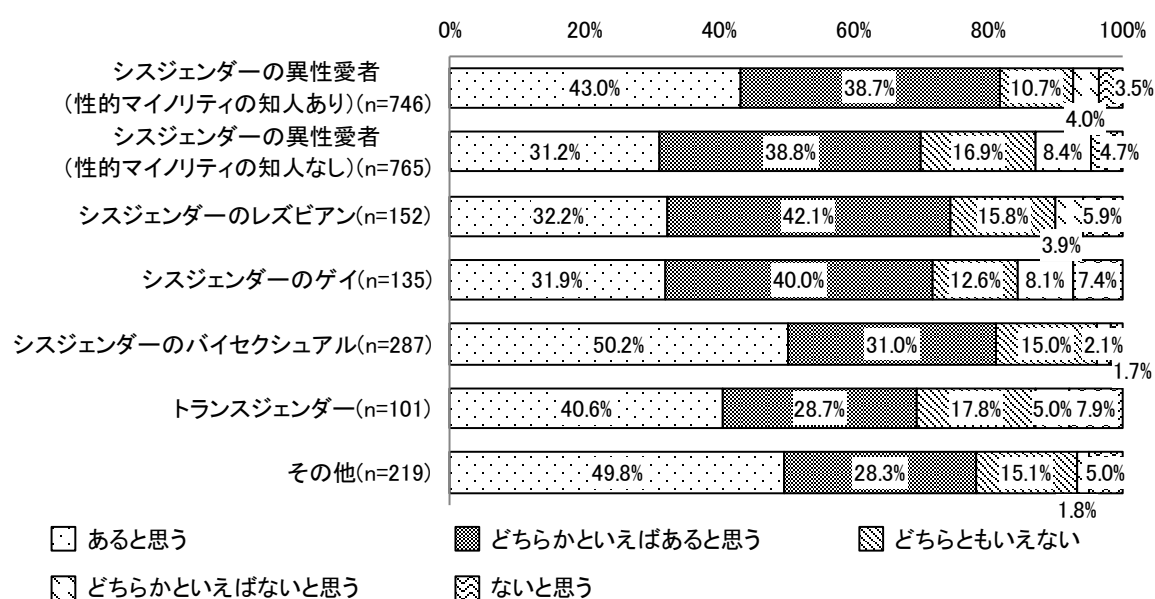
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

#### ④ 「外国人」に対する偏見や差別等の有無の認識

「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 43.0%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 31.2%であった。

同様に、「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 32.2%、「シスジェンダーのゲイ」では 31.9%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 50.2%、「トランスジェンダー」では 40.6%、「その他」では 49.8%であった。

図表Ⅳ- 32 「外国人」に対する偏見や差別等があると思うか：単数回答（Q18\_4）



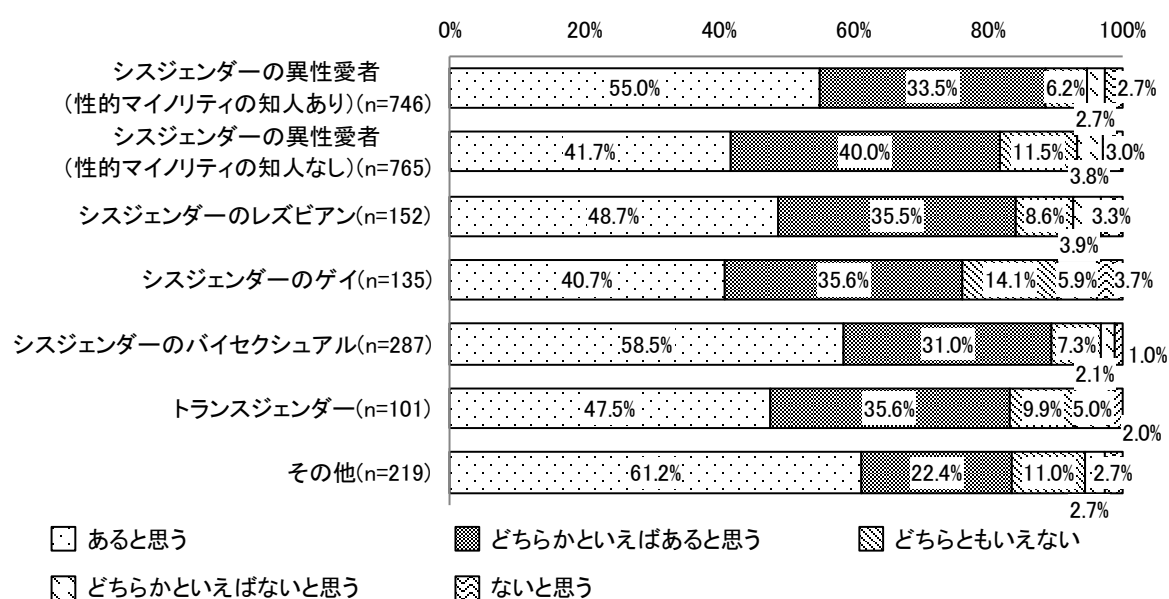
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ⑤ 「障がい者」に対する偏見や差別等の有無の認識

「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 55.0%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 41.7%であった。

同様に、「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 48.7%、「シスジェンダーのゲイ」では 40.7%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 58.5%、「トランスジェンダー」では 47.5%、「その他」では 61.2%であった。

図表Ⅳ- 33 「障がい者」に対する偏見や差別等があると思うか：単数回答（Q18\_5）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

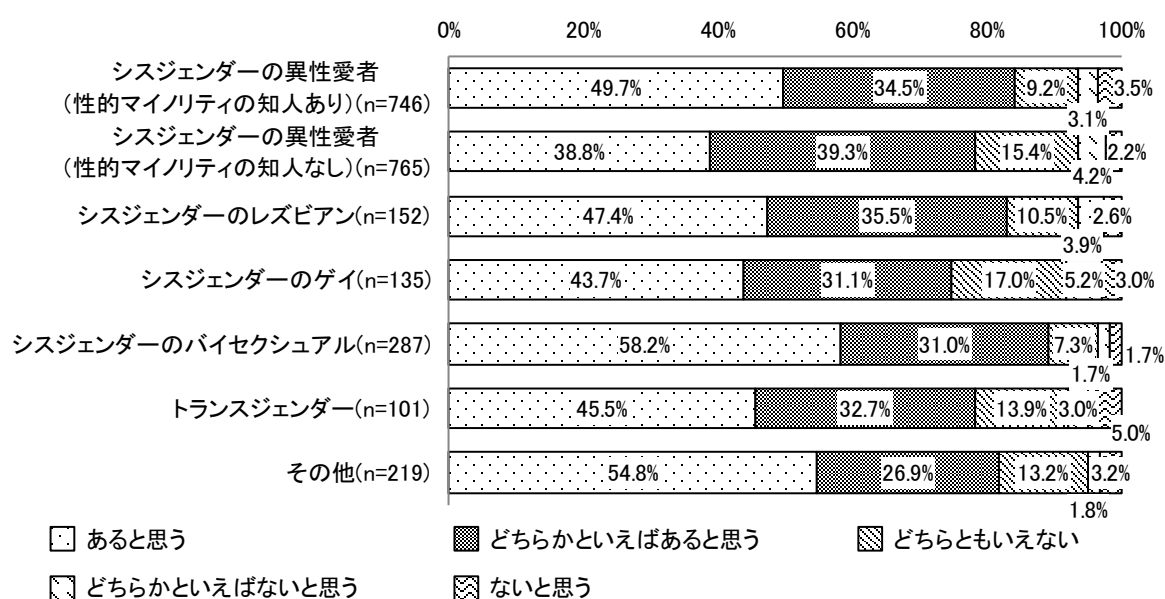


## ⑥ 「レズビアン」に対する偏見や差別等の有無の認識

「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 49.7%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 38.8%であった。

同様に、「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 47.4%、「シスジェンダーのゲイ」では 43.7%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 58.2%、「トランスジェンダー」では 45.5%、「その他」では 54.8%であった。

図表Ⅳ- 34 「レズビアン」に対する偏見や差別等があると思うか：単数回答（Q18\_6）



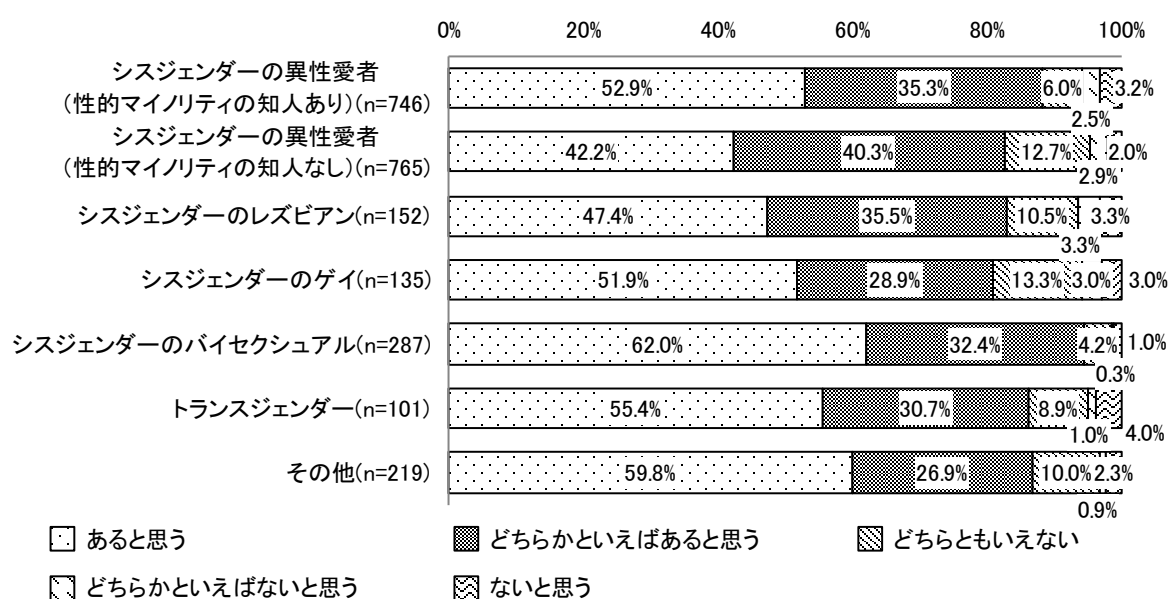
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ⑦ 「ゲイ」に対する偏見や差別等の有無の認識

「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 52.9%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 42.2%であった。

同様に、「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 47.4%、「シスジェンダーのゲイ」では 51.9%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 62.0%、「トランスジェンダー」では 55.4%、「その他」では 59.8%であった。

図表Ⅳ- 35 「ゲイ」に対する偏見や差別等があると思うか：単数回答（Q18\_7）



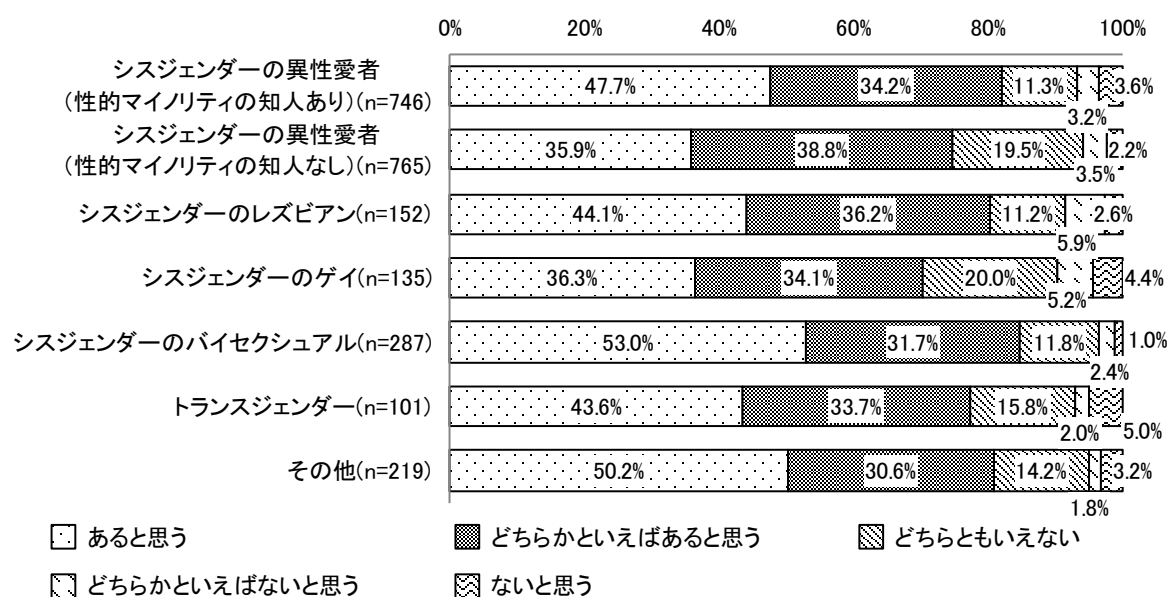
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ⑧ 「バイセクシュアル」に対する偏見や差別等の有無の認識

「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 47.7%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 35.9%であった。

同様に、「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 44.1%、「シスジェンダーのゲイ」では 36.3%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 53.0%、「トランスジェンダー」では 43.6%、「その他」では 50.2%であった。

図表Ⅳ- 36 「バイセクシュアル」に対する偏見や差別等があると思うか：単数回答（Q18\_8）



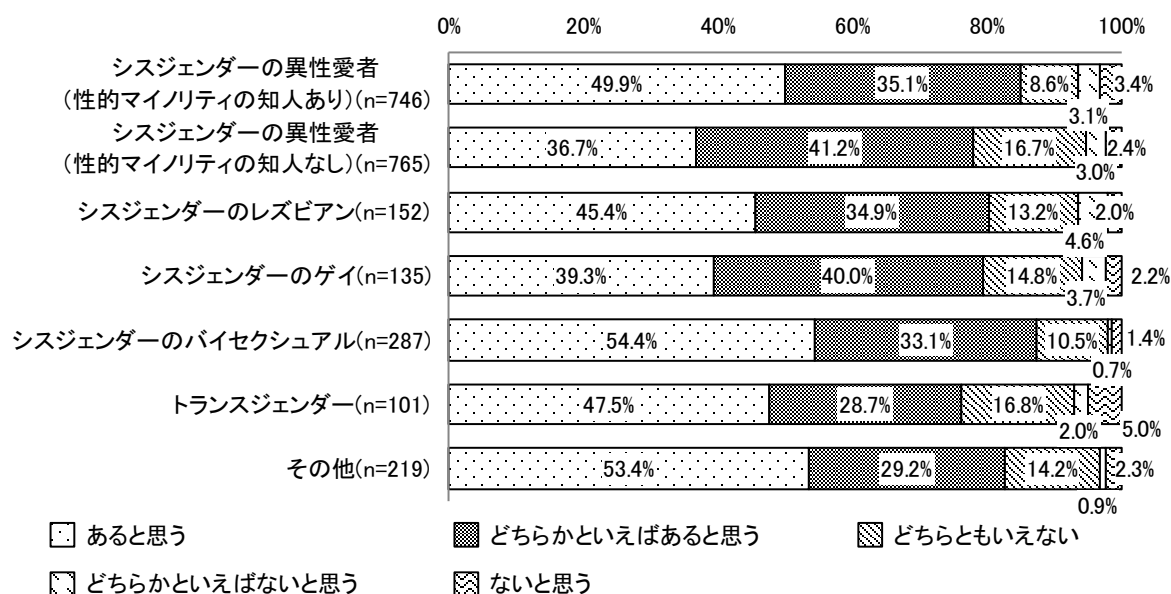
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

# ⑨ 「トランスジェンダー」に対する偏見や差別等の有無の認識

「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 49.9%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 36.7%であった。

同様に、「あると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 45.4%、「シスジェンダーのゲイ」では 39.3%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 54.4%、「トランスジェンダー」では 47.5%、「その他」では 53.4%であった。

図表Ⅳ- 37 「トランスジェンダー」に対する偏見や差別等があると思うか：単数回答  
(Q18\_9)



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

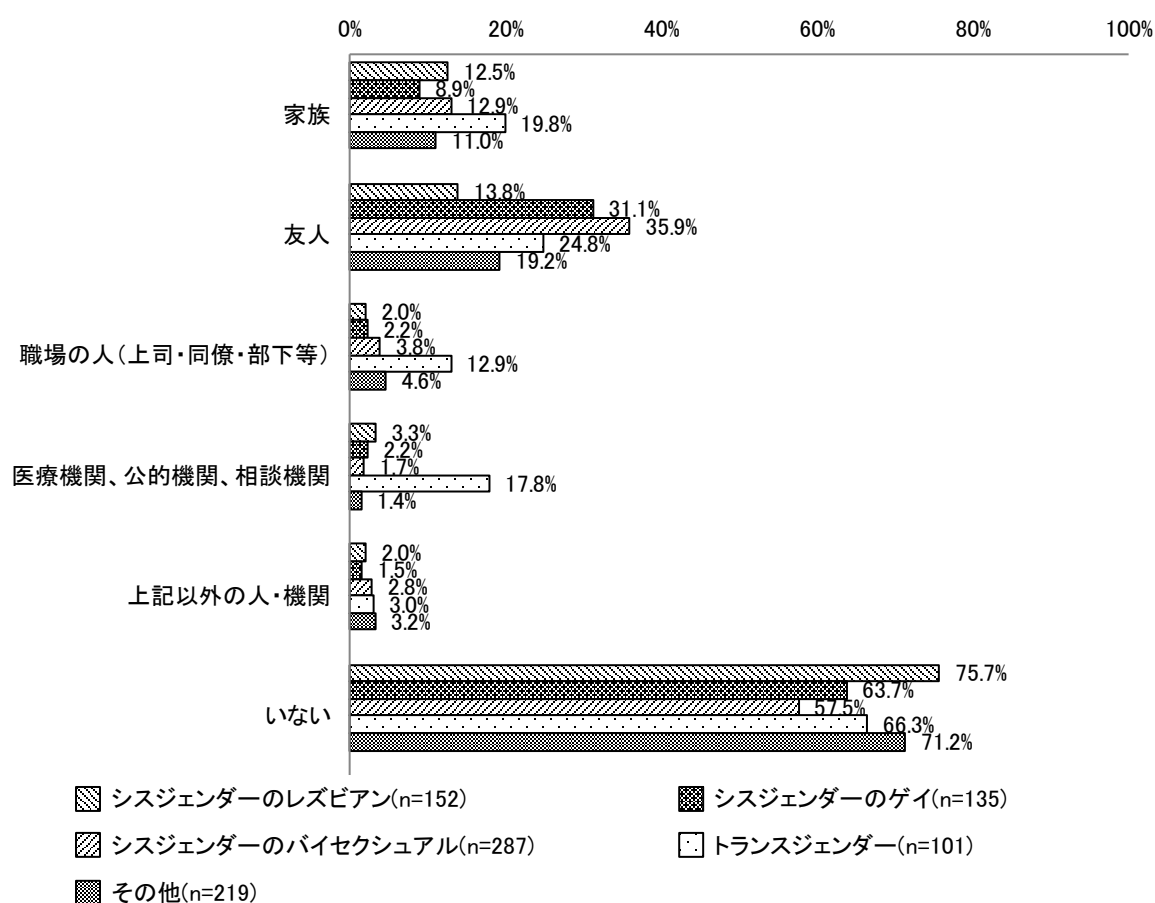
## (5) 自身が性的マイノリティであることを伝えているか

「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者について、自身が性的マイノリティであることを伝えているかをたずねた。

### ① 伝えている相手

「シスジェンダーのレズビアン」では、「友人」が13.8%、「家族」が12.5%、「いない」が75.7%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「友人」が31.1%、「家族」が8.9%、「いない」が63.7%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「友人」が35.9%、「家族」が12.9%、「いない」が57.5%であった。「トランスジェンダー」では、「友人」が24.8%、「家族」が19.8%、「いない」が66.3%であった。「その他」では、「友人」が19.2%、「家族」が11.0%、「いない」が71.2%であった。

図表Ⅳ- 38 自身が性的マイノリティであることを伝えている相手：複数回答（Q19\_1）

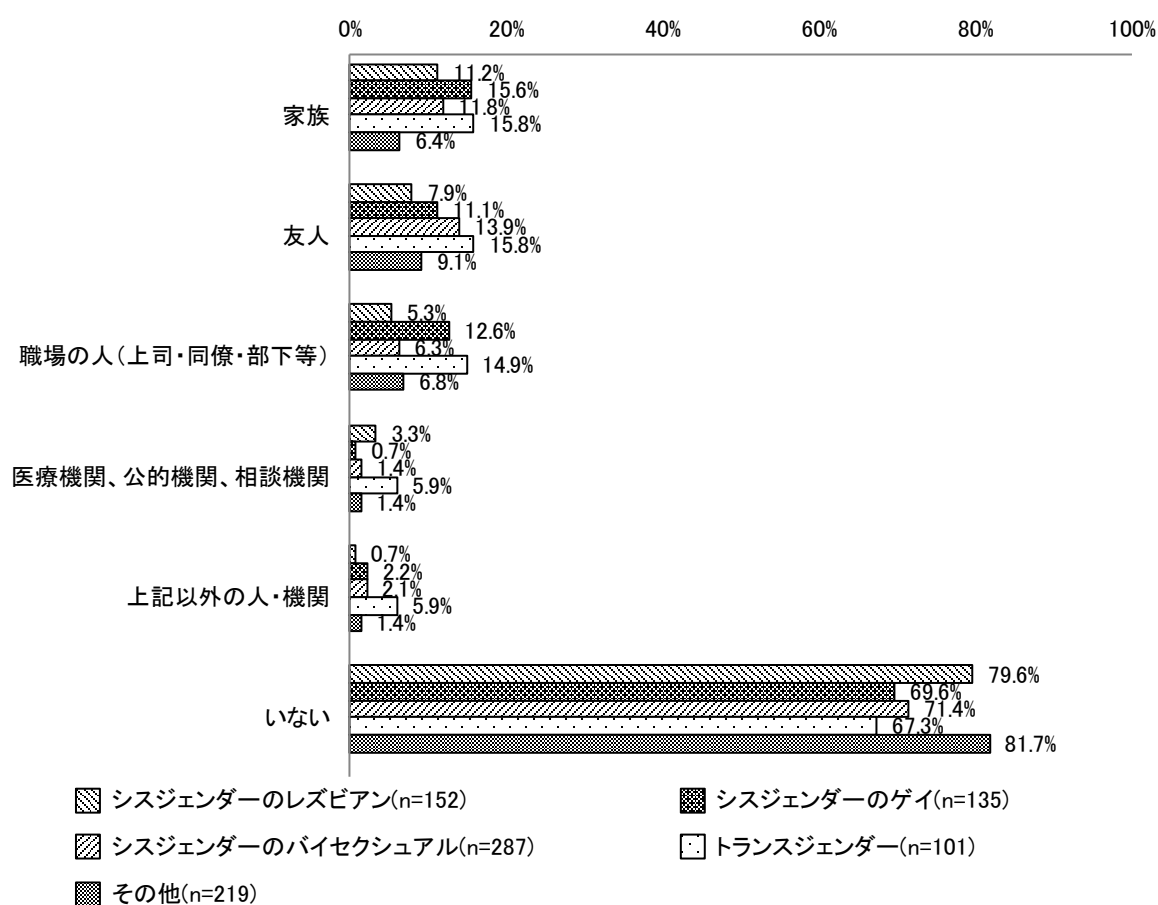


注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ② 伝えていないが、知られていると思う相手

「シスジェンダーのレズビアン」では、「家族」が11.2%、「友人」が7.9%、「いない」が79.6%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「家族」が15.6%、「職場の人（上司・同僚・部下等）」が12.6%、「いない」が69.6%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「友人」が13.9%、「家族」が11.8%、「いない」が71.4%であった。「トランスジェンダー」では、「家族」、「友人」がそれぞれ15.8%、「いない」が67.3%であった。「その他」では、「友人」が9.1%、「職場の人（上司・同僚・部下等）」が6.8%、「いない」が81.7%であった。

図表Ⅳ- 39 自身が性的マイノリティであることを伝えていないが、自身が性的マイノリティであることを知られていると思う相手：複数回答（Q19\_2）



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

### ③ 理解を得られている相手

自身が性的マイノリティであることを伝えている、または伝えていないが、知られていると思う相手がいる場合に、理解を得られているかをみたところ、「シスジェンダーのレズビアン」では、「友人」が 50.0%、「家族」が 45.2%であった。

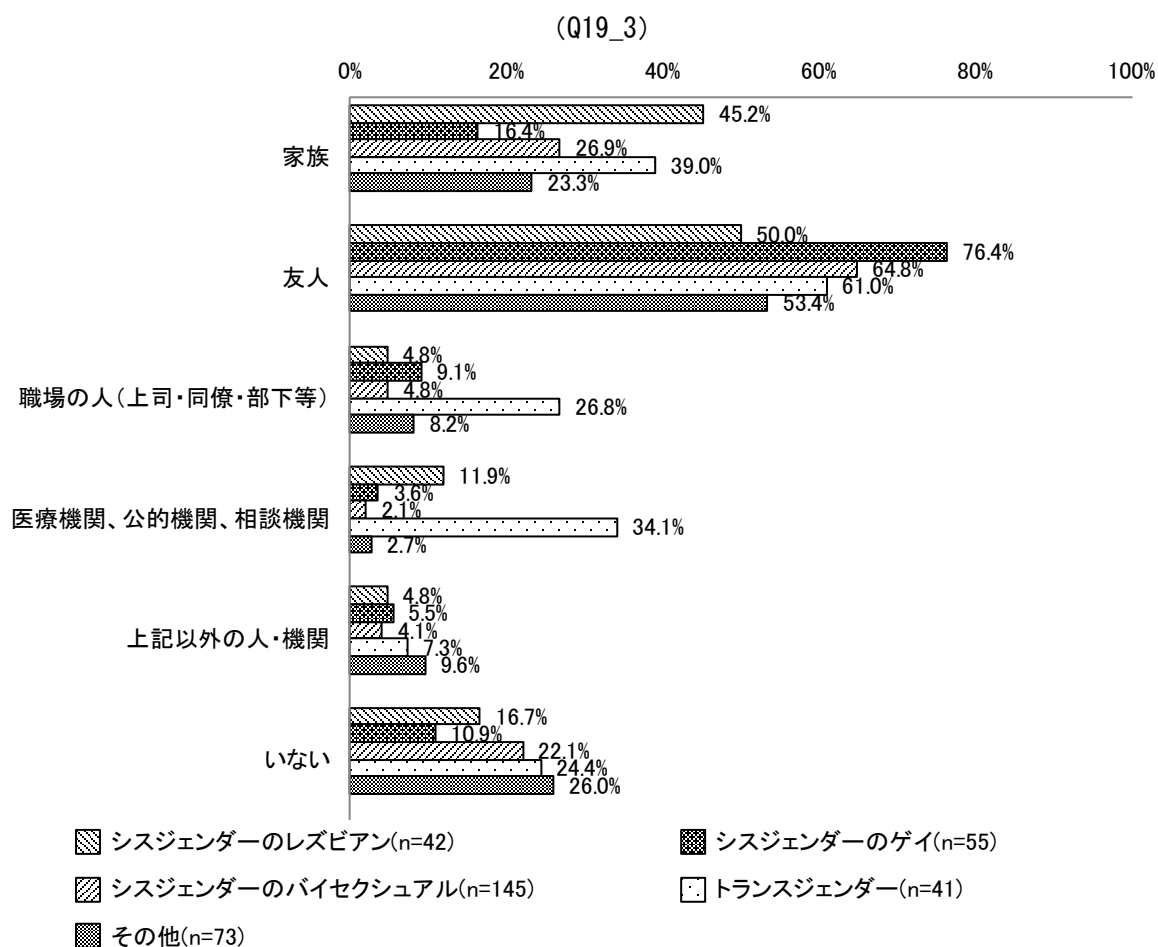
「シスジェンダーのゲイ」では、「友人」が 76.4%、「家族」が 16.4%であった。

「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「友人」が 64.8%、「家族」が 26.9%であった。

「トランスジェンダー」では、「友人」が 61.0%、「家族」が 39.0%であった。

「その他」では、「友人」が 53.4%、「家族」が 23.3%であった。

図表Ⅳ- 40 自身が性的マイノリティであることについて理解を得られている相手：複数回答



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

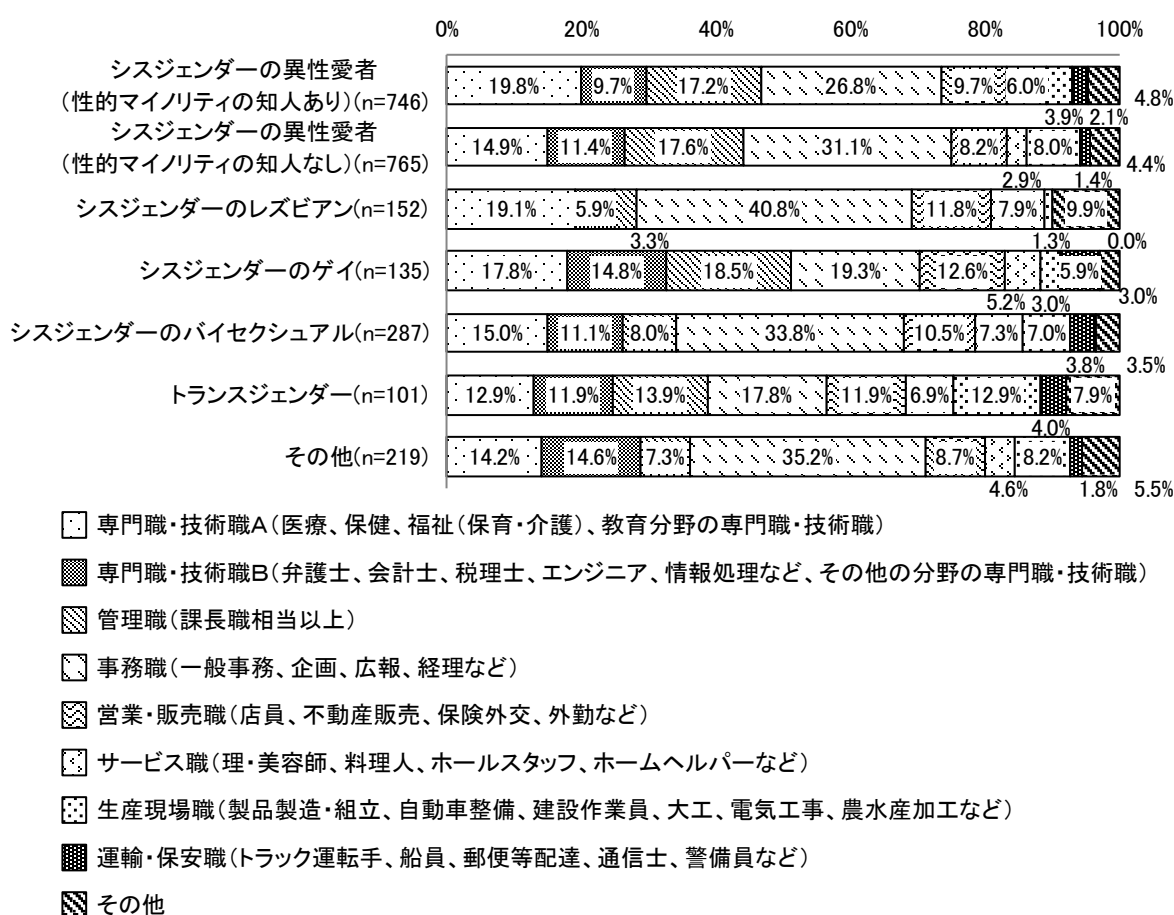
## 2.3 現在の仕事や職場について

### (1) 勤務先での仕事の内容

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「事務職」が26.8%、「専門職・技術職A」が19.8%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「事務職」が31.1%、「管理職（課長職相当以上）」が17.6%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「事務職」が40.8%、「専門職・技術職A」が19.1%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「事務職」が19.3%、「管理職（課長職相当以上）」が18.5%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「事務職」が33.8%、「専門職・技術職A」が15.0%であった。「トランスジェンダー」では、「事務職」が17.8%、「管理職」が13.9%であった。「その他」では、「事務職」が35.2%、「専門職・技術職B」が14.6%であった。

図表Ⅳ- 41 勤務先での仕事の内容：単数回答（Q20）



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

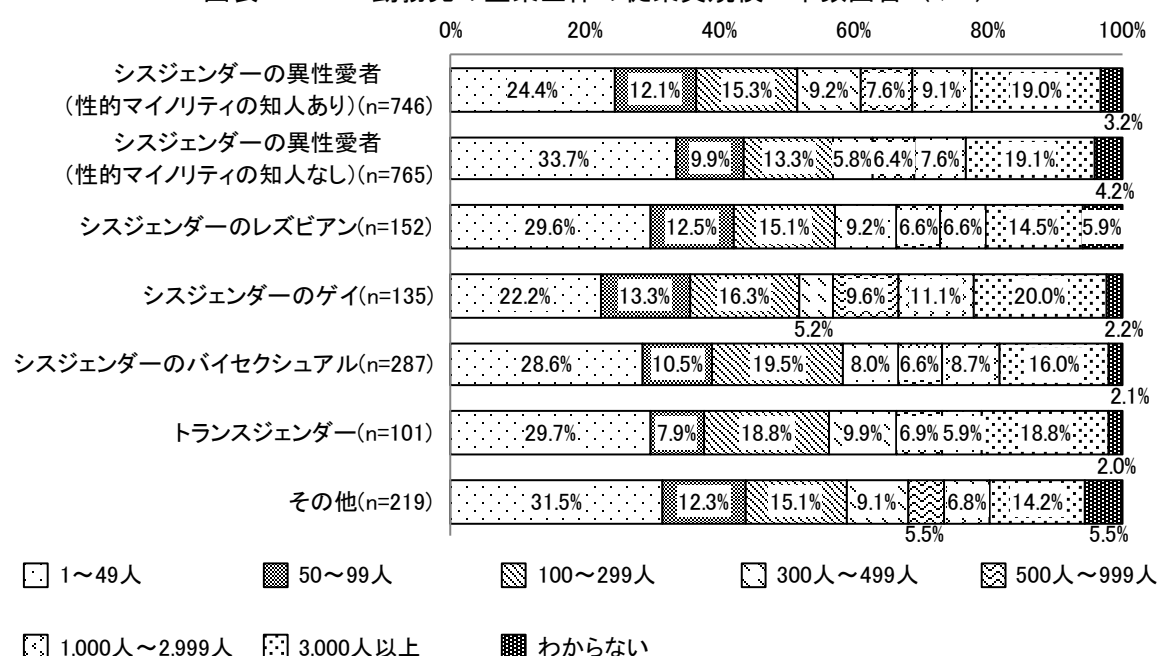


## (2) 勤務先の企業全体の従業員規模

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「1～49 人」が 24.4%、「3,000 人以上」が 19.0%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「1～49 人」が 33.7%、「3,000 人以上」が 19.1%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「1～49 人」が 29.6%、「100～299 人」が 15.1%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「1～49 人」が 22.2%、「3,000 人以上」が 20.0%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「1～49 人」が 28.6%、「100～299 人」が 19.5%であった。「トランスジェンダー」では、「1～49 人」が 29.7%、「100～299 人」、「3,000 人以上」がそれぞれ 18.8%であった。「その他」では、「1～49 人」が 31.5%、「100～299 人」が 15.1%であった。

図表Ⅳ- 42 勤務先の企業全体の従業員規模：単数回答（Q21）



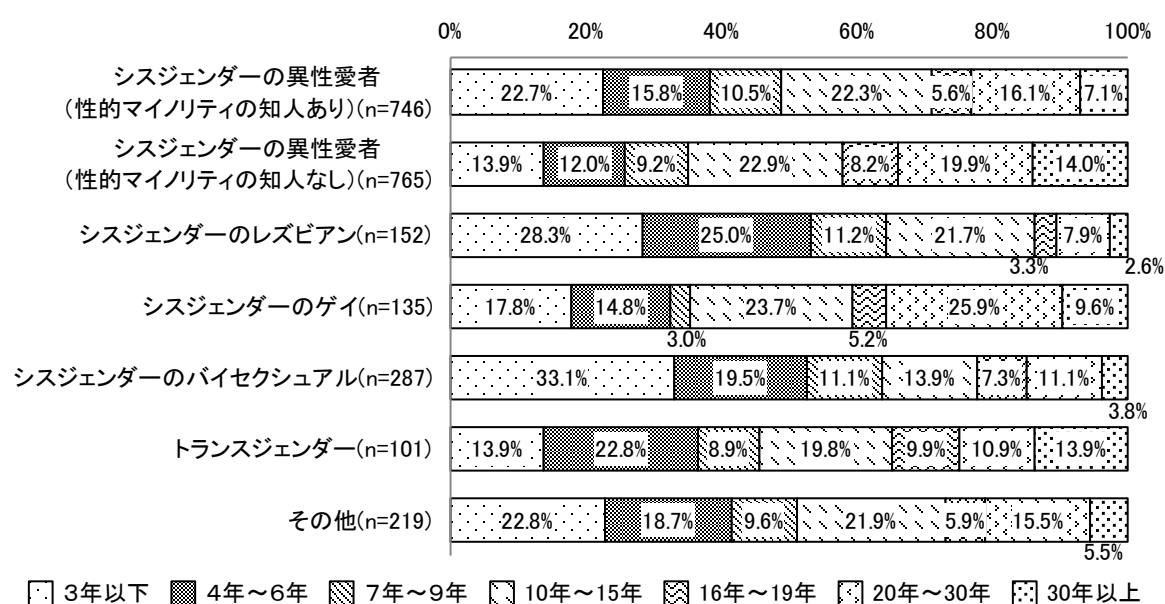
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

### (3) 現在の勤務先での勤続年数

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「3年以下」が22.7%、「10年～15年」が22.3%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「10年～15年」が22.9%、「20年～30年」が19.9%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「3年以下」が28.3%、「4年～6年」が25.0%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「20年～30年」が25.9%、「10年～15年」が23.7%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「3年以下」が33.1%、「4年～6年」が19.5%であった。「トランスジェンダー」では、「4年～6年」が22.8%、「10年～15年」が19.8%であった。「その他」では、「3年以下」が22.8%、「10年～15年」が21.9%であった。

表IV- 43 現在の勤務先での勤続年数：数値回答（Q22）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp. 100を参照のこと。

図表IV- 44 現在の勤務先での勤続年数に関する基本統計量：数値回答（Q22）

単位：年

|                             | n   | 平均   | 標準偏差 | 最大値 | 最小値 | 中央値 |
|-----------------------------|-----|------|------|-----|-----|-----|
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり） | 746 | 12.0 | 9.7  | 42  | 0   | 10  |
| シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし） | 765 | 15.4 | 10.8 | 46  | 0   | 14  |
| シスジェンダーのレズビアン               | 152 | 8.6  | 7.6  | 37  | 0   | 6   |
| シスジェンダーのゲイ                  | 135 | 14.3 | 10.2 | 42  | 0   | 13  |
| シスジェンダーのバイセクシュアル            | 287 | 9.3  | 8.6  | 45  | 0   | 6   |
| トランスジェンダー                   | 101 | 13.3 | 10.1 | 38  | 1   | 10  |
| その他                         | 219 | 11.1 | 9.3  | 47  | 0   | 9   |

#### (4) いまの職場でどの性別として働いているか

「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者について、いまの職場でどの性別として働いているかをたずねたところ、「シスジェンダーのレズビアン」では、「女性」が 98.0%、「男性」が 1.3%であった。

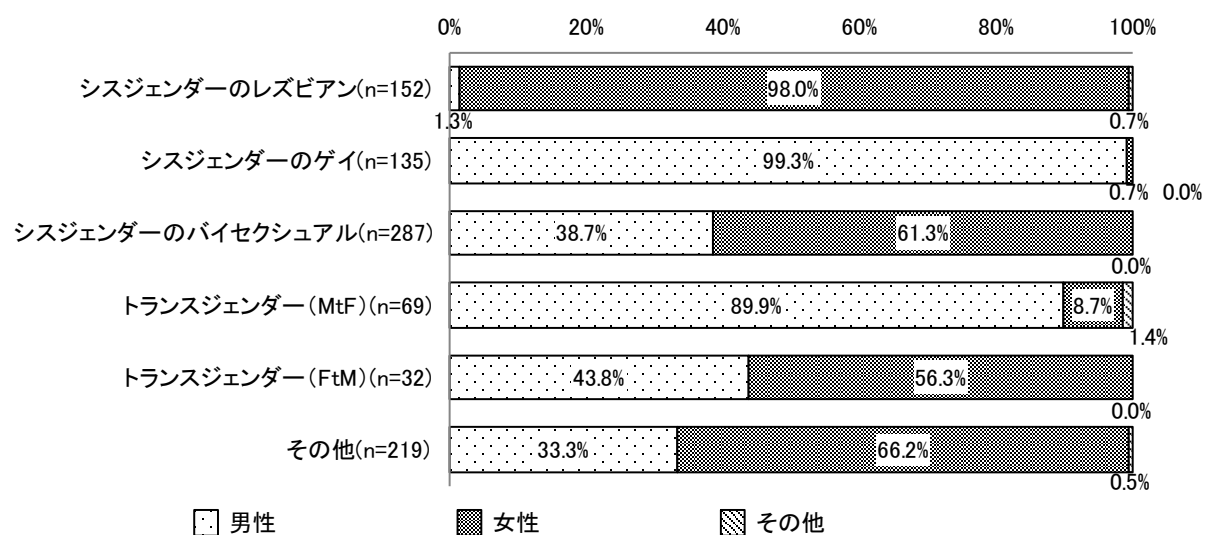
「シスジェンダーのゲイ」では、「男性」が 99.3%、「女性」が 0.7%であった。

「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「男性」が 38.7%、「女性」が 61.3%であった。

「トランスジェンダー (MtF)」では「男性」が 89.9%、「女性」が 8.7%であり、「トランスジェンダー (FtM)」では「男性」が 43.8%、「女性」が 56.3%であった。

「その他」では、「男性」が 33.3%、「女性」が 66.2%であった。

図表Ⅳ- 45 いまの職場でどの性別として働いているか：単数回答 (Q23)



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別 (Q1)、性自認 (Q2)、性的指向 (Q3)、性的マイノリティの知人等の有無 (Q7) への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

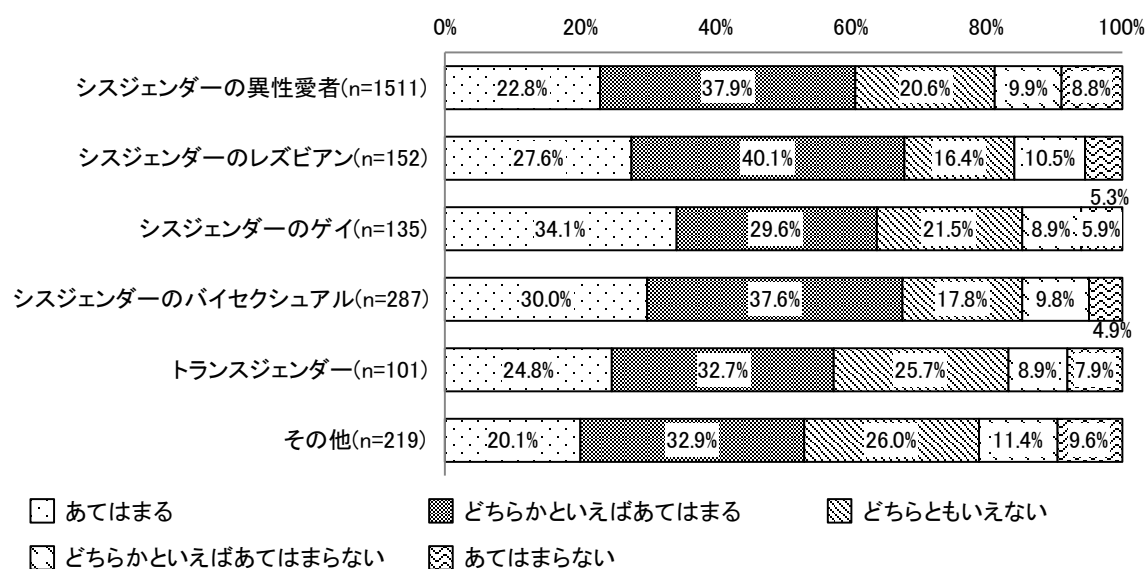
注) 「トランスジェンダー (MtF)」は、出生届に記載された性別 (Q1) が「男性」で、性自認 (Q2) が「女性」の回答者を表す。また、「トランスジェンダー (FtM)」は、出生届に記載された性別 (Q1) が「女性」で、性自認 (Q2) が「男性」の回答者を表す。

## (5) いまの職場で働くことに関する意識

### ① いまの職場が働きやすいと感じているか

「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では22.8%であった。  
同様に、「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では27.6%、「シスジェンダーのゲイ」では34.1%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では30.0%、「トランスジェンダー」では24.8%、「その他」では20.1%であった。

図表IV- 46 いまの職場が働きやすいと感じている：単数回答（Q24\_1）

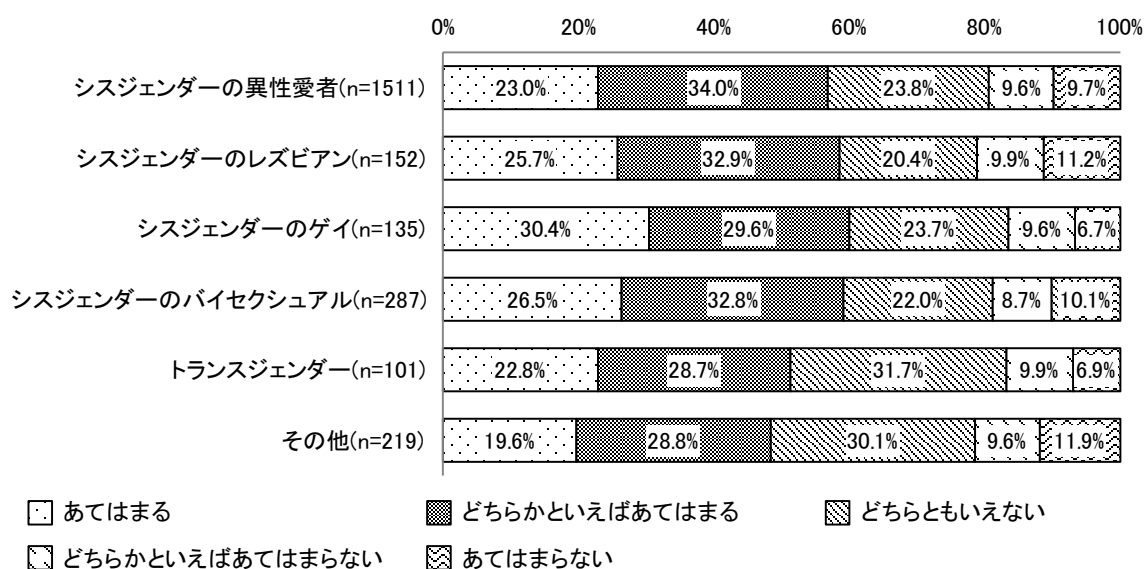


注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

## ② これからもいまの職場で働き続けたいと思うか

「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では23.0%であった。同様に、「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では25.7%、「シスジェンダーのゲイ」では30.4%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では26.5%、「トランスジェンダー」では22.8%、「その他」では19.6%であった。

図表IV- 47 これからもいまの職場で働き続けたいと思う：単数回答（Q24\_2）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

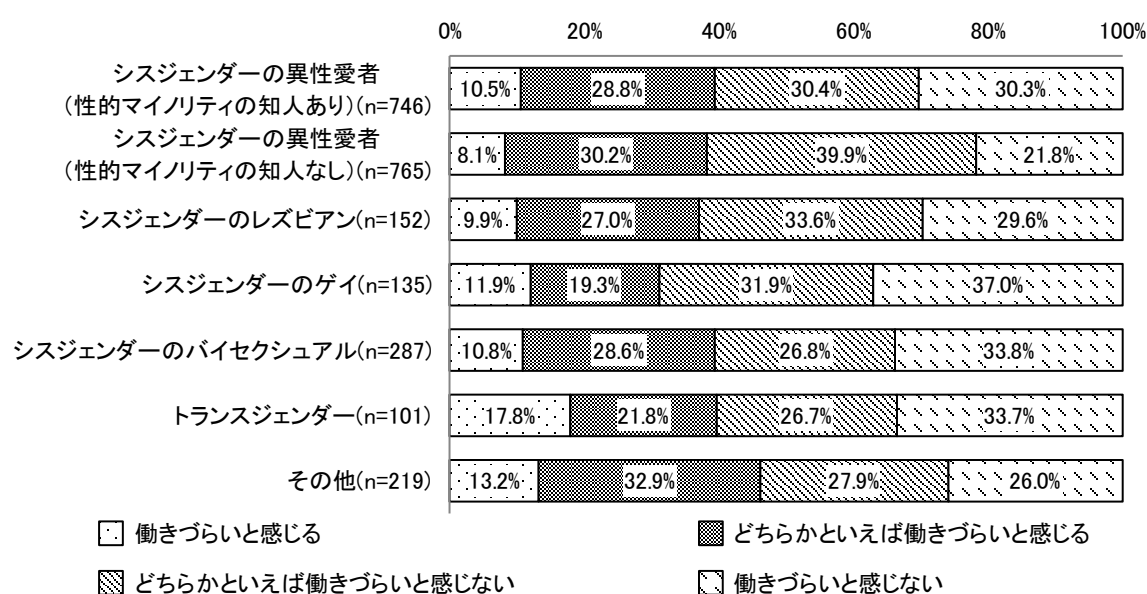
## (6) 多様な属性の人々といっしょに働くことに関する意識

### ① 高齢者と働くことに関する意識

「働きづらいと感じない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 30.3%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 21.8%であった。

同様に、「働きづらいと感じない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 29.6%、「シスジェンダーのゲイ」では 37.0%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 33.8%、「トランスジェンダー」では 33.7%、「その他」では 26.0%であった。

図表IV- 48 高齢者といっしょに働くことが働きづらいと感じるか：単数回答（Q25\_1）



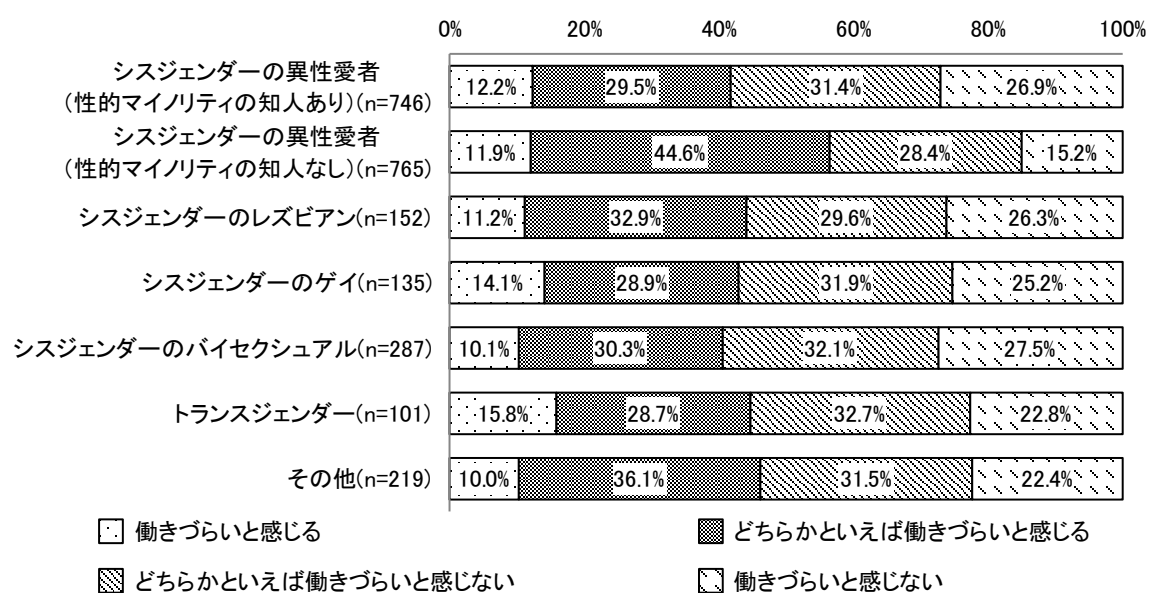
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ② 外国人と働くことに関する意識

「働きづらいと感じない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 26.9%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 15.2%であった。

同様に、「働きづらいと感じない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 26.3%、「シスジェンダーのゲイ」では 25.2%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 27.5%、「トランスジェンダー」では 22.8%、「その他」では 22.4%であった。

図表Ⅳ- 49 外国人といっしょに働くことが働きづらいと感じるか：単数回答（Q25\_2）



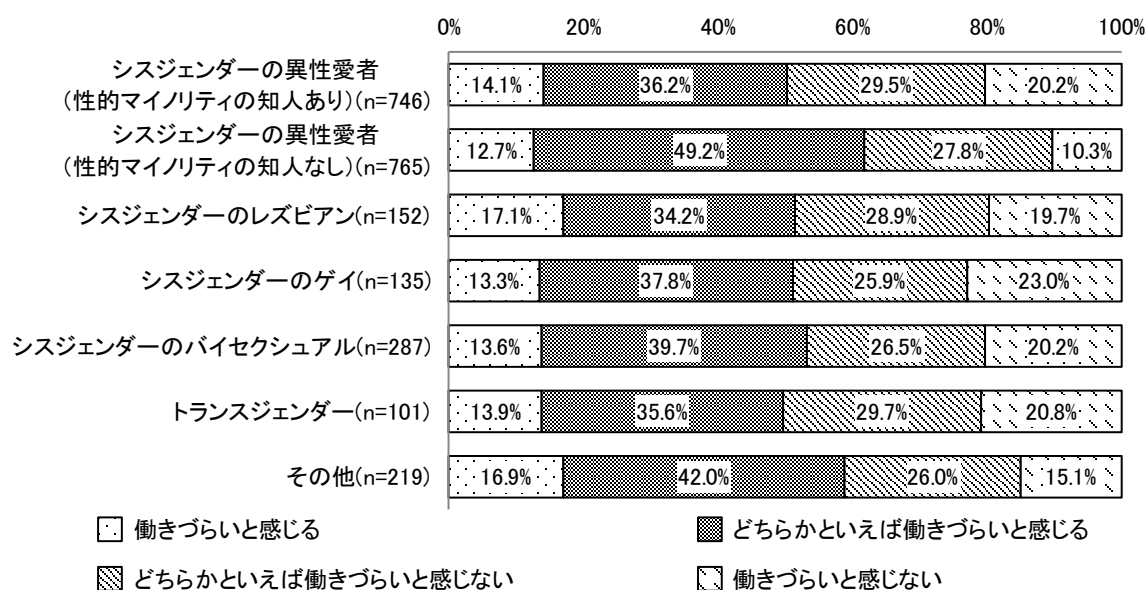
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

### ③ 障がいを持った人と働くことに関する意識

「働きづらいと感じない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 20.2%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 10.3%であった。

同様に、「働きづらいと感じない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 19.7%、「シスジェンダーのゲイ」では 23.0%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 20.2%、「トランスジェンダー」では 20.8%、「その他」では 15.1%であった。

図表Ⅳ- 50 障がいを持った人といっしょに働くことが働きづらいと感じるか：単数回答  
(Q25\_3)



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

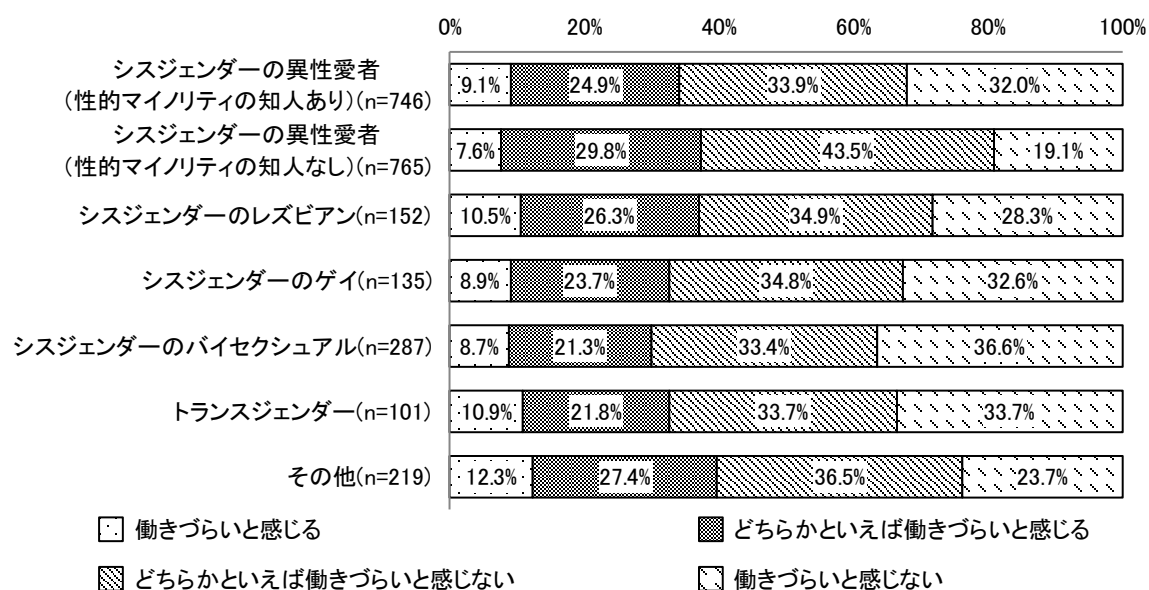


#### ④ 育児をしながら働いている人と働くことに関する意識

「働きづらいと感じない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 32.0%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 19.1%であった。

同様に、「働きづらいと感じない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 28.3%、「シスジェンダーのゲイ」では 32.6%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 36.6%、「トランスジェンダー」では 33.7%、「その他」では 23.7%であった。

図表Ⅳ- 51 育児をしながら働いている人といっしょに働くことが働きづらいと感じるか：単数回答（Q25\_4）



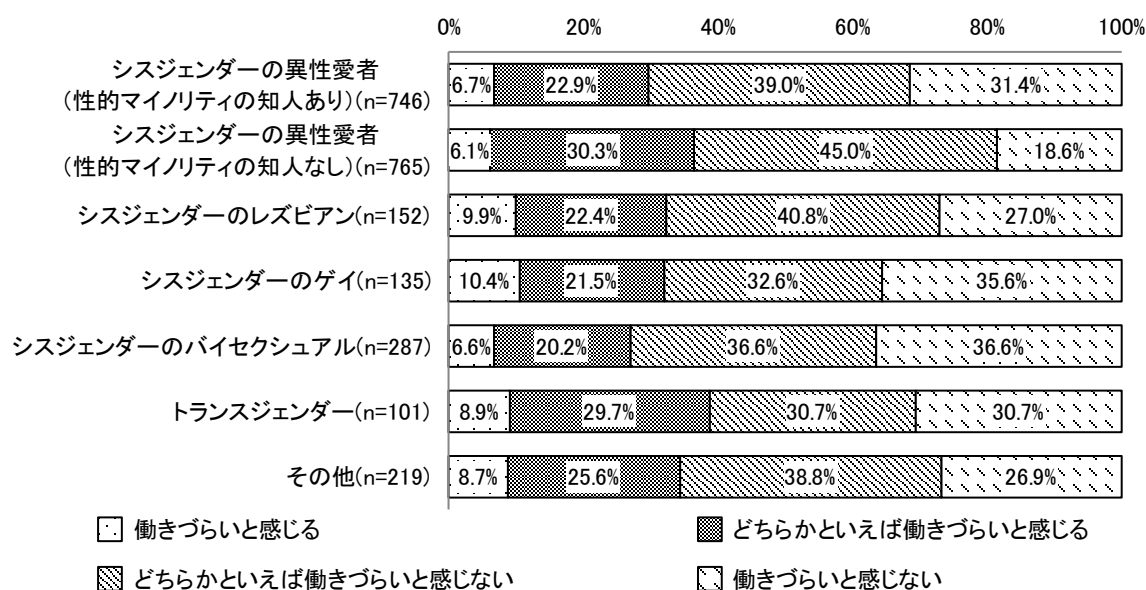
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ⑤ 介護をしながら働いている人と働くことに関する意識

「働きづらいと感じない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 31.4%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 18.6%であった。

同様に、「働きづらいと感じない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 27.0%、「シスジェンダーのゲイ」では 35.6%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 36.6%、「トランスジェンダー」では 30.7%、「その他」では 26.9%であった。

図表Ⅳ- 52 介護をしながら働いている人といっしょに働くことが働きづらいと感じるか：単数回答 (Q25\_5)



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

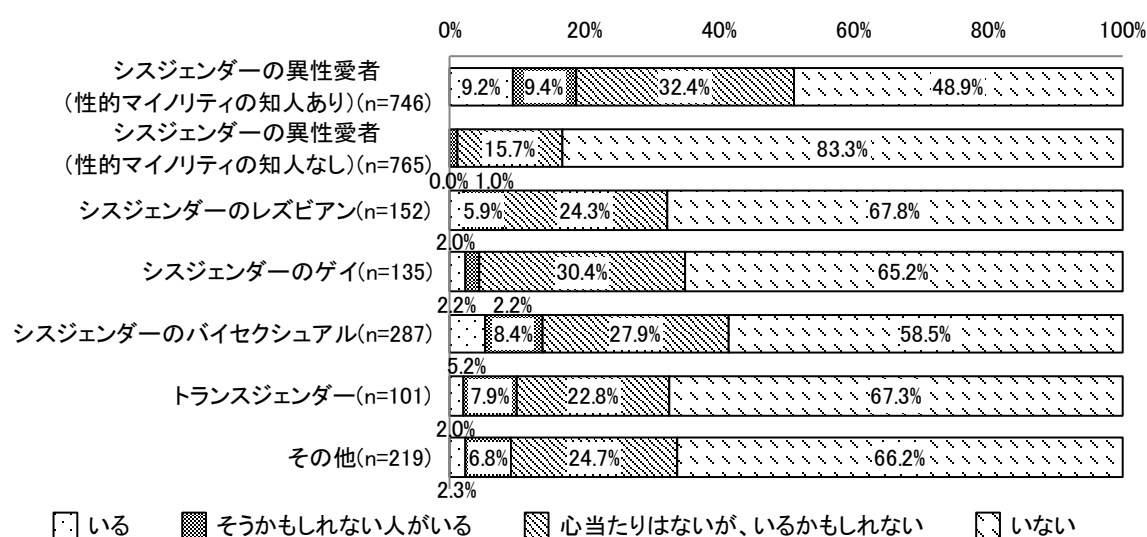
## (7) いまの職場の性的マイノリティに関する認知

### ① いまの職場に「レズビアン」がいるか

「いる」、「そうかもしれない人がある」、「心当たりはないが、いるかもしれない」のいずれかと回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者(性的マイノリティの知人あり)」では51.0%、「シスジェンダーの異性愛者(性的マイノリティの知人なし)」では16.7%であった。

同様に、「いる」、「そうかもしれない人がある」、「心当たりはないが、いるかもしれない」のいずれかを選んだ人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では32.2%、「シスジェンダーのゲイ」では34.8%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では41.5%、「トランスジェンダー」では32.7%、「その他」では33.8%であった。

図表Ⅳ- 53 いまの職場に「レズビアン」がいるか：単数回答 (Q26\_1)



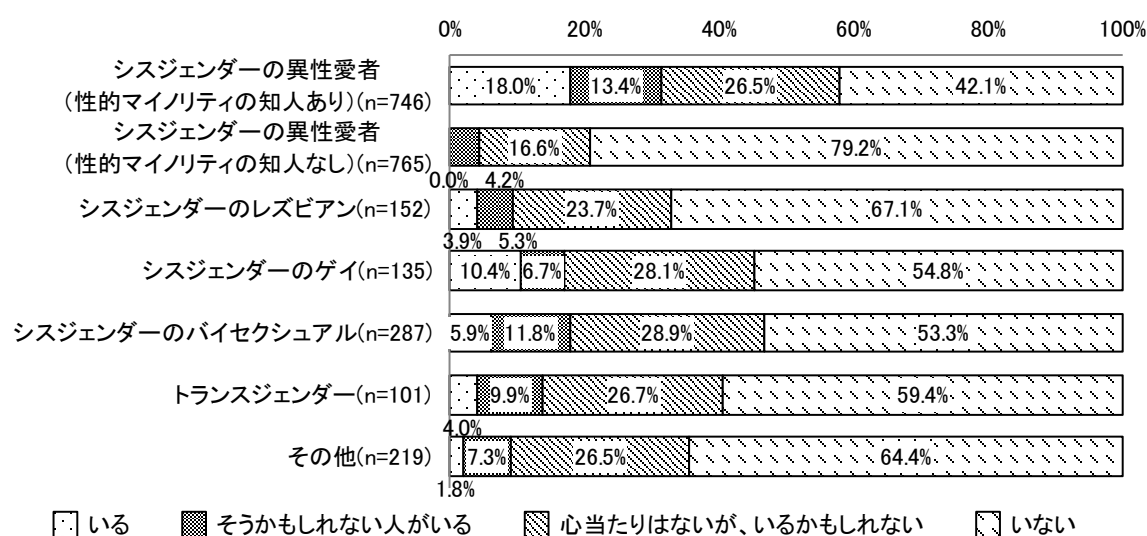
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ② いまの職場に「ゲイ」がいるか

「いる」、「そうかもしれない人がある」、「心当たりはないが、いるかもしれない」のいずれかと回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者(性的マイノリティの知人あり)」では57.9%、「シスジェンダーの異性愛者(性的マイノリティの知人なし)」では20.8%であった。

同様に、「いる」、「そうかもしれない人がある」、「心当たりはないが、いるかもしれない」のいずれかを選んだ人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では32.9%、「シスジェンダーのゲイ」では45.2%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では46.6%、「トランスジェンダー」では40.6%、「その他」では35.6%であった。

図表Ⅳ- 54 いまの職場に「ゲイ」がいるか：単数回答 (Q26\_2)



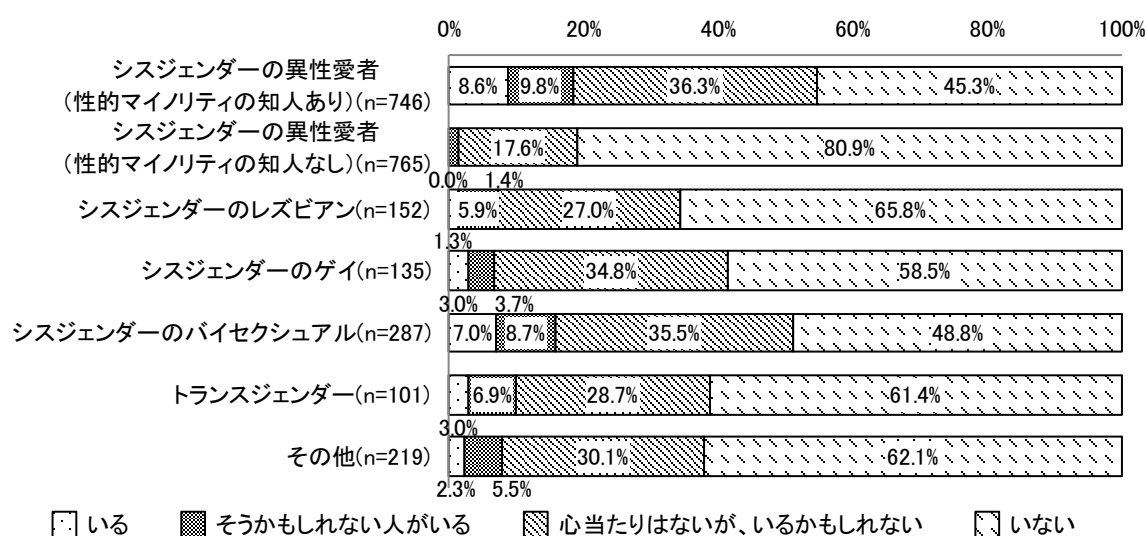
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

### ③ いまの職場に「バイセクシュアル」がいるか

「いる」、「そうかもしれない人がある」、「心当たりはないが、いるかもしれない」のいずれかと回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者(性的マイノリティの知人あり)」では54.7%、「シスジェンダーの異性愛者(性的マイノリティの知人なし)」では19.0%であった。

同様に、「いる」、「そうかもしれない人がある」、「心当たりはないが、いるかもしれない」のいずれかを選んだ人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では34.2%、「シスジェンダーのゲイ」では41.5%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では51.2%、「トランスジェンダー」では38.6%、「その他」では37.9%であった。

図表Ⅳ- 55 いまの職場に「バイセクシュアル」がいるか：単数回答（Q26\_3）



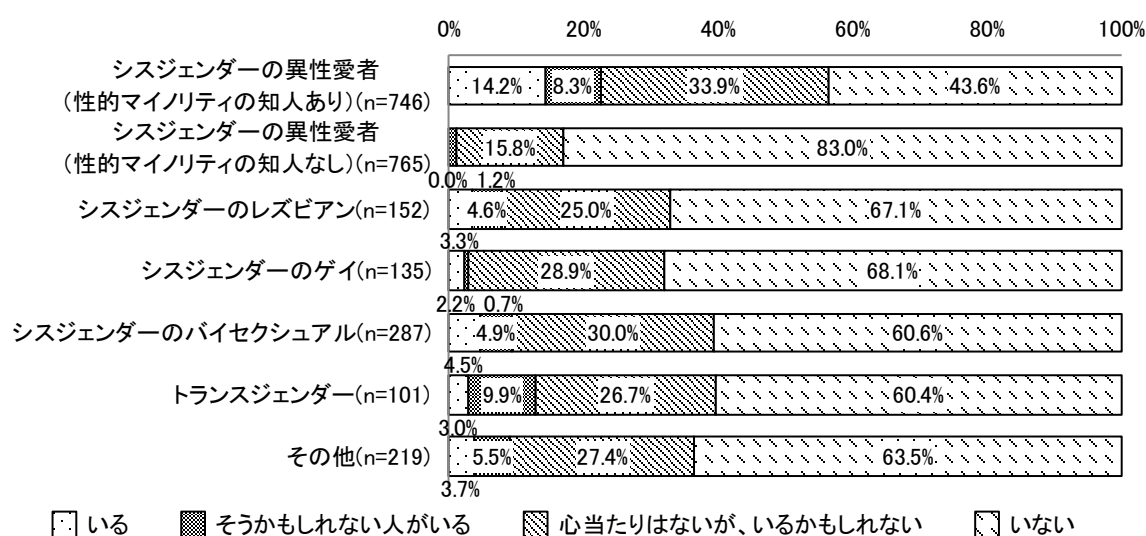
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

#### ④ いまの職場に「トランスジェンダー」がいるか

「いる」、「そうかもしれない人がある」、「心当たりはないが、いるかもしれない」のいずれかと回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者(性的マイノリティの知人あり)」では56.4%、「シスジェンダーの異性愛者(性的マイノリティの知人なし)」では17.0%であった。

同様に、「いる」、「そうかもしれない人がある」、「心当たりはないが、いるかもしれない」のいずれかを選んだ人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では32.9%、「シスジェンダーのゲイ」では31.8%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では39.4%、「トランスジェンダー」では39.6%、「その他」では36.6%であった。

図表Ⅳ- 56 いまの職場に「トランスジェンダー」がいるか：単数回答（Q26\_4）



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

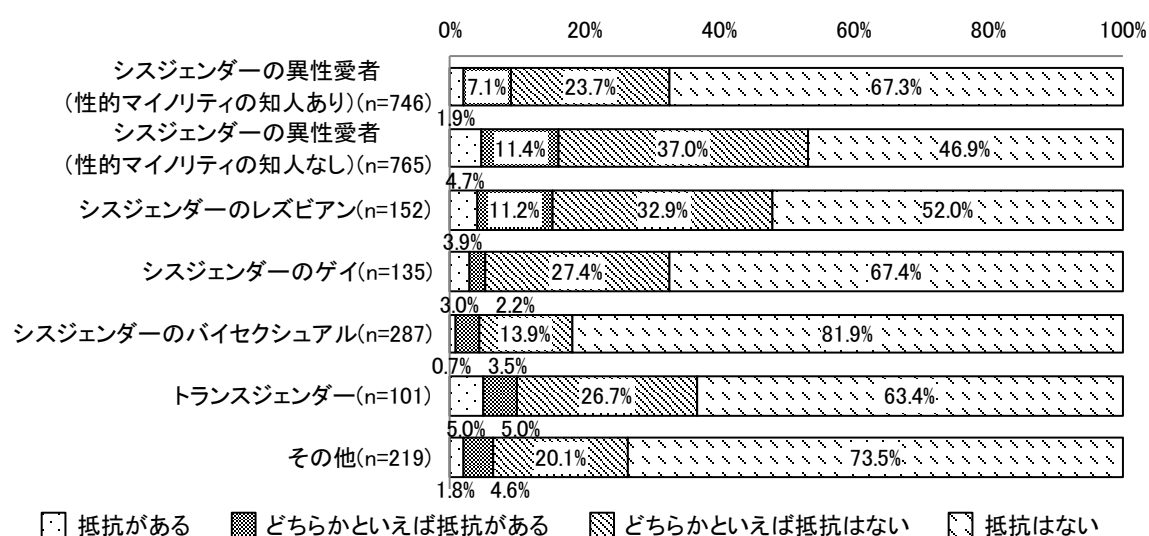
## (8) 性的マイノリティといっしょに働くことに関する意識

### ① レズビアンと働くことに関する意識

「抵抗はない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 67.3%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 46.9%であった。

同様に、「抵抗はない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 52.0%、「シスジェンダーのゲイ」では 67.4%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 81.9%、「トランスジェンダー」では 63.4%、「その他」では 73.5%であった。

図表Ⅳ- 57 レズビアンといっしょに働くことに抵抗があるか：単数回答（Q27\_1）



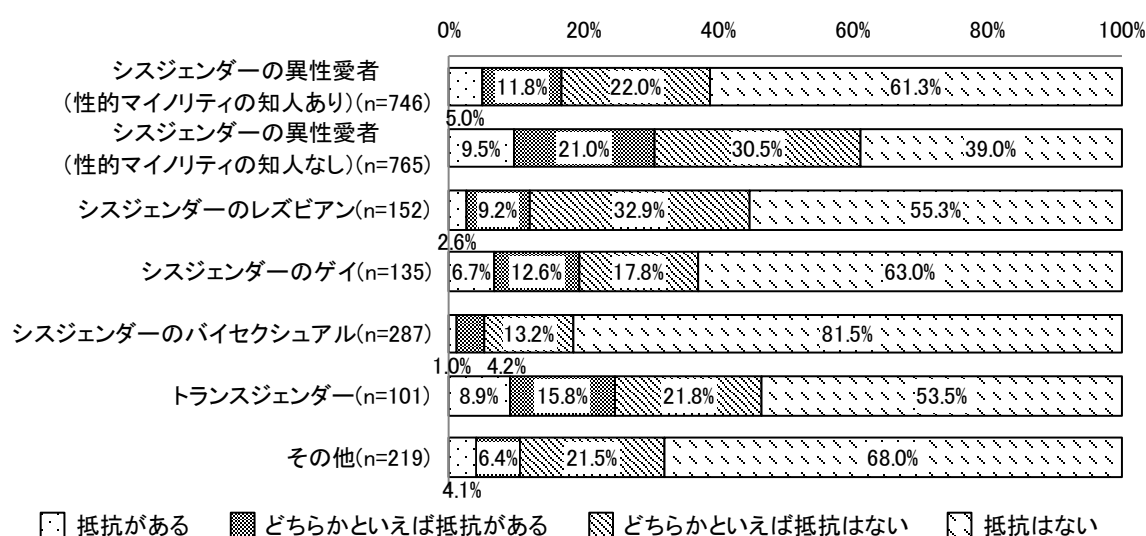
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無 (Q7) への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ② ゲイと働くことに関する意識

「抵抗はない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 61.3%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 39.0%であった。

同様に、「抵抗はない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 55.3%、「シスジェンダーのゲイ」では 63.0%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 81.5%、「トランスジェンダー」では 53.5%、「その他」では 68.0%であった。

図表Ⅳ- 58 ゲイといっしょに働くことに抵抗があるか：単数回答（Q27\_2）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

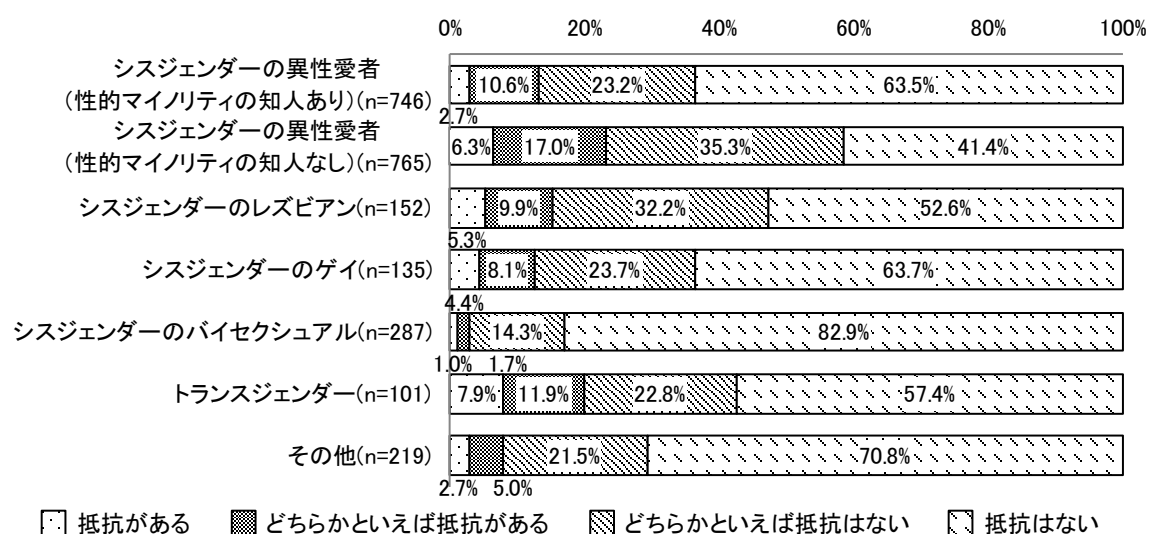


### ③ バイセクシュアルと働くことに関する意識

「抵抗はない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 63.5%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 41.4%であった。

同様に、「抵抗はない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 52.6%、「シスジェンダーのゲイ」では 63.7%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 82.9%、「トランスジェンダー」では 57.4%、「その他」では 70.8%であった。

図表Ⅳ- 59 バイセクシュアルといっしょに働くことに抵抗があるか：単数回答（Q27\_3）



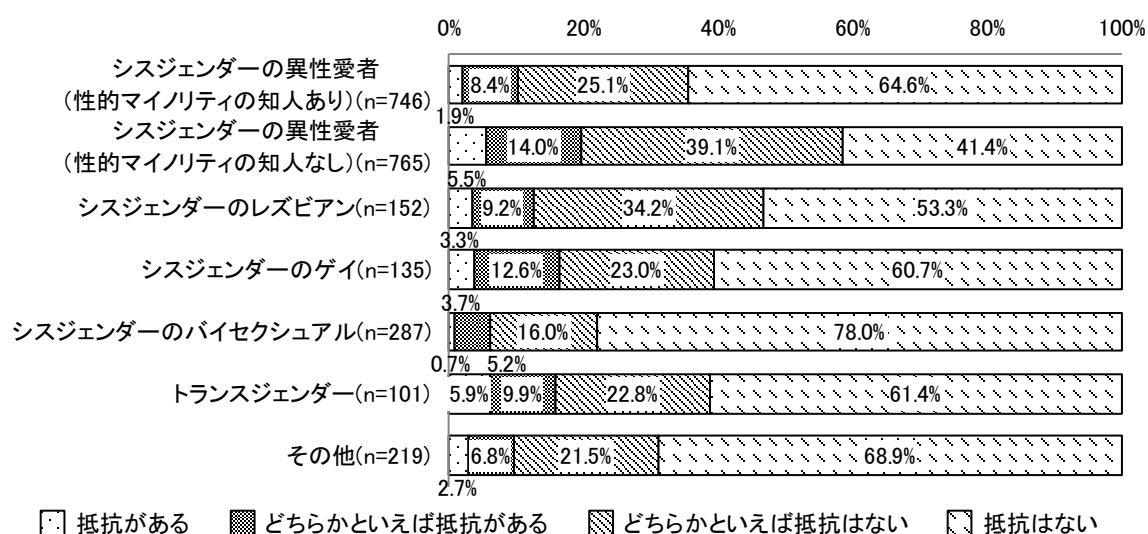
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

#### ④ トランスジェンダーと働くことに関する意識

「抵抗はない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 64.6%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 41.4%であった。

同様に、「抵抗はない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 53.3%、「シスジェンダーのゲイ」では 60.7%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 78.0%、「トランスジェンダー」では 61.4%、「その他」では 68.9%であった。

図表Ⅳ- 60 トランスジェンダーといっしょに働くことに抵抗があるか：単数回答（Q27\_4）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

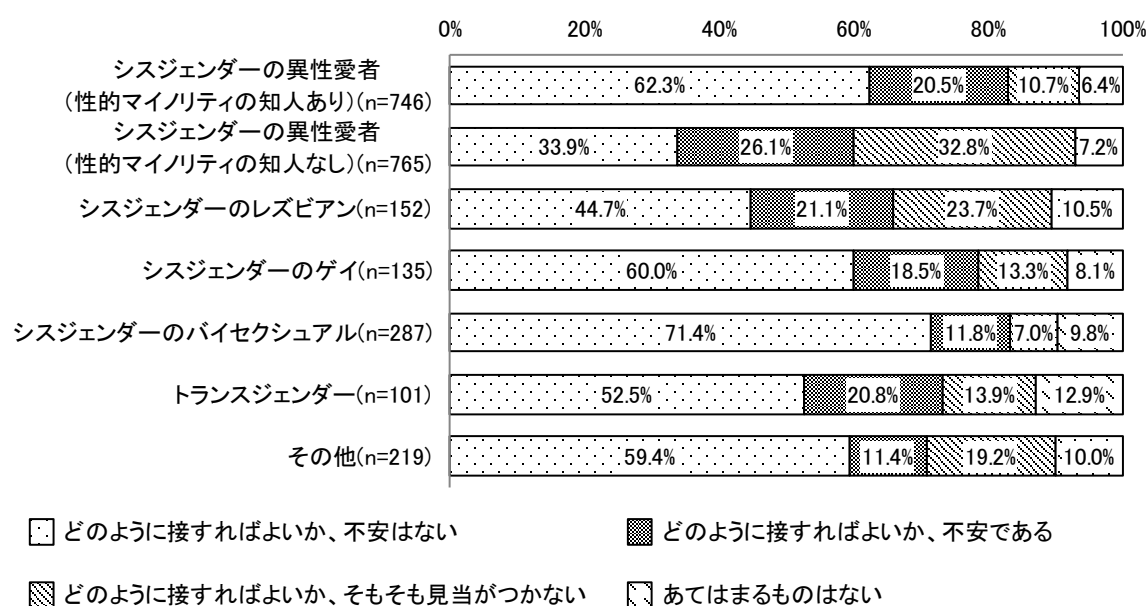
(9) 職場の人から「性的マイノリティである」と伝えられたとき、どのように接すればよい  
か不安に思うか

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「どのように接すればよい  
か、不安はない」が 62.3%、「どのように接すればよいか、不安である」が 20.5%であった。

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「どのように接すればよい  
か、不安はない」が 33.9%、「どのように接すればよいか、そもそも見当がつかない」が 32.8%  
であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「どのように接すればよいか、不安はない」が 44.7%、  
「どのように接すればよいか、そもそも見当がつかない」が 23.7%であった。「シスジェンダーの  
ゲイ」では、「どのように接すればよいか、不安はない」が 60.0%、「どのように接すればよいか、  
不安である」が 18.5%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「どのように接す  
ればよいか、不安はない」が 71.4%、「どのように接すればよいか、不安である」が 11.8%であ  
った。「トランスジェンダー」では、「どのように接すればよいか、不安はない」が 52.5%、「どの  
ように接すればよいか、不安である」が 20.8%であった。「その他」では、「どのように接すれば  
よいか、不安はない」が 59.4%、「どのように接すればよいか、そもそも見当がつかない」が 19.2%  
であった。

図表Ⅳ- 61 職場の人から「性的マイノリティである」と伝えられたとき、どのように接すれば  
よいか不安に思うか：単数回答（Q28）



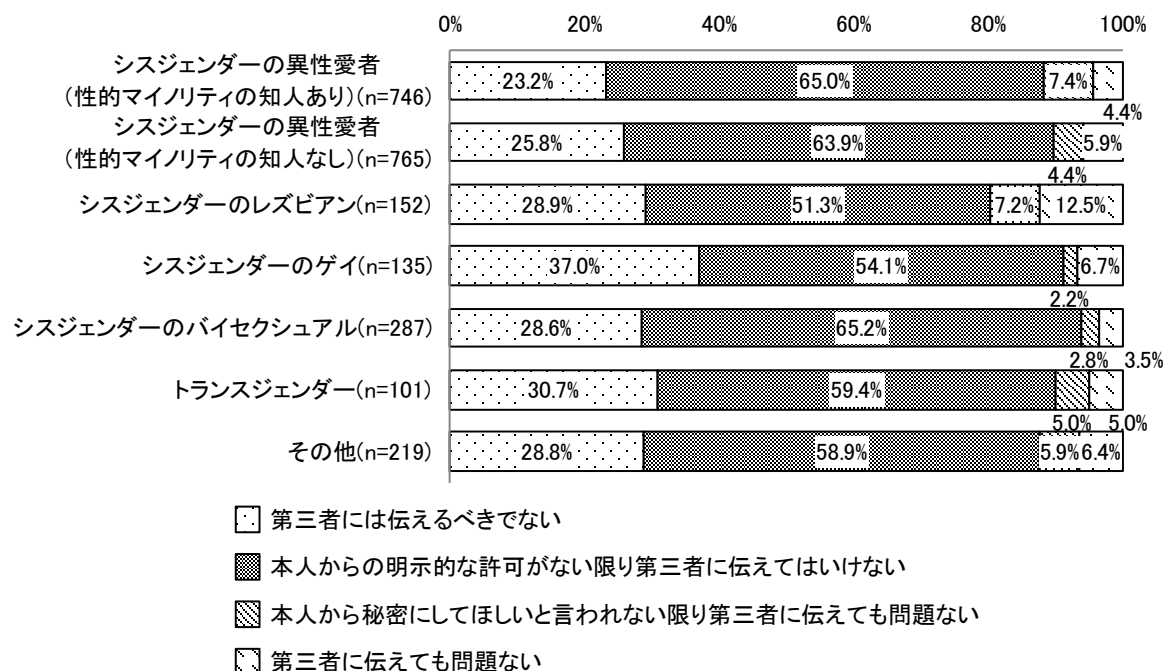
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の  
有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

(10) 職場の人から「性的マイノリティである」と伝えられたとき、その事実や内容を第三者に伝えることについてどのように考えるか

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「本人からの明示的な許可がない限り第三者に伝えてはいけない」が 65.0%、「第三者には伝えるべきでない」が 23.2%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「本人からの明示的な許可がない限り第三者に伝えてはいけない」が 63.9%、「第三者には伝えるべきでない」が 25.8%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「本人からの明示的な許可がない限り第三者に伝えてはいけない」が 51.3%、「第三者には伝えるべきでない」が 28.9%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「本人からの明示的な許可がない限り第三者に伝えてはいけない」が 54.1%、「第三者には伝えるべきでない」が 37.0%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「本人からの明示的な許可がない限り第三者に伝えてはいけない」が 65.2%、「第三者には伝えるべきでない」が 28.6%であった。「トランスジェンダー」では、「本人からの明示的な許可がない限り第三者に伝えてはいけない」が 59.4%、「第三者には伝えるべきでない」が 30.7%であった。「その他」では、「本人からの明示的な許可がない限り第三者に伝えてはいけない」が 58.9%、「第三者には伝えるべきでない」が 28.8%であった。

図表Ⅳ- 62 職場の人から「性的マイノリティである」と伝えられたとき、その事実や内容を第三者に伝えることについてどのように考えるか：単数回答（Q29）



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

# (11) いまの職場で自身が性的マイノリティであることを伝えているか

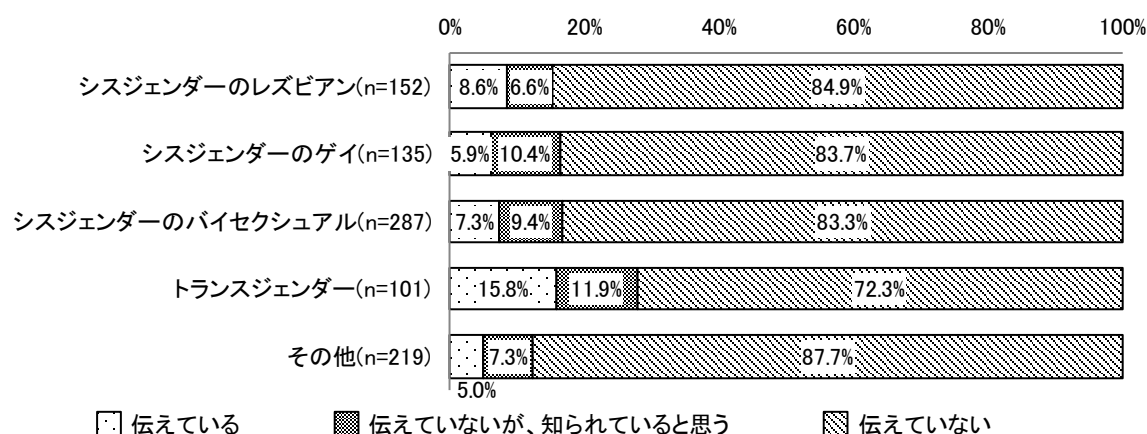
「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者について、自身が性的マイノリティであることをいまの職場の人に伝えているかをたずねた。

## ① いまの職場の誰か一人にでも、自身が性的マイノリティであることを伝えているか

「伝えている」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」で8.6%、「シスジェンダーのゲイ」では5.9%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では7.3%、「トランスジェンダー」では15.8%、「その他」では5.0%であった。

また、「伝えていないが、知られていると思う」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では6.6%、「シスジェンダーのゲイ」では10.4%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では9.4%、「トランスジェンダー」では11.9%、「その他」では7.3%であった。

図表Ⅳ- 63 いまの職場の誰か一人にでも、自身が性的マイノリティであることを伝えているか：単数回答（Q30）

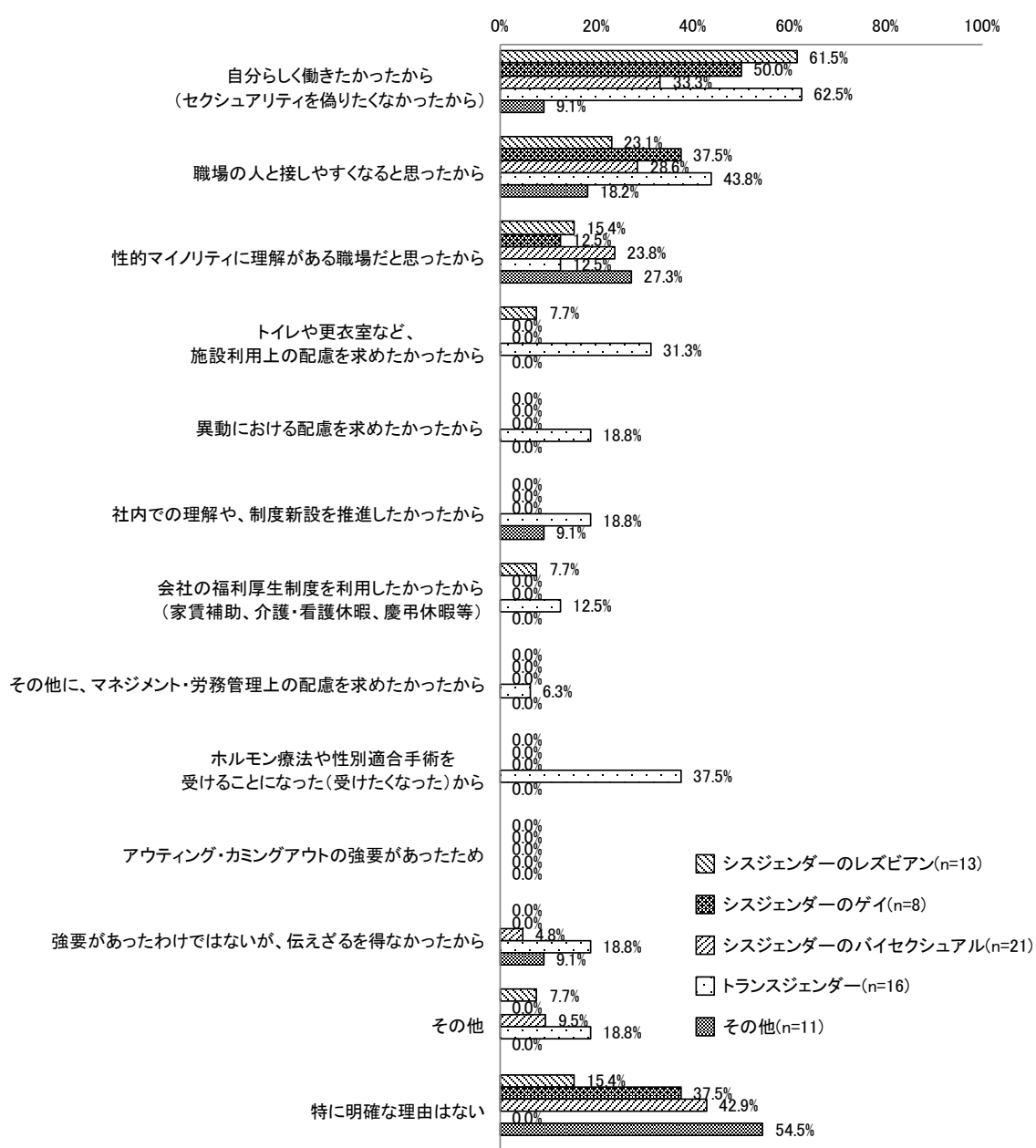


注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

## ② いまの職場で自身が性的マイノリティであることを伝えた理由やきっかけ

いまの職場で自身が性的マイノリティであることを伝えている回答者（Q30で「伝えている」と回答した人）について、自身が性的マイノリティであることを伝えた理由やきっかけをみたところ、「自分らしく働きたかったから（セクシュアリティを偽りたくなかったから）」や「特に明確な理由はない」の回答割合が高くみられた。ただし、自身が性的マイノリティであると伝えている回答者数が少ないことから、いずれの区分においても参考値である。

図表Ⅳ- 64 いまの職場で自身が性的マイノリティであることを伝えた理由やきっかけ：複数回答（Q31）



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

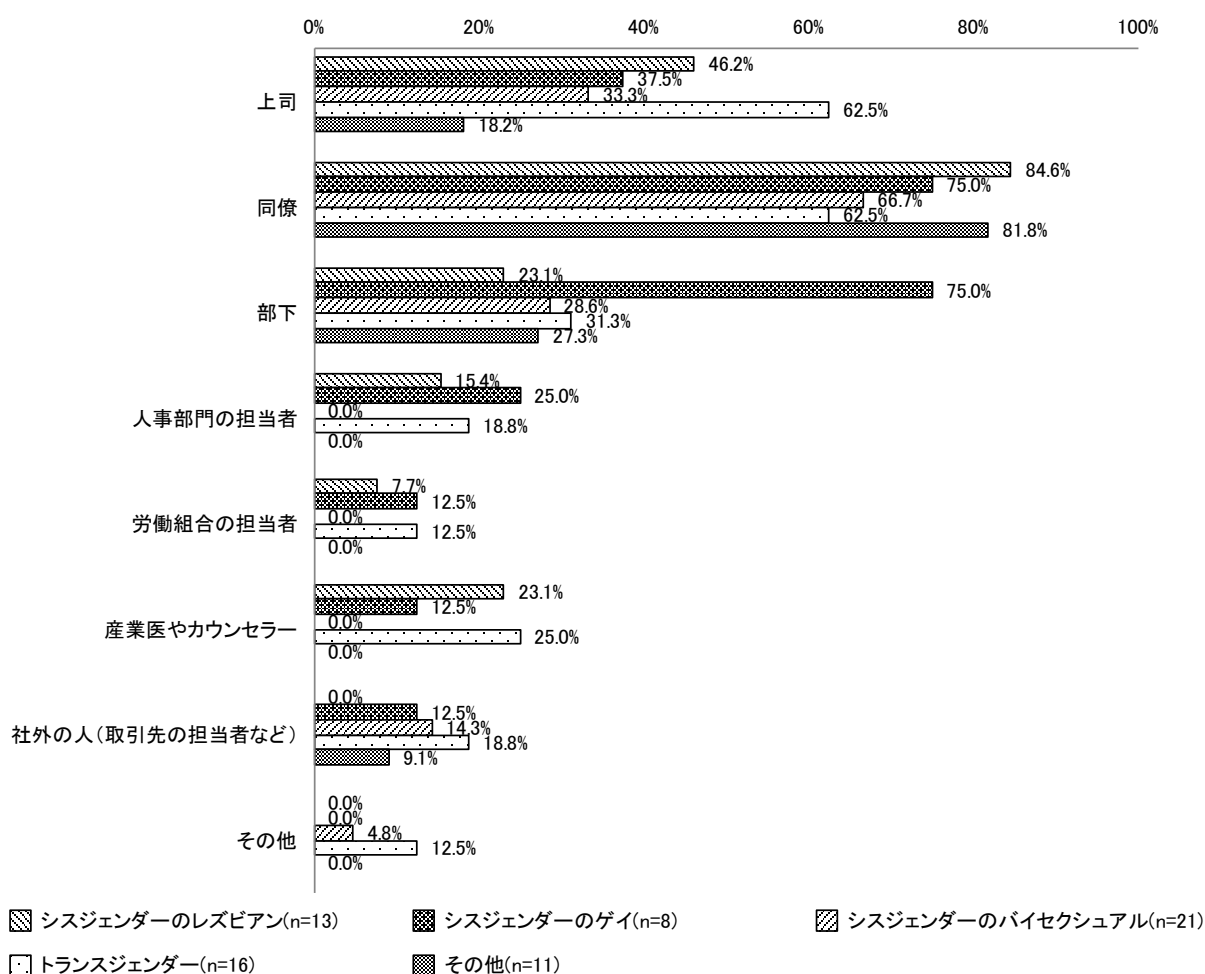
Q31 の回答が「その他」の場合の自由回答  
(文末の【】内は、回答者区分を示す。)

- ・ 性別を移行することで外見が大きく変化したため、正しく理解してもらうのが必要不可欠だった【トランスジェンダー】
- ・ ホルモン治療をして、見た目は男性なので男性として働かないと逆に違和感があるし、周りも戸惑う【トランスジェンダー】

### ③ いまの職場で自身が性的マイノリティであることを伝えている相手

いまの職場で自身が性的マイノリティであることを伝えている回答者 (Q30 で「伝えている」と回答した人) について、自身が性的マイノリティであることを伝えている相手をみると、「同僚」「上司」「部下」の回答割合が高くみられた。ただし、自身が性的マイノリティであることを伝えている回答者数が少ないことから、いずれの区分においても参考値である。

図表IV- 65 いまの職場で自身が性的マイノリティであることを伝えている相手：複数回答 (Q32)

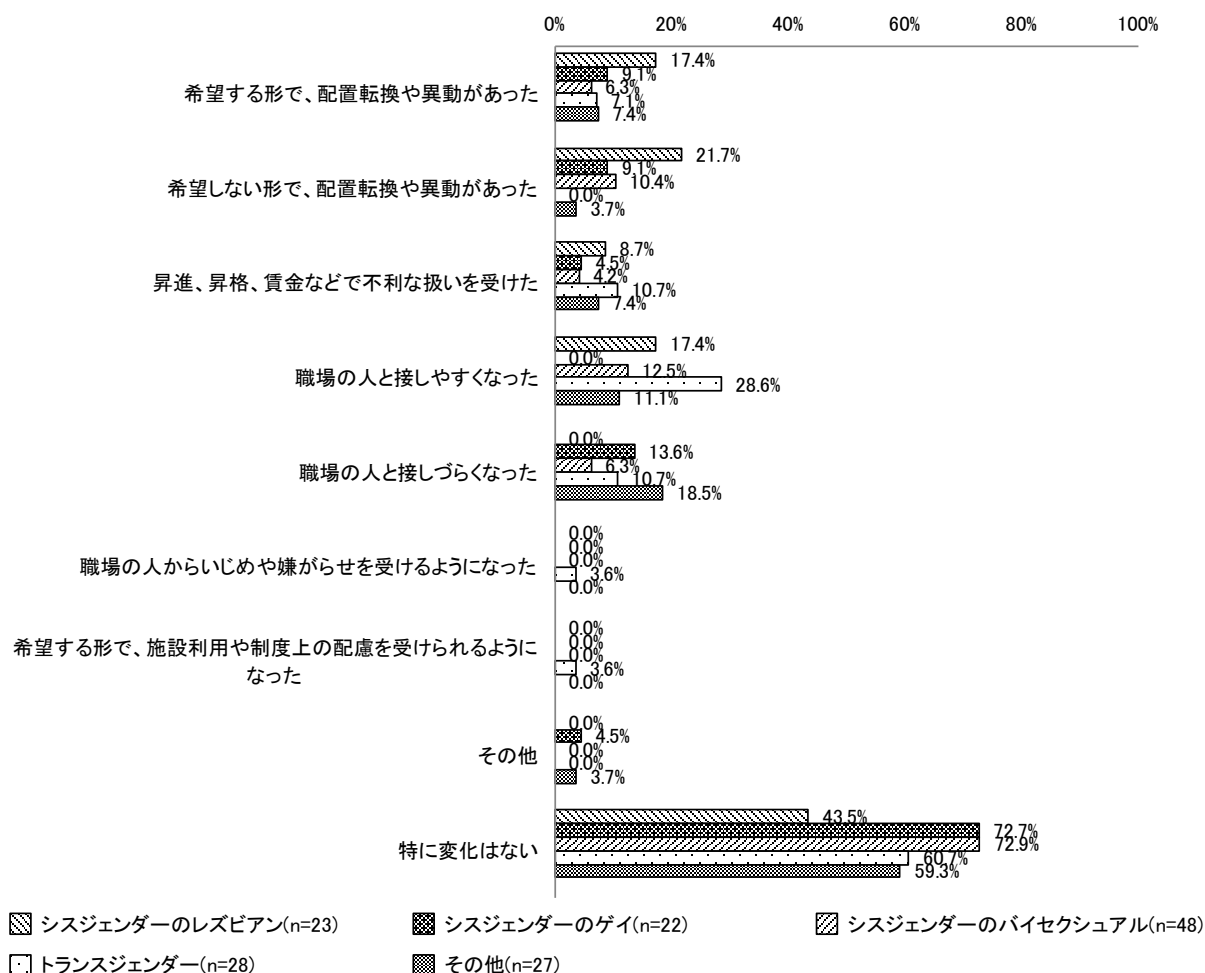


注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別 (Q1)、性自認 (Q2)、性的指向 (Q3)、性的マイノリティの知人等の有無 (Q7) への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

#### ④ いまの職場で自身が性的マイノリティであることを伝えたり、知られたことがきっかけで生じた変化

いまの職場で自身が性的マイノリティであることを伝えている、または伝えていないが、知られていると考えている回答者（Q30で「伝えている」、または「伝えていないが、知られていると思う」と回答した人）について、自身が性的マイノリティであることを伝えたり、知られたことがきっかけで生じた変化をみたところ、「特に変化はない」という回答割合が高くみられた。また、「希望する形で、配置転換や異動があった」「職場の人と接しやすくなった」というポジティブな変化と「希望しない形で、配置転換や異動があった」「職場の人と接しづらくなった」というネガティブな変化の両方について、一定の回答がみられた。ただし、自身が性的マイノリティであることを伝えている、または伝えていないが、知られていると考えている回答者数が少ないことから、いずれの区分についても参考値である。

図表Ⅳ- 66 いまの職場で自身が性的マイノリティであることを伝えたり、知られたことがきっかけで生じた変化：複数回答（Q33）



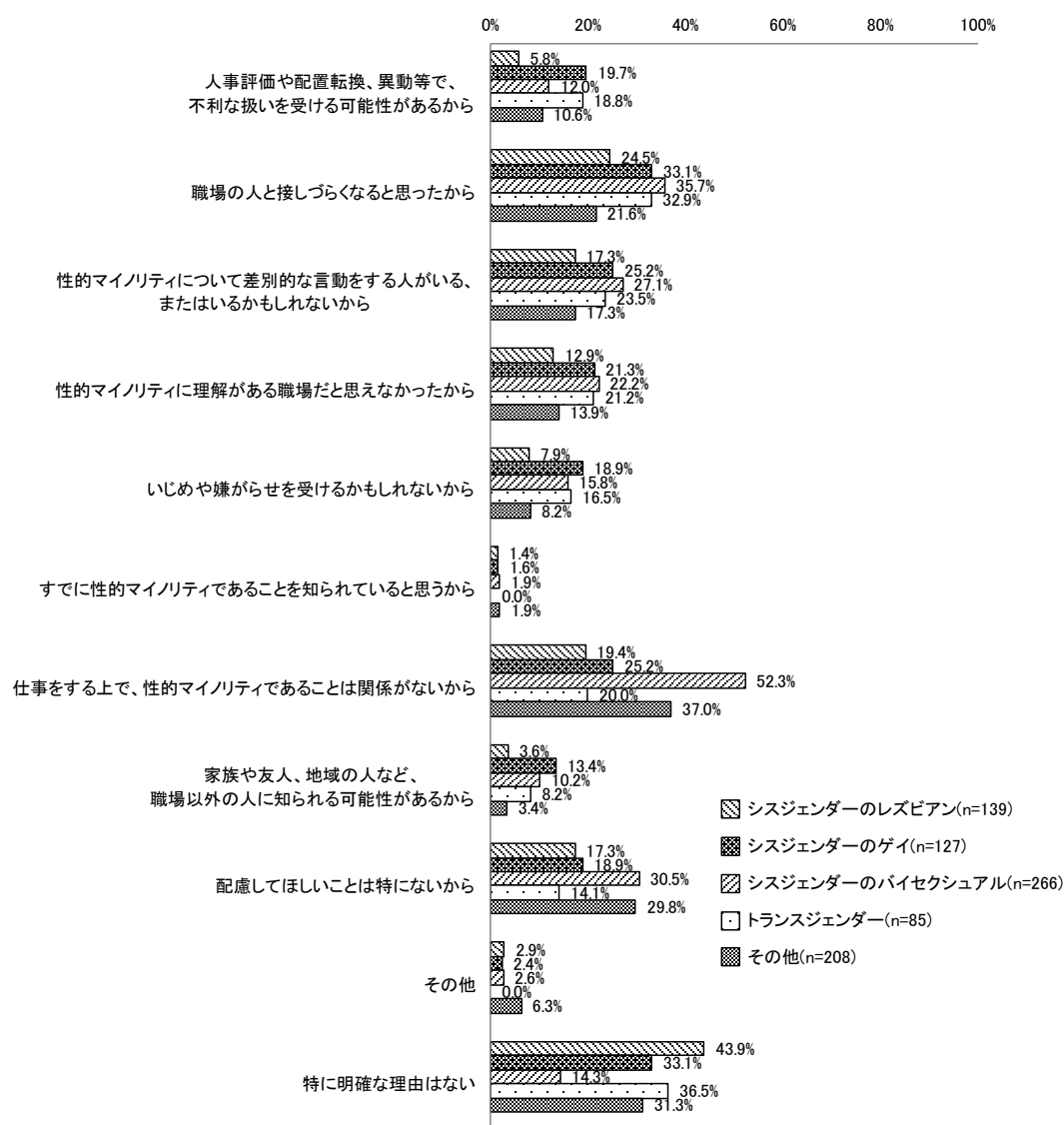
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。



## ⑤ いまの職場で性的マイノリティであることを伝えていない理由

いまの職場で自身が性的マイノリティであることを伝えていない回答者（Q30で「伝えていないが、知られていると思う」、または「伝えていない」と回答した人）について、性的マイノリティであることを伝えていない理由をみたところ、「シスジェンダーのレズビアン」では、「特に明確な理由はない」が43.9%、「職場の人と接しづらくなると思ったから」が24.5%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「職場の人と接しづらくなると思ったから」、「特に明確な理由はない」がそれぞれ33.1%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「仕事をする上で、性的マイノリティであることは関係がないから」が52.3%、「職場の人と接しづらくなると思ったから」が35.7%であった。「トランスジェンダー」では、「特に明確な理由はない」が36.5%、「職場の人と接しづらくなると思ったから」が32.9%であった。「その他」では、「仕事をする上で、性的マイノリティであることは関係がないから」が37.0%、「特に明確な理由はない」が31.3%であった。

図表Ⅳ- 67 いまの職場で性的マイノリティであることを伝えていない理由：複数回答（Q34）



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の

有無（Q7）への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

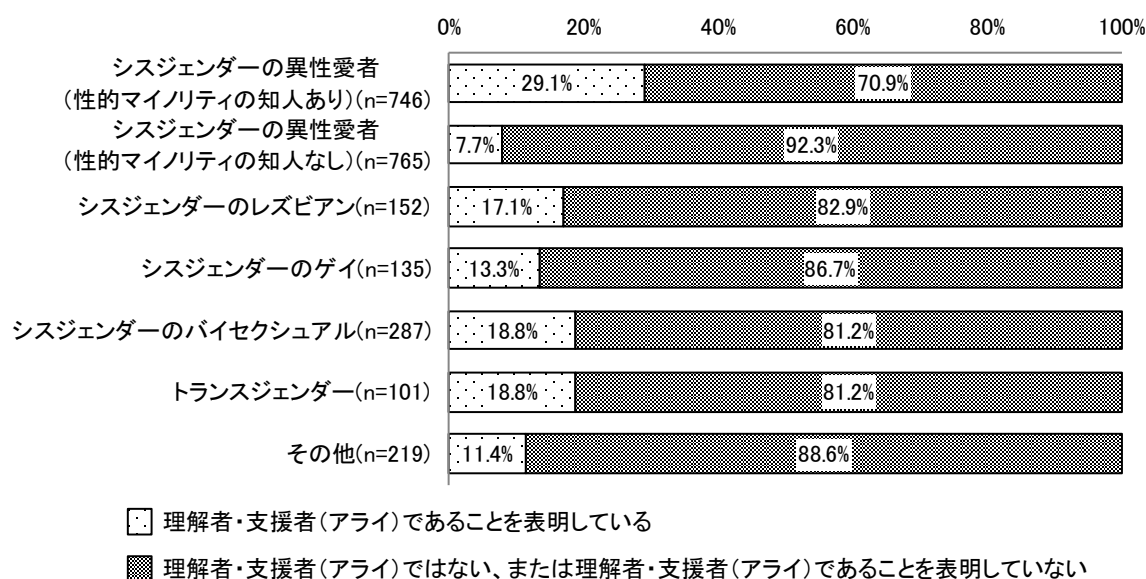
## （12）いまの職場におけるアライについて

### ① いまの職場で、性的マイノリティの理解者・支援者（アライ）であることを表明しているか

回答者自身について、「理解者・支援者（アライ）であることを表明している」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では 29.1%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では 7.7%であった。

同様に、「理解者・支援者（アライ）であることを表明している」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 17.1%、「シスジェンダーのゲイ」では 13.3%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 18.8%、「トランスジェンダー」では 18.8%、「その他」では 11.4%であった。

図表Ⅳ- 68 いまの職場で、性的マイノリティの理解者・支援者（アライ）であることを表明しているか：単数回答（Q35）



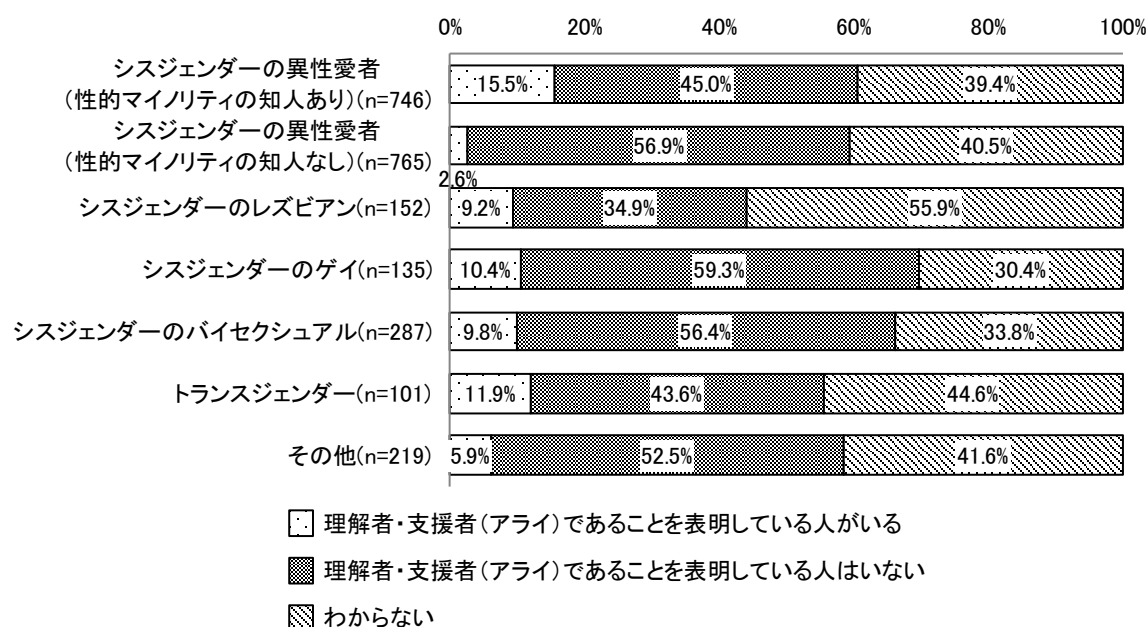
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無（Q7）への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

② いまの職場で、性的マイノリティの理解者・支援者（アライ）であることを表明している人はいるか

回答者自身を除いて、「理解者・支援者（アライ）であることを表明している人がいる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では15.5%、「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では2.6%であった。

同様に、「理解者・支援者（アライ）であることを表明している人がいる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では9.2%、「シスジェンダーのゲイ」では10.4%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では9.8%、「トランスジェンダー」では11.9%、「その他」では5.9%であった。

図表Ⅳ- 69 いまの職場で、性的マイノリティの理解者・支援者（アライ）であることを表明している人はいるか：単数回答（Q36）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

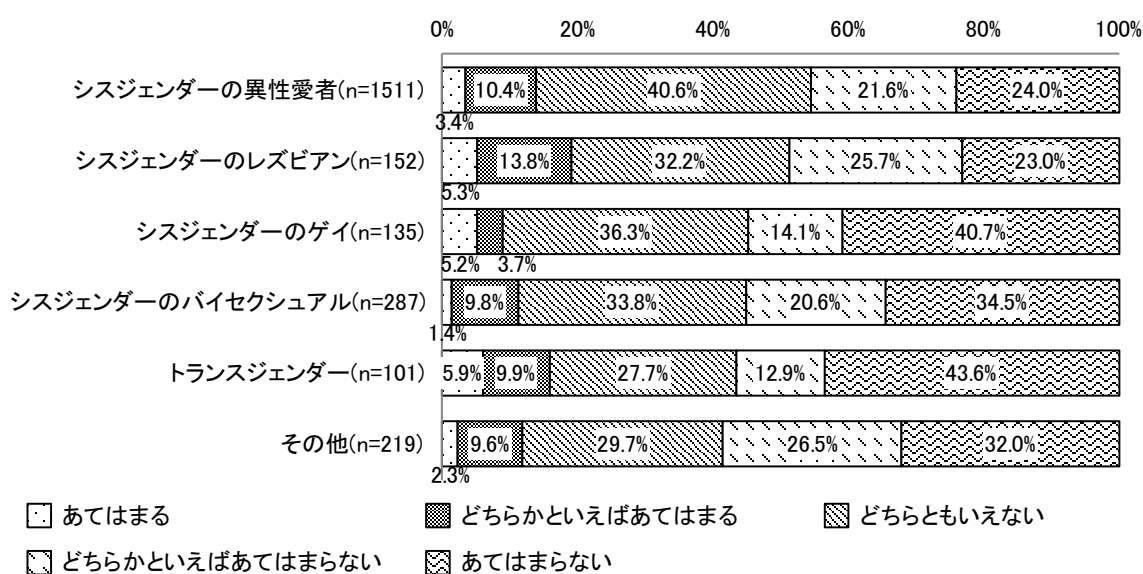
### (13) 職場の風土

#### ① 性的マイノリティに関する知識がある人が多い

「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では3.4%であった。

同様に、「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では5.3%、「シスジェンダーのゲイ」では5.2%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では1.4%、「トランスジェンダー」では5.9%、「その他」では2.3%であった。

図表Ⅳ- 70 性的マイノリティに関する知識がある人が多い：単数回答（Q37\_1）



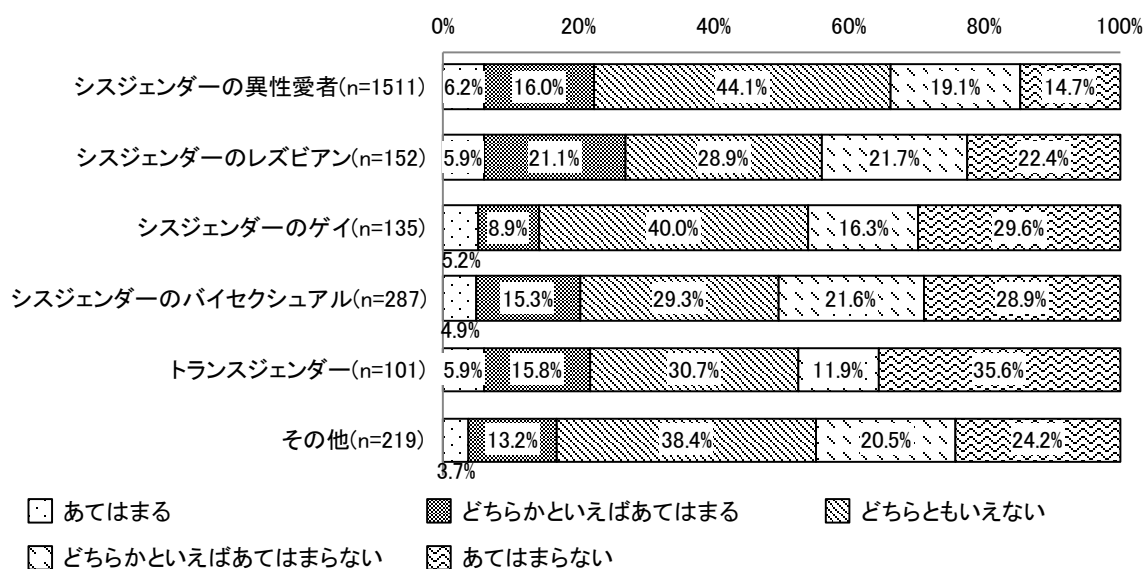
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ② 性的マイノリティを受け入れる雰囲気がある

「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では6.2%であった。

同様に、「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では5.9%、「シスジェンダーのゲイ」では5.2%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では4.9%、「トランスジェンダー」では5.9%、「その他」では3.7%であった。

図表Ⅳ- 71 性的マイノリティを受け入れる雰囲気がある：単数回答（Q37\_2）

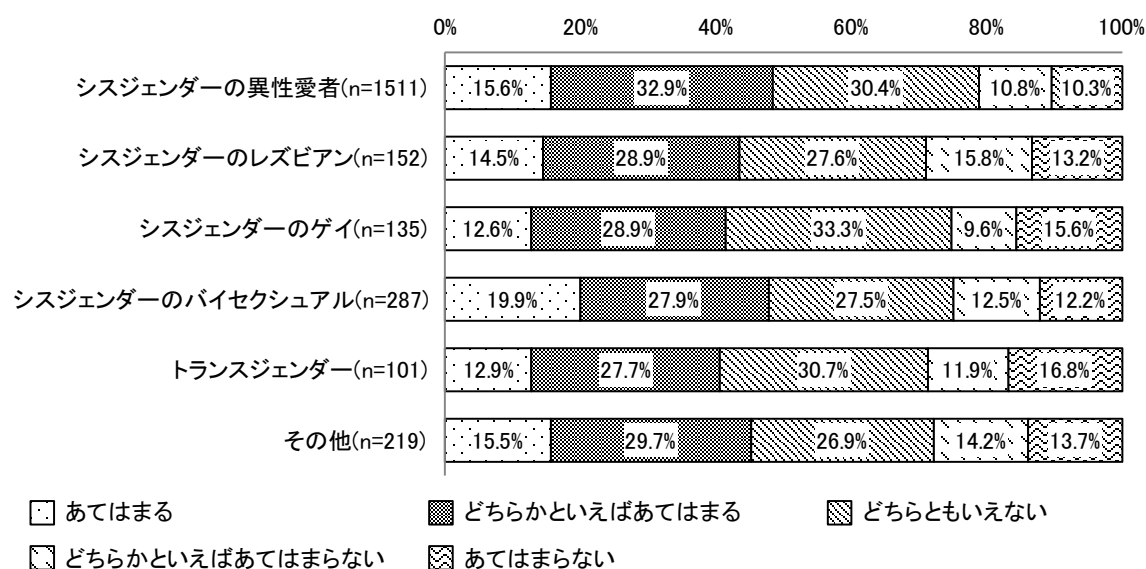


注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

### ③ 女性の活躍を支援する雰囲気がある

「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では15.6%であった。同様に、「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では14.5%、「シスジェンダーのゲイ」では12.6%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では19.9%、「トランスジェンダー」では12.9%、「その他」では15.5%であった。

図表Ⅳ- 72 女性の活躍を支援する雰囲気がある：単数回答（Q37\_3）

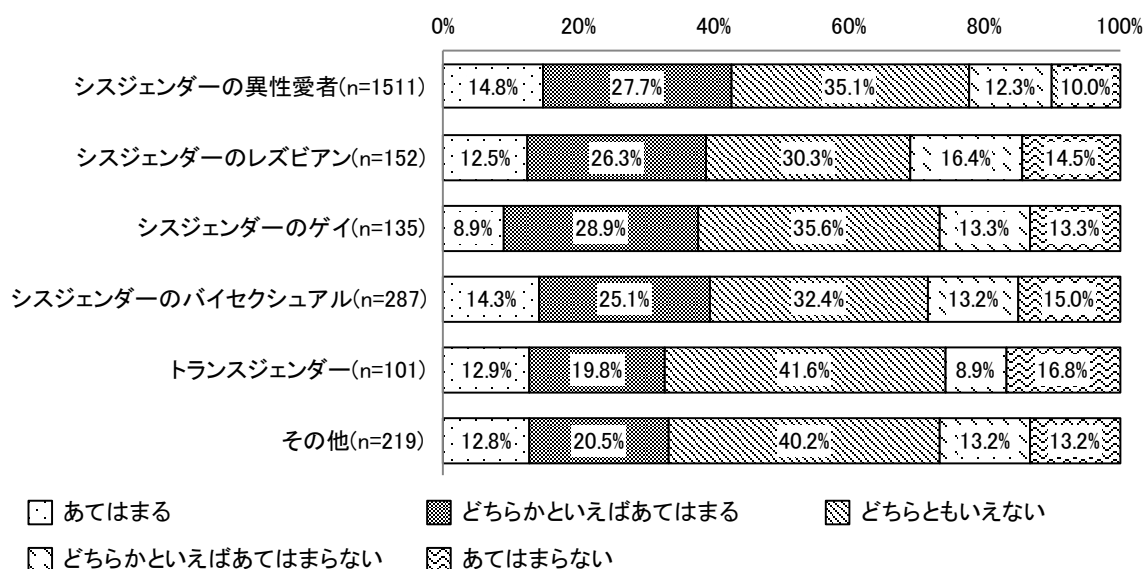


注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

#### ④ ハラスメント防止に積極的である

「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では14.8%であった。同様に、「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では12.5%、「シスジェンダーのゲイ」では8.9%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では14.3%、「トランスジェンダー」では12.9%、「その他」では12.8%であった。

図表Ⅳ- 73 ハラスメント防止に積極的である：単数回答（Q37\_5）

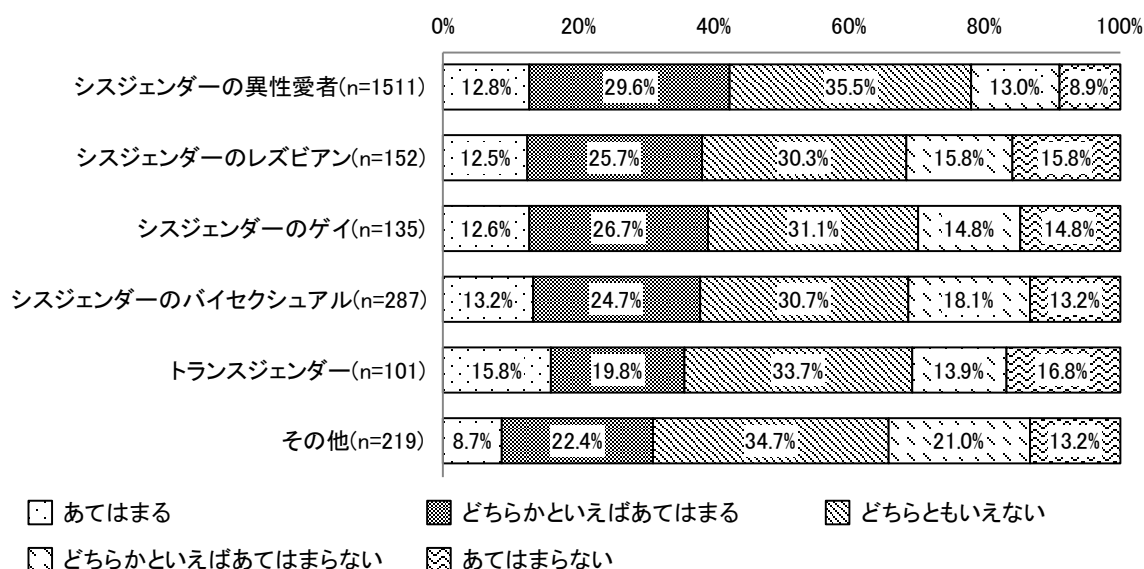


注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

## ⑤ プライバシーを尊重する風土がある

「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では12.8%であった。同様に、「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では12.5%、「シスジェンダーのゲイ」では12.6%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では13.2%、「トランスジェンダー」では15.8%、「その他」では8.7%であった。

図表Ⅳ- 74 プライバシーを尊重する風土がある：単数回答（Q37\_6）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

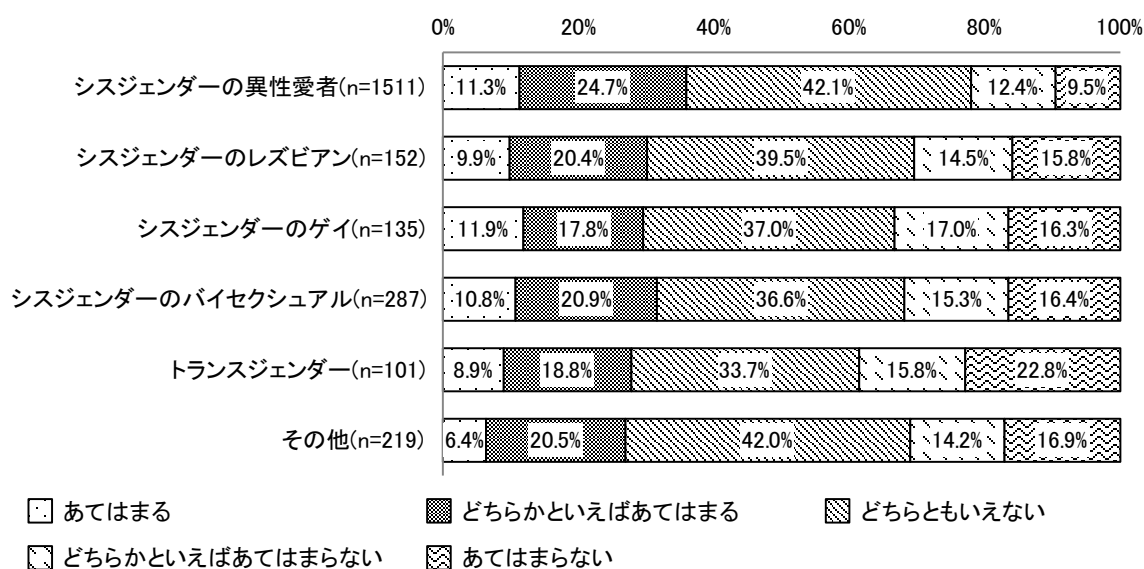


## ⑥ 多様性を尊重する風土がある

「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では11.3%であった。

同様に、「あてはまる」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では9.9%、「シスジェンダーのゲイ」では11.9%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では10.8%、「トランスジェンダー」では8.9%、「その他」では6.4%であった。

図表IV- 75 多様性を尊重する風土がある：単数回答（Q37\_7）



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくはp.100を参照のこと。

#### (14) 性的マイノリティが働きやすい職場とは、どのような職場だと思うか

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「性的マイノリティであることを理由に、人事評価や配置転換、異動等で不利な扱いを受けない職場」が 75.6%、「セクハラやパワハラなどのハラスメントがない職場」が 60.7%であった。「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「性的マイノリティであることを理由に、人事評価や配置転換、異動等で不利な扱いを受けない職場」が 61.3%、「セクハラやパワハラなどのハラスメントがない職場」が 48.2%であった。

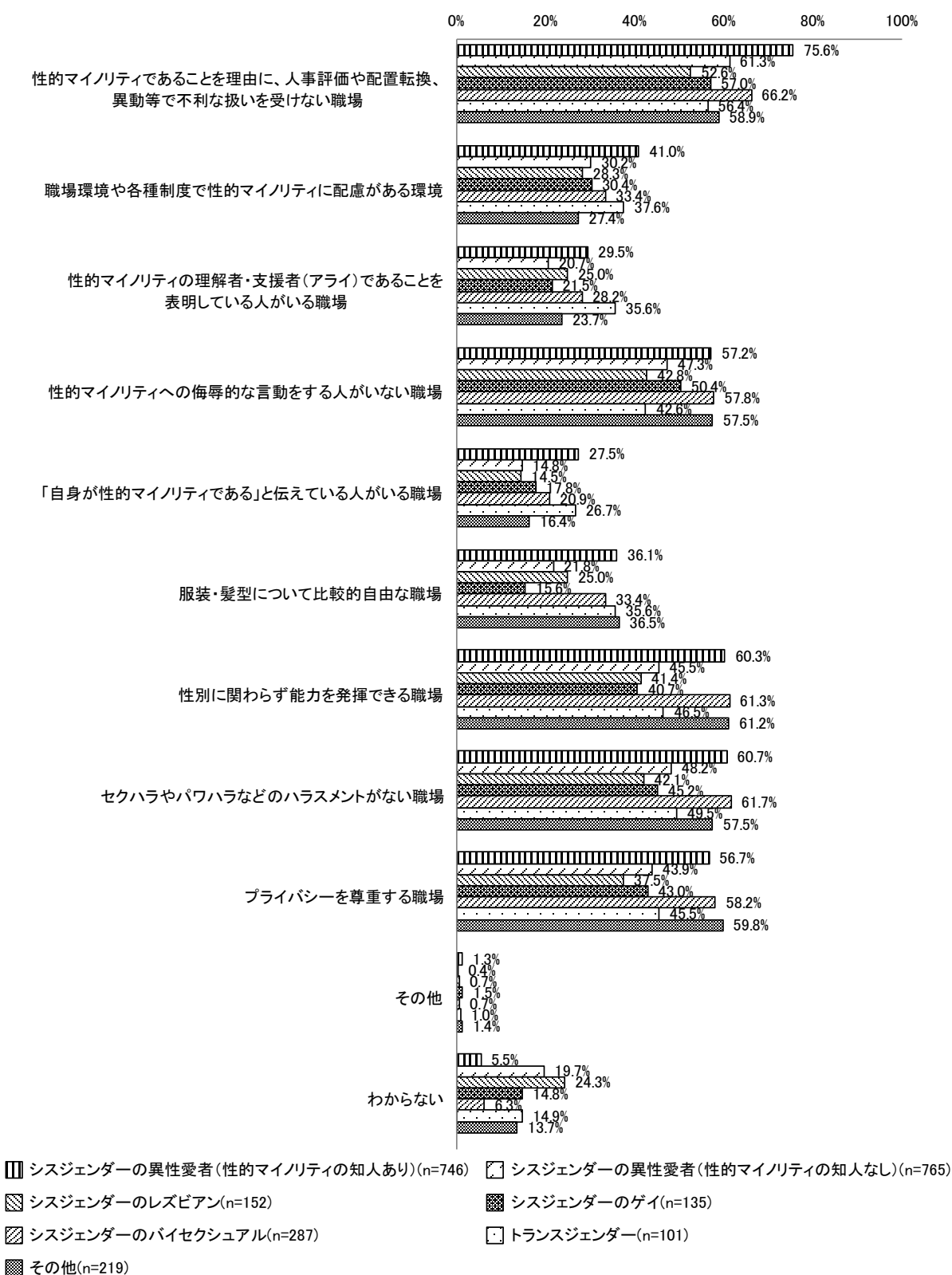
「シスジェンダーのレズビアン」では、「性的マイノリティであることを理由に、人事評価や配置転換、異動等で不利な扱いを受けない職場」が 52.6%、「性的マイノリティへの侮辱的な言動をする人がいない職場」が 42.8%であった。「シスジェンダーのゲイ」では、「性的マイノリティであることを理由に、人事評価や配置転換、異動等で不利な扱いを受けない職場」が 57.0%、「性的マイノリティへの侮辱的な言動をする人がいない職場」が 50.4%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「性的マイノリティであることを理由に、人事評価や配置転換、異動等で不利な扱いを受けない職場」が 66.2%、「セクハラやパワハラなどのハラスメントがない職場」が 61.7%であった。「トランスジェンダー」では、「性的マイノリティであることを理由に、人事評価や配置転換、異動等で不利な扱いを受けない職場」が 56.4%、「セクハラやパワハラなどのハラスメントがない職場」が 49.5%であった。「その他」では、「性別に関わらず能力を発揮できる職場」が 61.2%、「プライバシーを尊重する職場」が 59.8%であった。

#### Q38 の回答が「その他」の場合の自由記述

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>■ 「性的指向・性自認に関わらず、個々人への配慮がある職場」を挙げている例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 性的マイノリティだけではなく、全てにおいて偏見や先入観、差別やマウンティングのない環境の職場と人間関係がある職場が理想です。（シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり））</li><li>・ すべての人から意見を聞ける職場（シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり））</li></ul> <p>■ 「個人の能力を重視する職場」を挙げている例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 能力重視、資格重視の職場（シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり））</li><li>・ 技術や能力で評価される職場（シスジェンダーのレズビアン）</li></ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

（集計結果の図表は次ページに掲載）

図表Ⅳ- 76 性的マイノリティが働きやすい職場とは、どのような職場だと思うか：複数回答  
(Q38)



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## (15) 職場におけるハラスメントの状況

### ① いまの職場で見聞きした経験があるハラスメント

「シスジェンダーの異性愛者」では、「パワーハラスメントに相当するような行為」が 39.1%、「容姿や外見に言及する」が 35.7%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「容姿や外見に言及する」が 37.5%、「男らしさ」や「女らしさ」を要求する」が 30.3%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「容姿や外見に言及する」が 33.3%、「パワーハラスメントに相当するような行為」が 31.9%であった。

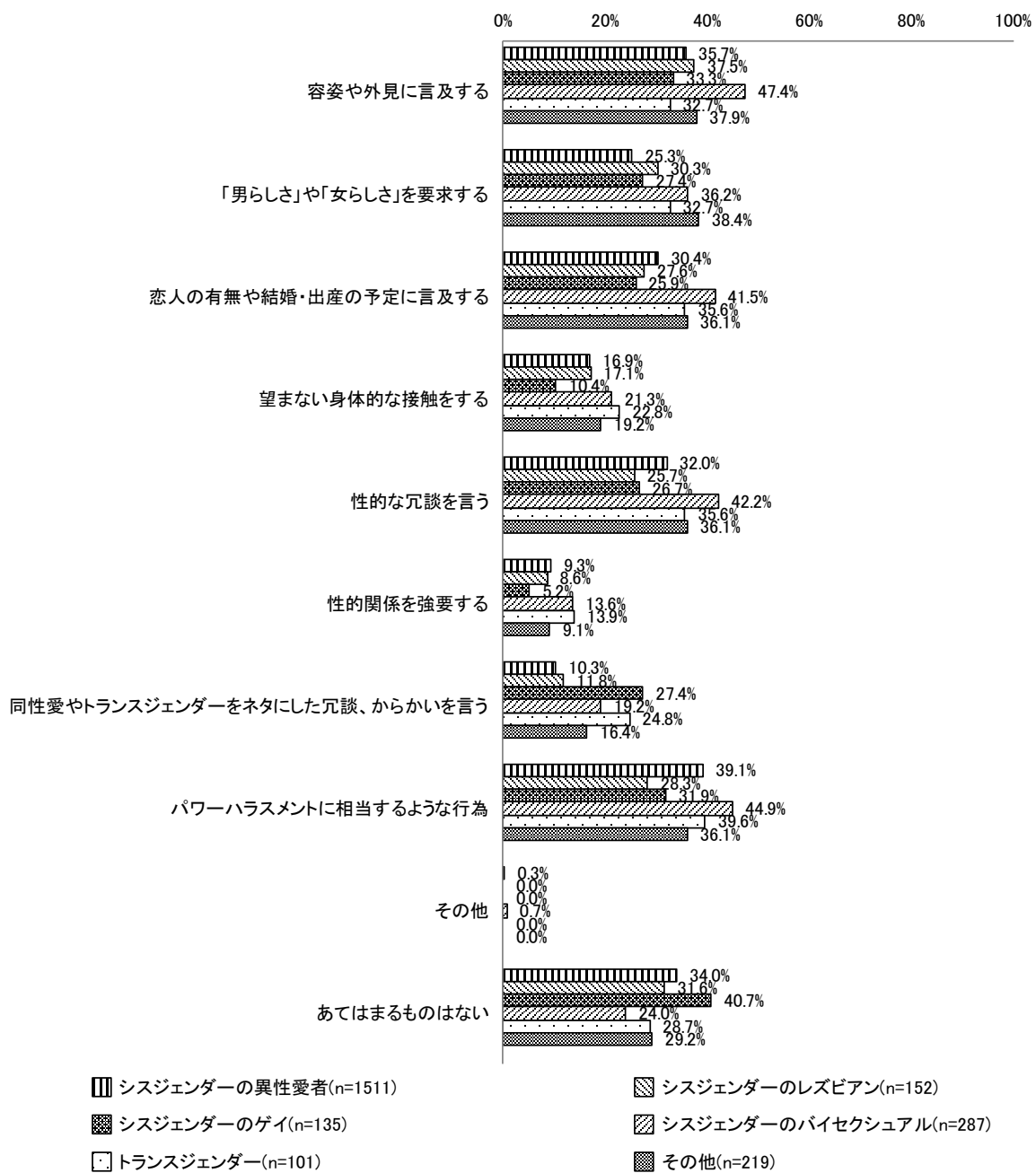
「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「容姿や外見に言及する」が 47.4%、「パワーハラスメントに相当するような行為」が 44.9%であった。

「トランスジェンダー」では、「パワーハラスメントに相当するような行為」が 39.6%、「恋人の有無や結婚・出産の予定に言及する」、「性的な冗談を言う」がそれぞれ 35.6%であった。

「その他」では、「男らしさ」や「女らしさ」を要求する」が 38.4%、「容姿や外見に言及する」が 37.9%であった。

(集計結果の図表は次ページに掲載)

図表IV- 77 いまの職場で見聞きした経験があるハラスメント：複数回答（Q39\_1）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ② いまの職場で自身が受けた経験があるハラスメント

「シスジェンダーの異性愛者」では、「パワーハラスメントに相当するような行為」が 24.3%、「容姿や外見に言及する」が 17.2%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「容姿や外見に言及する」が 23.7%、「男らしさ」や「女らしさ」を要求する」が 21.1%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「恋人の有無や結婚・出産の予定に言及する」が 20.7%、「容姿や外見に言及する」、「パワーハラスメントに相当するような行為」がそれぞれ 17.8%であった。

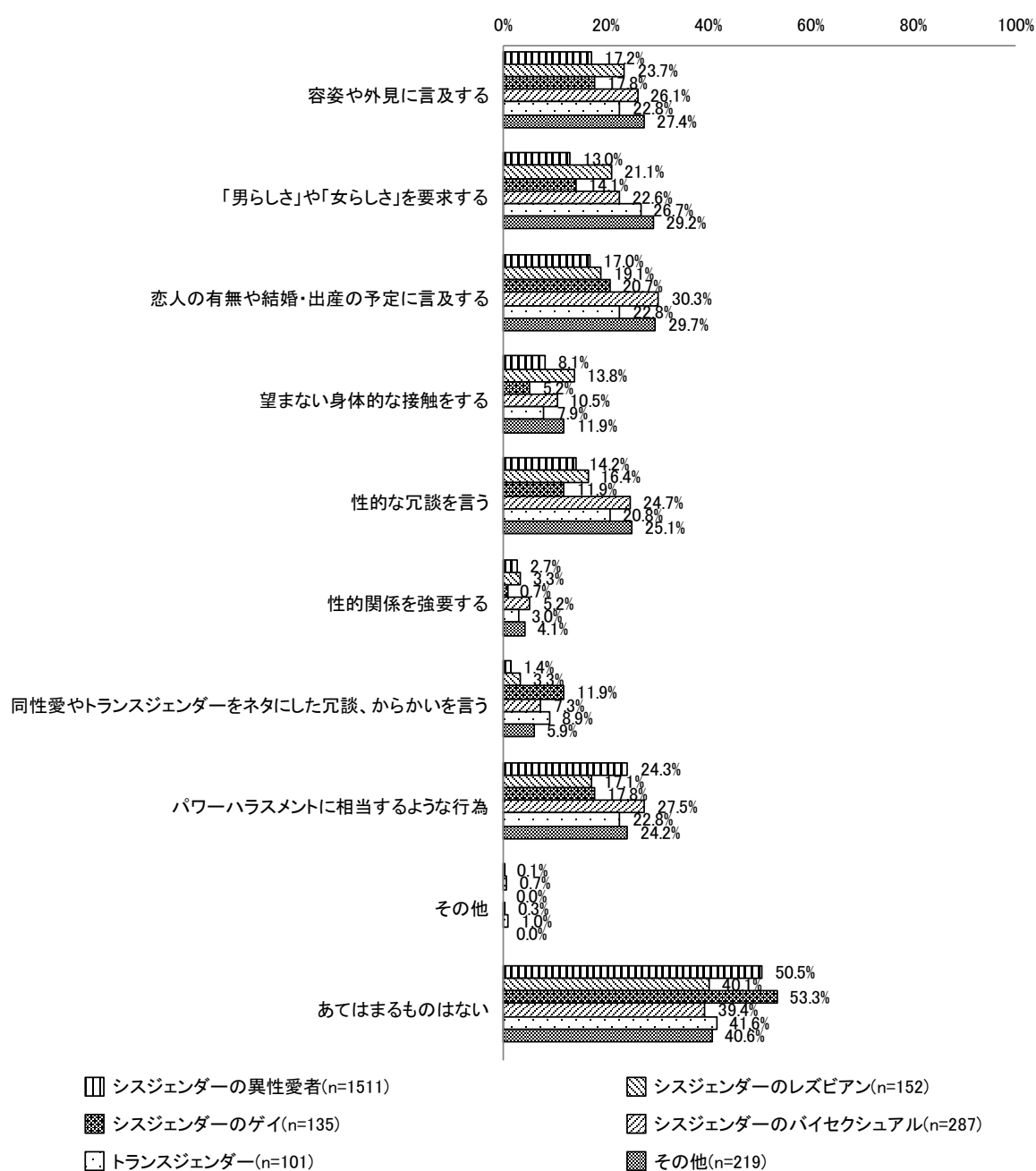
「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「恋人の有無や結婚・出産の予定に言及する」が 30.3%、「パワーハラスメントに相当するような行為」が 27.5%であった。

「トランスジェンダー」では、「男らしさ」や「女らしさ」を要求する」が 26.7%、「容姿や外見に言及する」、「恋人の有無や結婚・出産の予定に言及する」、「パワーハラスメントに相当するような行為」がそれぞれ 22.8%であった。

「その他」では、「恋人の有無や結婚・出産の予定に言及する」が 29.7%、「男らしさ」や「女らしさ」を要求する」が 29.2%であった。

(集計結果の図表は次ページに掲載)

図表Ⅳ- 78 いまの職場で自身が受けた経験があるハラスメント：複数回答（Q39\_2）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## (16) 就業上の困難

「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者について、就業上の困難をたずねた。

### ① 性的マイノリティであることを理由に、働く上で困っていること

「シスジェンダーのレズビアン」では、「プライベートの話をしづらいこと」が11.2%、「異性愛者としてふるまわなければならないこと」が9.2%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「プライベートの話をしづらいこと」が21.5%、「異性愛者としてふるまわなければならないこと」が17.0%であった。

「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「プライベートの話をしづらいこと」が14.3%、「相談先がないこと」が12.9%であった。

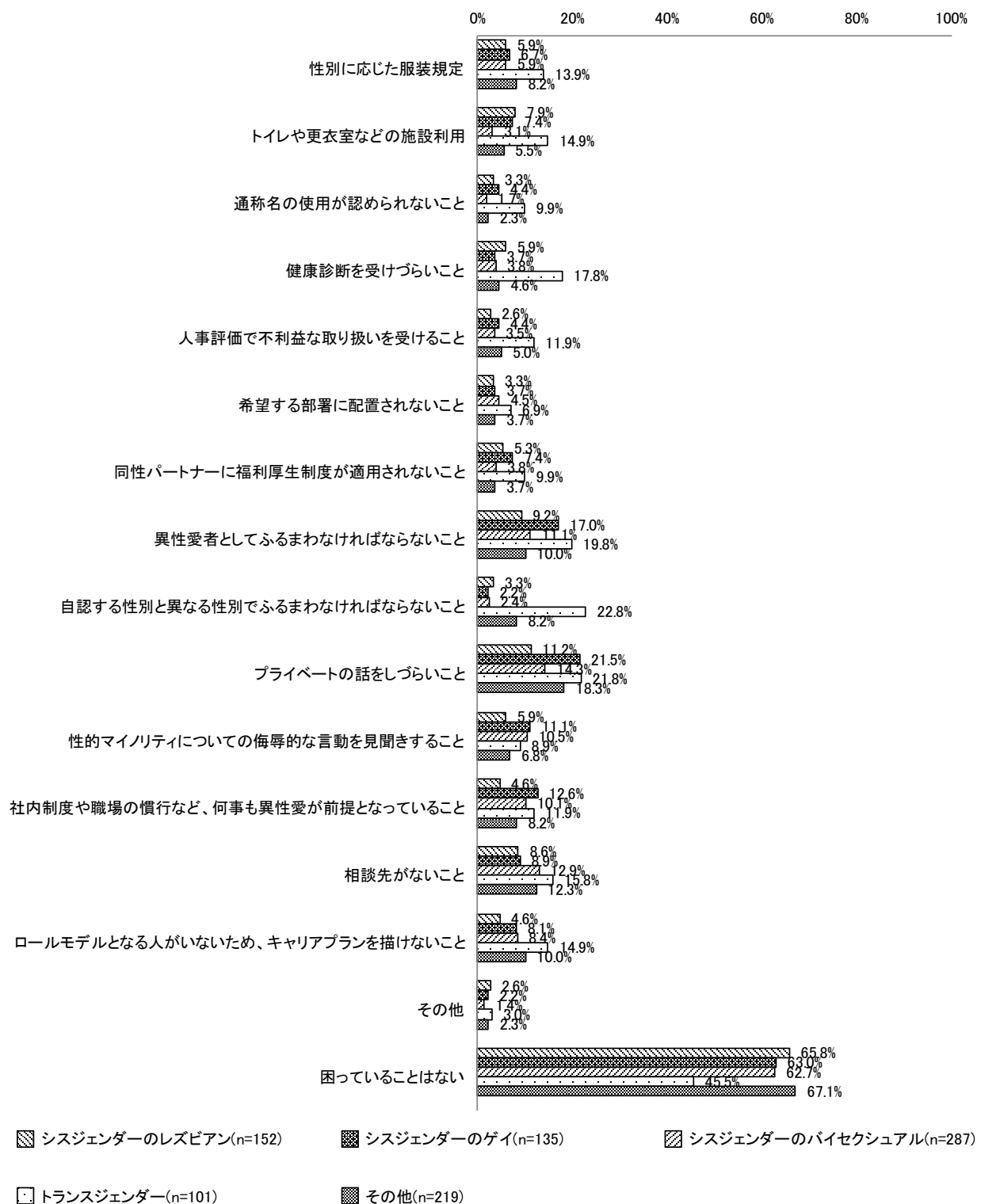
「トランスジェンダー」では、「自認する性別と異なる性別でふるまわなければならないこと」が22.8%、「プライベートの話をしづらいこと」が21.8%であった。

「その他」では、「プライベートの話をしづらいこと」が18.3%、「相談先がないこと」が12.3%であった。

(集計結果の図表は次ページに掲載)



図表Ⅳ- 79 性的マイノリティであることを理由に、働く上で困っていること：複数回答  
(Q40\_1)



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ② 性的マイノリティであることを理由に、働く上で困っていることのうち、最も困っていること

「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者のうち、就業上の困難を抱えている人（Q40\_1において困っていることが1つでもあると回答した人）について、最も困っていることをみたところ、「シスジェンダーのレズビアン」では、「トイレや更衣室などの施設利用」、「異性愛者としてふるまわなければならないこと」、「プライベートの話をしづらいこと」がそれぞれ13.5%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「異性愛者としてふるまわなければならないこと」が30.0%、「プライベートの話をしづらいこと」が18.0%であった。

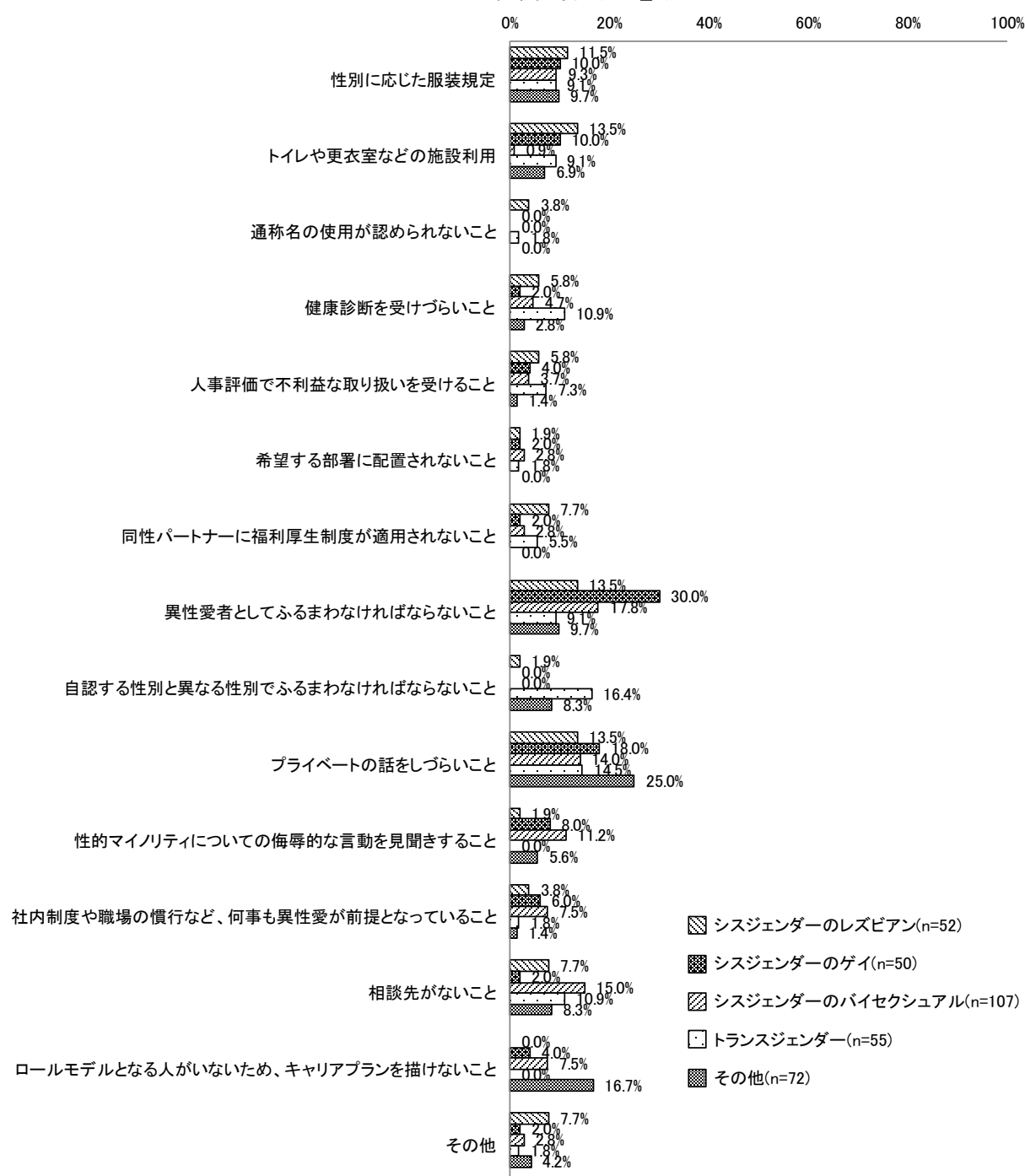
「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「異性愛者としてふるまわなければならないこと」が17.8%、「相談先がないこと」が15.0%であった。

「トランスジェンダー」では、「自認する性別と異なる性別でふるまわなければならないこと」が16.4%、「プライベートの話をしづらいこと」が14.5%であった。

「その他」では、「プライベートの話をしづらいこと」が25.0%、「ロールモデルとなる人がいないため、キャリアプランを描けないこと」が16.7%であった。

（集計結果の図表は次ページに掲載）

図表Ⅳ- 80 性的マイノリティであることを理由に、働く上で困っていることのうち、最も困っていること：単数回答（Q40\_2）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

### ③ 性的マイノリティであることを理由に、働く上で困っていること（自由回答）

「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者に対して、性的マイノリティであることを理由に働く上で困っていることについて、自由記述で回答を求めたところ、以下のような回答があった。

#### 性的マイノリティであることを理由に働く上で困っていることへの回答：自由回答（Q41） （文末の【】内は、回答者区分を示す。）

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>■昇進・昇格・異動等に係る困難を感じている例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ かつては独身者に対して結婚を強く勧めていた。今は無くなったが、独身者は管理職になれなかった。【シスジェンダーのバイセクシュアル】</li><li>・ 恋人に関して、異性を前提に話をされるのみならず、キャリアも異性恋愛や結婚を前提とされること。【シスジェンダーのバイセクシュアル】</li></ul> <p>■異性愛が前提となっていることに係る困難を感じている例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 結婚しないことを根掘り葉掘り聞かれる。風俗店に連れていかれることがある。【シスジェンダーのゲイ】</li><li>・ 雑談時に恋愛の話題になると、異性間の恋愛が前提で話が進むので、「どんな異性がタイプか」などと聞かれたときの返答に困る。【シスジェンダーのバイセクシュアル】</li><li>・ 未だ男尊女卑の考え方を持つ人が多い。さりげない日常会話で傷つくことがある。【シスジェンダーのバイセクシュアル】</li><li>・ 仕事そのものではなく、同僚との会話で気を抜くことができない。【シスジェンダーのバイセクシュアル】</li><li>・ 恋人に関して、異性を前提に話をされる点やキャリアも異性恋愛や結婚を前提とされること。【シスジェンダーのバイセクシュアル】</li><li>・ 業務そのものは困っていないのですが、休憩時などの雑談や飲み会の時に恋愛の話になると付いていけないので、気まずい思いをしたり、なかなか仲良くなれなかったりします。【その他】</li></ul> <p>■出生届に記載された性別と性自認が一致しないことに係る困難を感じている例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 手術を検討しているが、どのようなタイミングでどのようにカミングアウトするのがいいか悩んでいる。また、カミングアウトした後に、トイレ等（今は多目的トイレが別の建物にしかない）の利用についてどうしたらいいか悩んでいる。【トランスジェンダー】</li><li>・ 面接の際に男性として働きたいと伝え働いているが、通称名で働きたいと伝えるのを忘れていた為、名前が平仮名になっている。【トランスジェンダー】</li><li>・ mtf のカミングアウトができていないので、男性のスーツを着て仕事をするのが辛い。【シスジェンダーのレズビアン】</li></ul> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

#### ④ 働く上で困ることがあった場合の相談先

「シスジェンダーのレズビアン」では、「家族」が 17.1%、「性的マイノリティの友人」が 9.2%であり、「相談先はない」が 30.9%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「性的マイノリティの友人」が 21.5%、「家族」が 9.6%であり、「相談先はない」が 40.7%であった。

「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「性的マイノリティの友人」が 23.0%、「性的マイノリティではない友人」が 13.9%であり、「相談先はない」が 41.5%であった。

「トランスジェンダー」では、「性的マイノリティの友人」が 15.8%、「性的マイノリティではない友人」が 12.9%であり、「相談先はない」が 37.6%であった。「その他」では、「性的マイノリティの友人」が 9.1%、「性的マイノリティではない友人」が 8.7%であり、「相談先はない」が 44.7%であった。

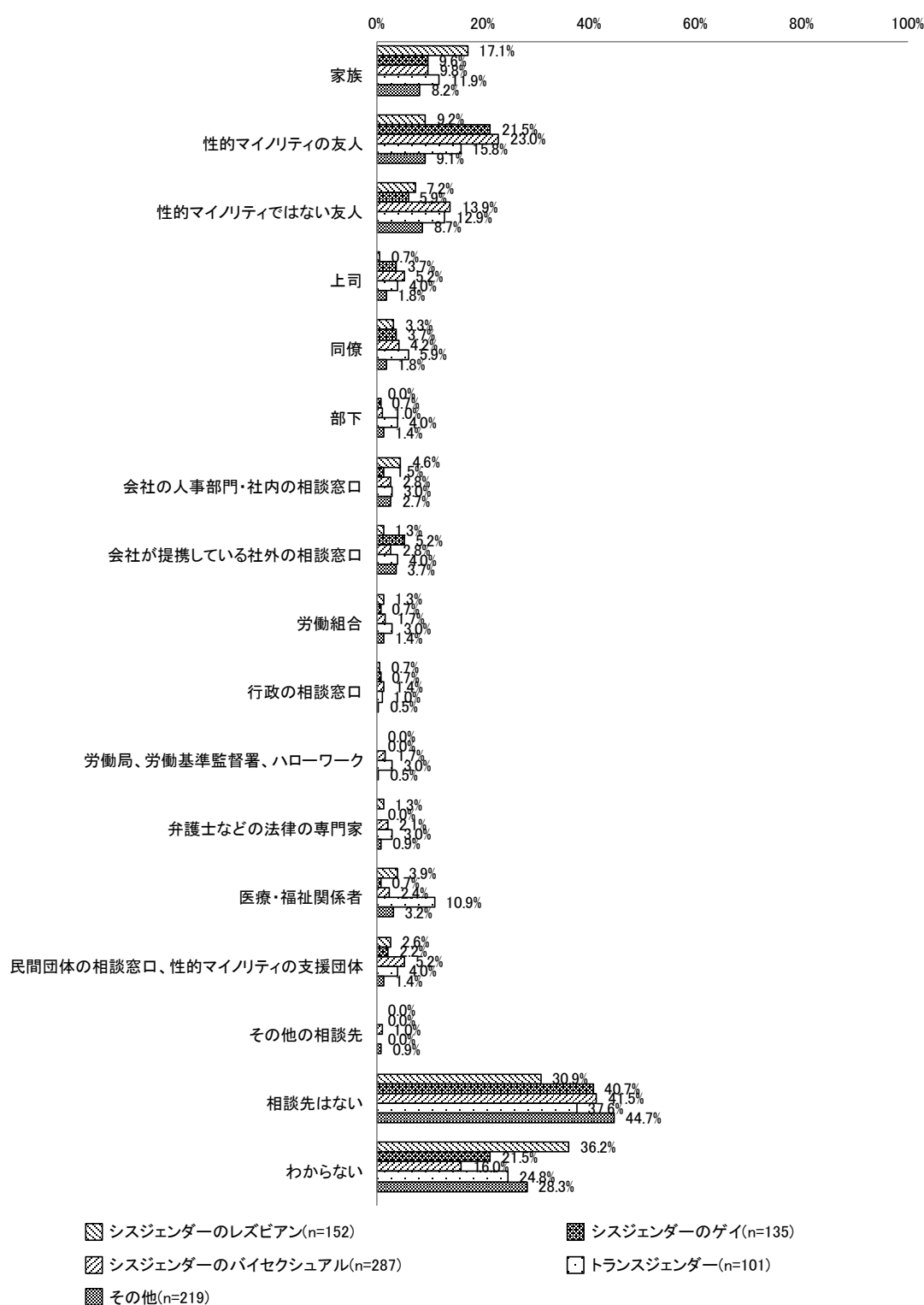
(集計結果の図表は次ページに掲載)

#### Q42 の回答が「その他」の場合の自由回答

(文末の【】内は、回答者区分を示す。)

- |                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ ネット【シスジェンダーのバイセクシュアル】</li><li>・ おそらくカウンセリングセンター【その他】</li></ul> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|

図表Ⅳ- 81 働く上で困ることがあった場合の相談先：複数回答（Q42）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## (17) 職場での性的マイノリティに関する取組の状況

### ① 勤務先で行われている性的マイノリティに関する取組

「シスジェンダーの異性愛者」では、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定（差別禁止の明文化など）」が9.7%、「相談窓口の設置」が8.5%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定（差別禁止の明文化など）」が9.9%、「性的マイノリティに関する研修の実施」、「啓発のための取組（パンフレット等啓発資料やグッズの配布、啓発イベントの運営など）」がそれぞれ5.3%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定（差別禁止の明文化など）」が9.6%、「性的マイノリティに関する取組方針についてのトップメッセージの発信」が5.2%であった。

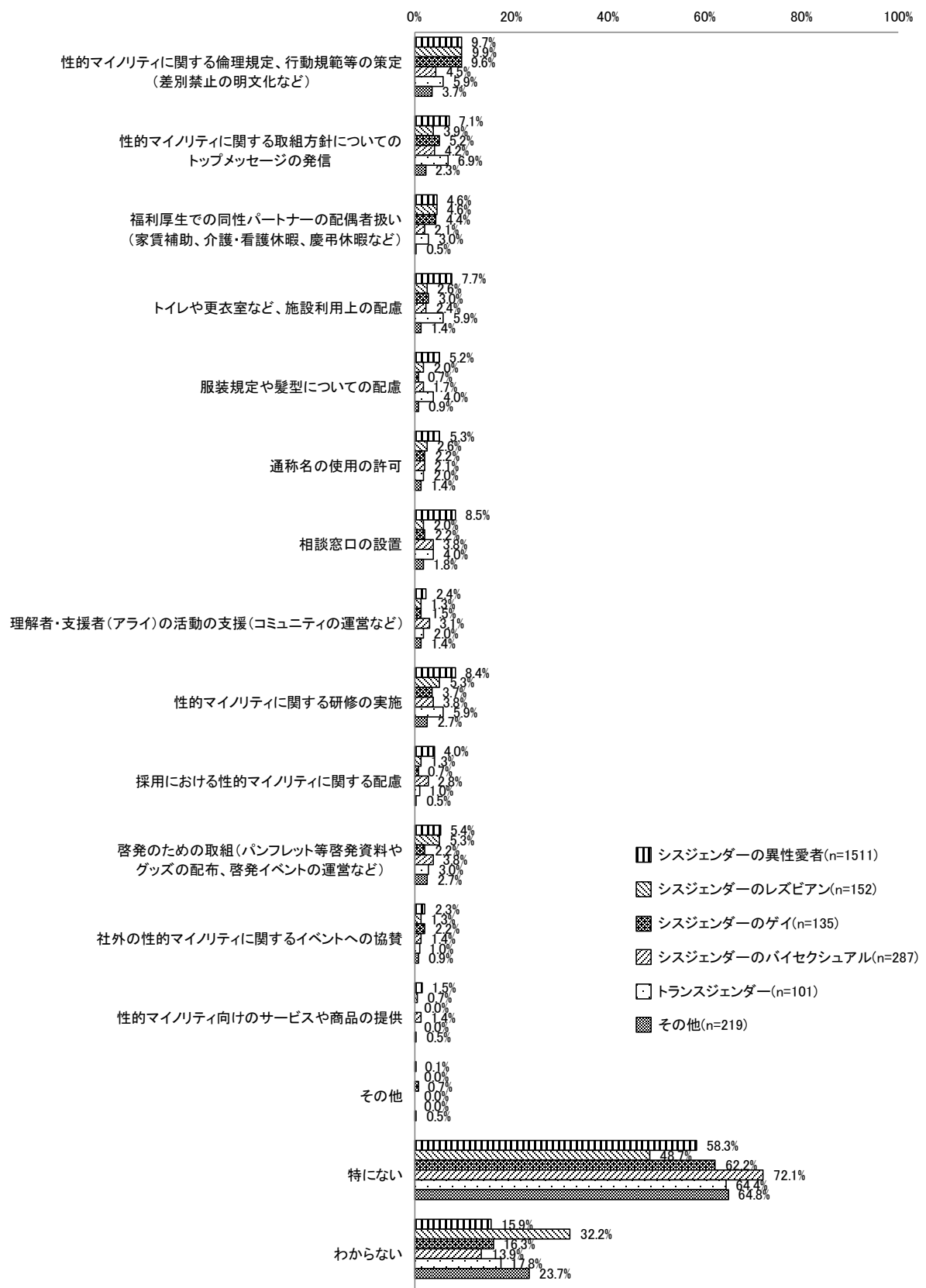
「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定（差別禁止の明文化など）」が4.5%、「性的マイノリティに関する取組方針についてのトップメッセージの発信」が4.2%であった。

「トランスジェンダー」では、「性的マイノリティに関する取組方針についてのトップメッセージの発信」が6.9%、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定（差別禁止の明文化など）」、「トイレや更衣室など、施設利用上の配慮」、「性的マイノリティに関する研修の実施」がそれぞれ5.9%であった。

「その他」では「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定（差別禁止の明文化など）」が3.7%、「性的マイノリティに関する研修の実施」、「啓発のための取組（パンフレット等啓発資料やグッズの配布、啓発イベントの運営など）」がそれぞれ2.7%であった。

（集計結果の図表は次ページに掲載）

図表Ⅳ- 82 勤務先で行われている性的マイノリティに関する取組：複数回答（Q43）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。



## ② 勤務先で行われている性的マイノリティに関する取組のうち、自身の働きやすさにつながっていると感じる取組

「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者について、勤務先で性的指向・性自認に関する取組が行われている場合(Q43 で1つ以上の取組が実施されていると回答があった場合)、自身の働きやすさにつながっていると感じる取組をみたところ、「シスジェンダーのレズビアン」では、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定(差別禁止の明文化など)」が24.1%、「性的マイノリティに関する研修の実施」が10.3%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定(差別禁止の明文化など)」が27.6%、「トイレや更衣室など、施設利用上の配慮」が10.3%であった。

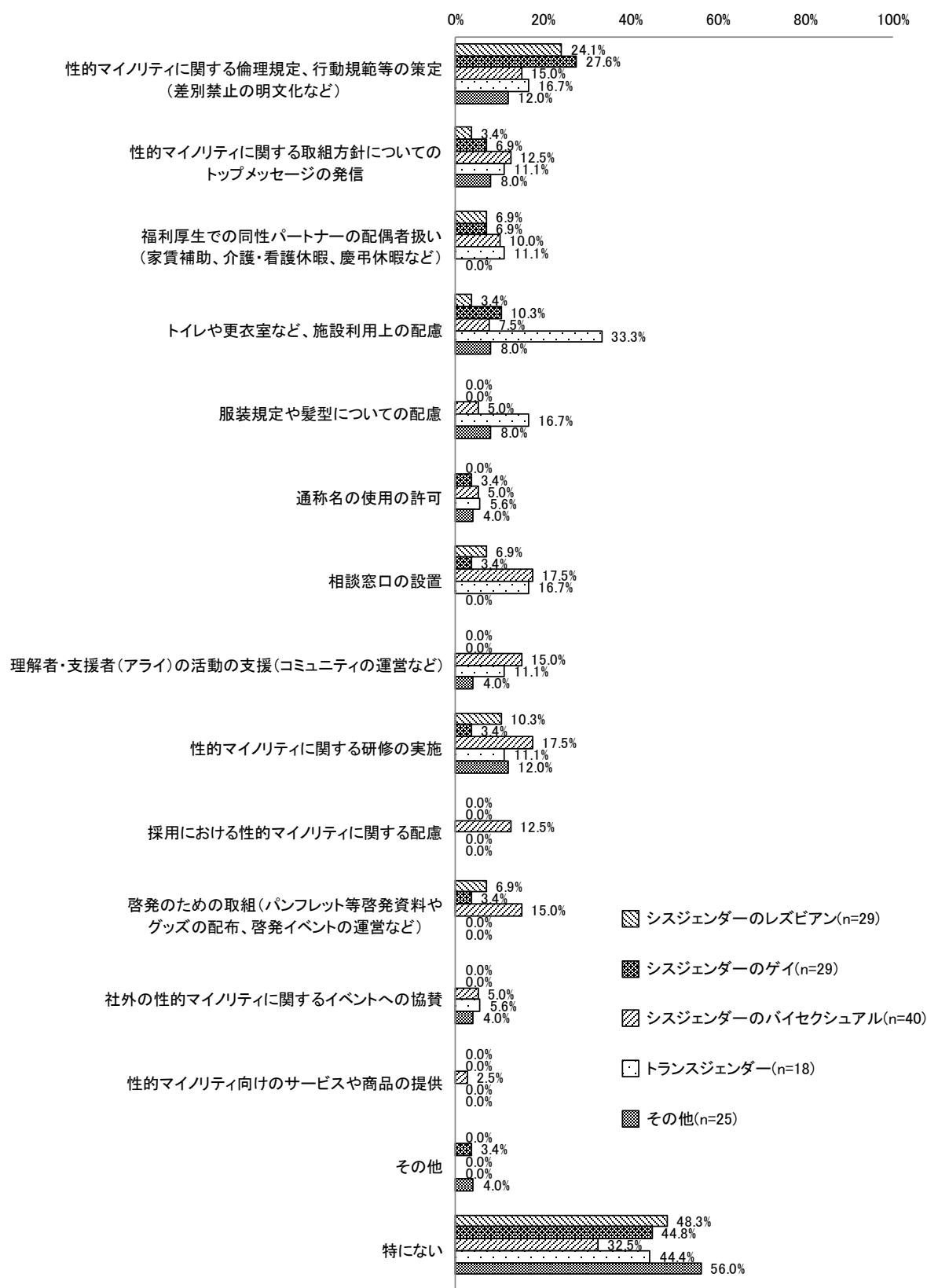
「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「相談窓口の設置」、「性的マイノリティに関する研修の実施」がそれぞれ17.5%であった。

「トランスジェンダー」では、「トイレや更衣室など、施設利用上の配慮」が33.3%、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定(差別禁止の明文化など)」、「服装規定や髪型についての配慮」、「相談窓口の設置」がそれぞれ16.7%であった。

「その他」では、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定(差別禁止の明文化など)」、「性的マイノリティに関する研修の実施」がそれぞれ12.0%であった。

(集計結果の図表は次ページに掲載)

図表Ⅳ- 83 勤務先で行われている性的マイノリティに関する取組のうち、自身の働きやすさにつながっていると感じる取組：複数回答（Q44）



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

### ③ 性的マイノリティが働きやすい職場環境をつくるために、行われたら良いと思う取組

実際に実施されているかどうかに関わらず、いまの勤務先で行われたらよいと思うと取組をたずねた。

「シスジェンダーの異性愛者」では、「トイレや更衣室など、施設利用上の配慮」が 31.2%、「福利厚生での同性パートナーの配偶者扱い（家賃補助、介護・看護休暇、慶弔休暇など）」が 24.5%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「福利厚生での同性パートナーの配偶者扱い（家賃補助、介護・看護休暇、慶弔休暇など）」が 21.1%、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定（差別禁止の明文化など）」が 19.7%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定（差別禁止の明文化など）」が 21.5%、「福利厚生での同性パートナーの配偶者扱い（家賃補助、介護・看護休暇、慶弔休暇など）」が 20.7%であった。

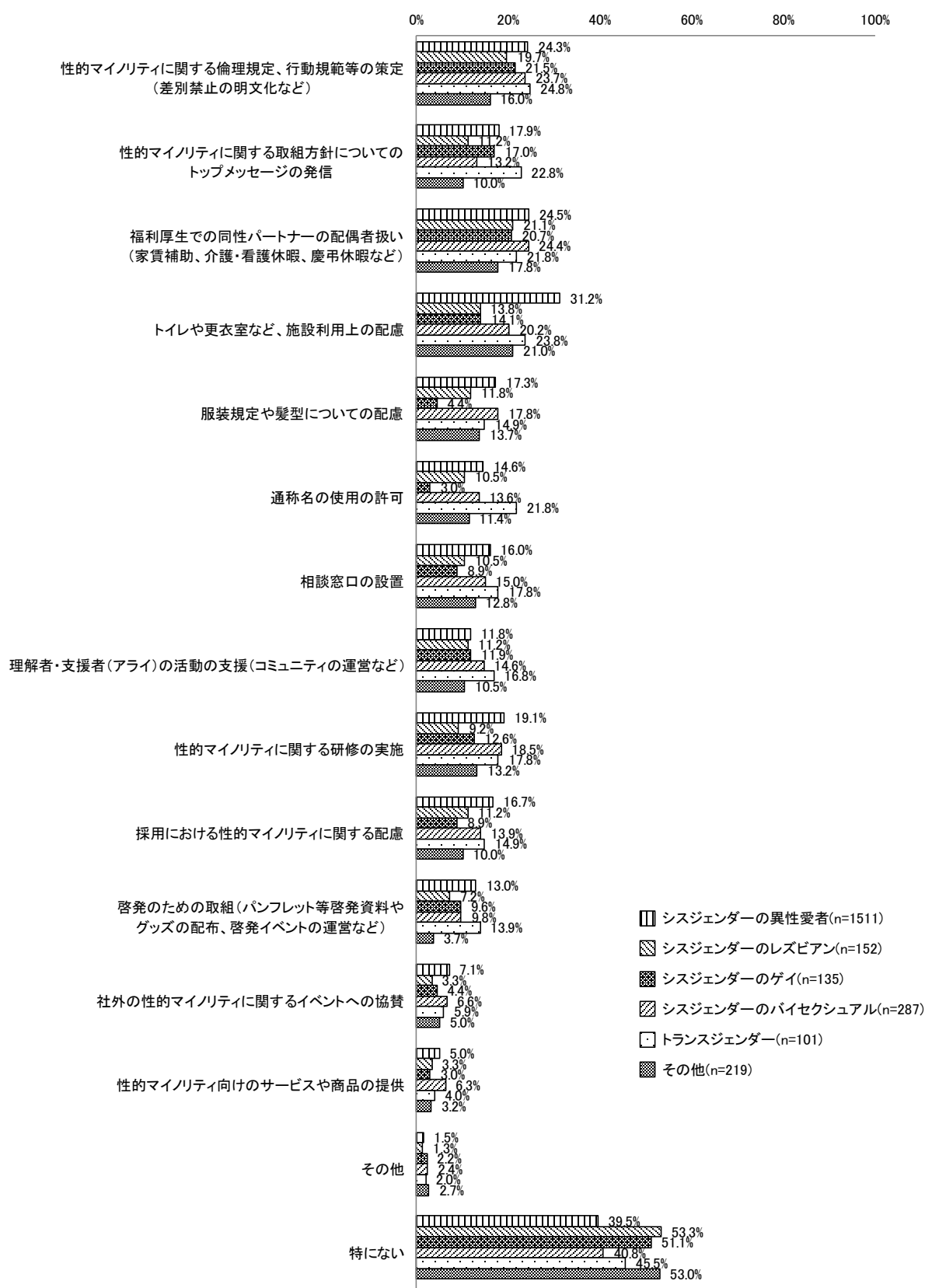
「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「福利厚生での同性パートナーの配偶者扱い（家賃補助、介護・看護休暇、慶弔休暇など）」が 24.4%、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定（差別禁止の明文化など）」が 23.7%であった。

「トランスジェンダー」では、「性的マイノリティに関する倫理規定、行動規範等の策定（差別禁止の明文化など）」が 24.8%、「トイレや更衣室など、施設利用上の配慮」が 23.8%であった。

「その他」では、「トイレや更衣室など、施設利用上の配慮」が 21.0%、「福利厚生での同性パートナーの配偶者扱い（家賃補助、介護・看護休暇、慶弔休暇など）」が 17.8%であった。

（集計結果の図表は次ページに掲載）

図表Ⅳ- 84 性的マイノリティが働きやすい職場環境をつくるために、行われたら良いと思う取組：複数回答（Q45）



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

④ 性的マイノリティが働きやすい職場環境をつくるために、行われたら良いと思う取組  
(自由回答)

性的マイノリティが働きやすい職場環境をつくるために、行われたら良いと思う取組について、自由記述で回答を求めたところ、以下のような回答があった。

性的マイノリティが働きやすい職場環境をつくるために行われたら良いと思う取組への回答：自由回答 (Q46)

(文末の【】内は、回答者区分を示す。)

■上司や経営層の意識変革が必要とする例

- ・ 社長からのメッセージとして発信する。【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）】
- ・ トップ自らが社内外に対し、性的マイノリティを差別しない会社であるべきという表明を行うこと。【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）】
- ・ 経営者が高齢でそもそも理解しようとししない。マイノリティを異常者だと思っている認識を変えることはなかなか難しい。【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）】
- ・ 上司が、寛容で臨機応変な態度で接するべき。一番理解を深めないといけないと思う。【トランスジェンダー】

■ジェンダー規範やジェンダーによる差別をなくすことが必要とする例

- ・ 現在の職場が男中心の職場のためなかなか難しい。女性への差別の方が深刻と思う。（そのような中で）LGBT（の話題）は表に出ない。【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）】
- ・ 制服を男女で区別しない。もしくは制服を選択できるようにする。例えパンツスタイルの制服を女性が選択できたとしても、パンツの下にストッキングを履くことを強制してはいけないと思う。【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）】
- ・ 男女の区別をしない。【シスジェンダーのレズビアン】

■かえって、特別な対応をしない方が良いとする例

- ・ 性的マイノリティは、特別なことではないので、大々的に研修だ、勉強だなどせず、至って普通で良いと思う。要望は人事と話し合っ決めて欲しい。同じ人間であること、騒ぎ立てないのが相手のためにもいちばんよい。【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）】
- ・ 環境整備以外に取り立てて何かをする必要はないと思う。むしろ「性的マイノリティだから」というおせっかい的な、過剰な配慮をしないで欲しい。【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）】
- ・ 特別なことをする限り差別は続くので、何もしないのが一番。【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）】

## 2.4 これまでの求職時の状況

### (1) これまでの就職活動において、応募する企業の性的マイノリティに関する取組状況について、情報を得た経験

「シスジェンダーのレズビアン」では、「企業のホームページやパンフレット」が 5.3%、「家族・友人」、「書籍、雑誌」などがそれぞれ 4.6%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」が 6.7%、「企業のホームページやパンフレット」が 5.2%であった。

「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」が 7.0%、「LGBTに関する取組を行っている企業への表彰・認定制度」が 6.3%であった。

「トランスジェンダー」では、「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」が 9.9%、「LGBTに関する取組を行っている企業への表彰・認定制度」が 8.9%であった。

「その他」では、「テレビや新聞、ラジオなどのマスメディア」が 5.9%、「書籍・雑誌」が 3.2%であった。

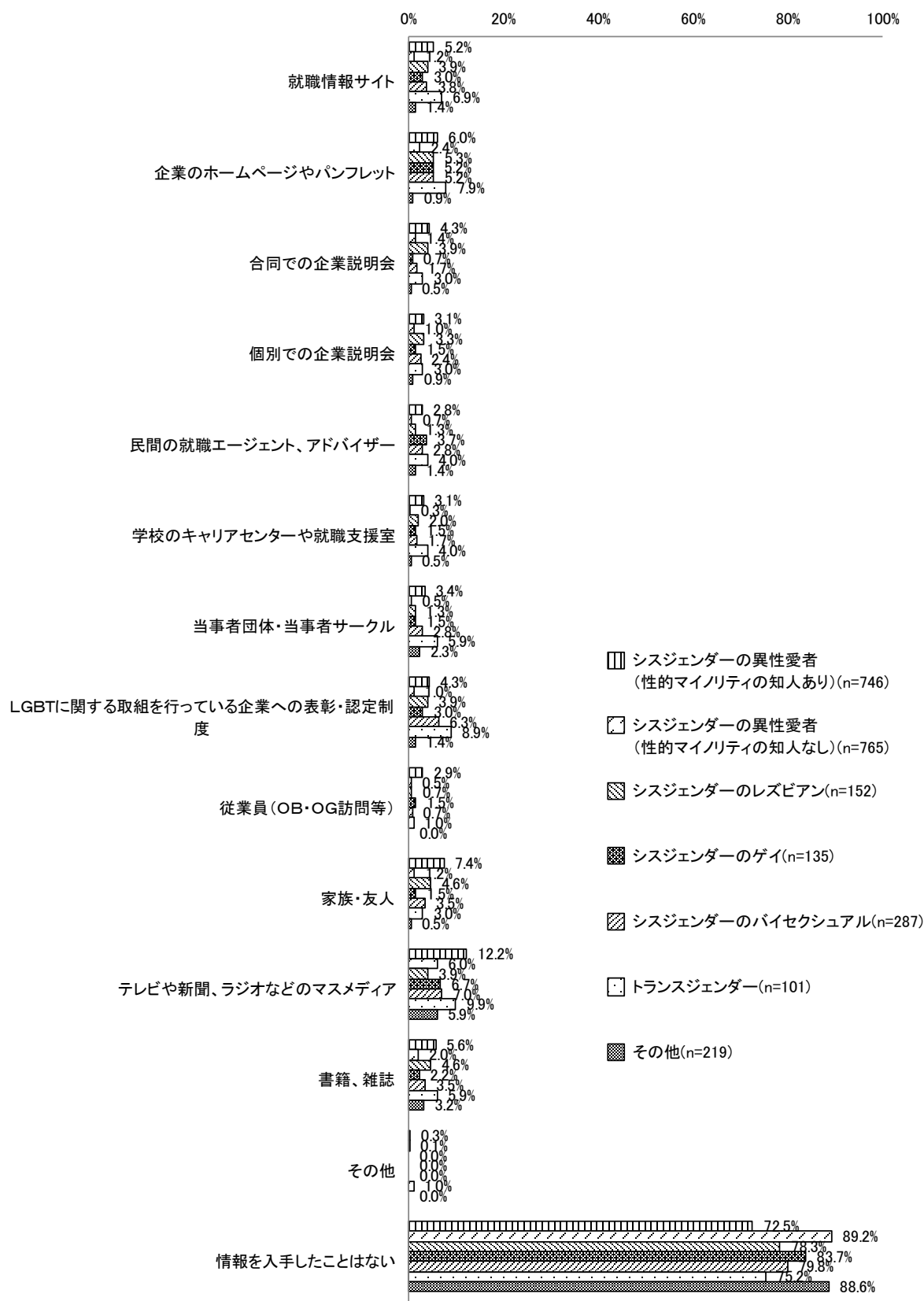
#### Q47 の回答が「その他」の場合の自由回答

(文末の【】内は、回答者区分を示す。)

- |                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 同業者【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）】</li><li>・ 面接で質問した。【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）】</li><li>・ SNS【トランスジェンダー】</li></ul> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(集計結果の図表は次ページに掲載)

図表Ⅳ- 85 これまでの就職活動において、応募する企業の性的マイノリティに関する取組状況について、情報を得た経験：複数回答（Q47）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## (2) これまでの就職活動において、就職活動をしていたときに重視していた点

「シスジェンダーのレズビアン」では、「仕事の内容」が 57.9%、「給与」が 55.9%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「仕事の内容」が 62.2%、「給与」が 54.1%であった。

「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「仕事の内容」が 74.2%、「給与」が 67.9%であった。

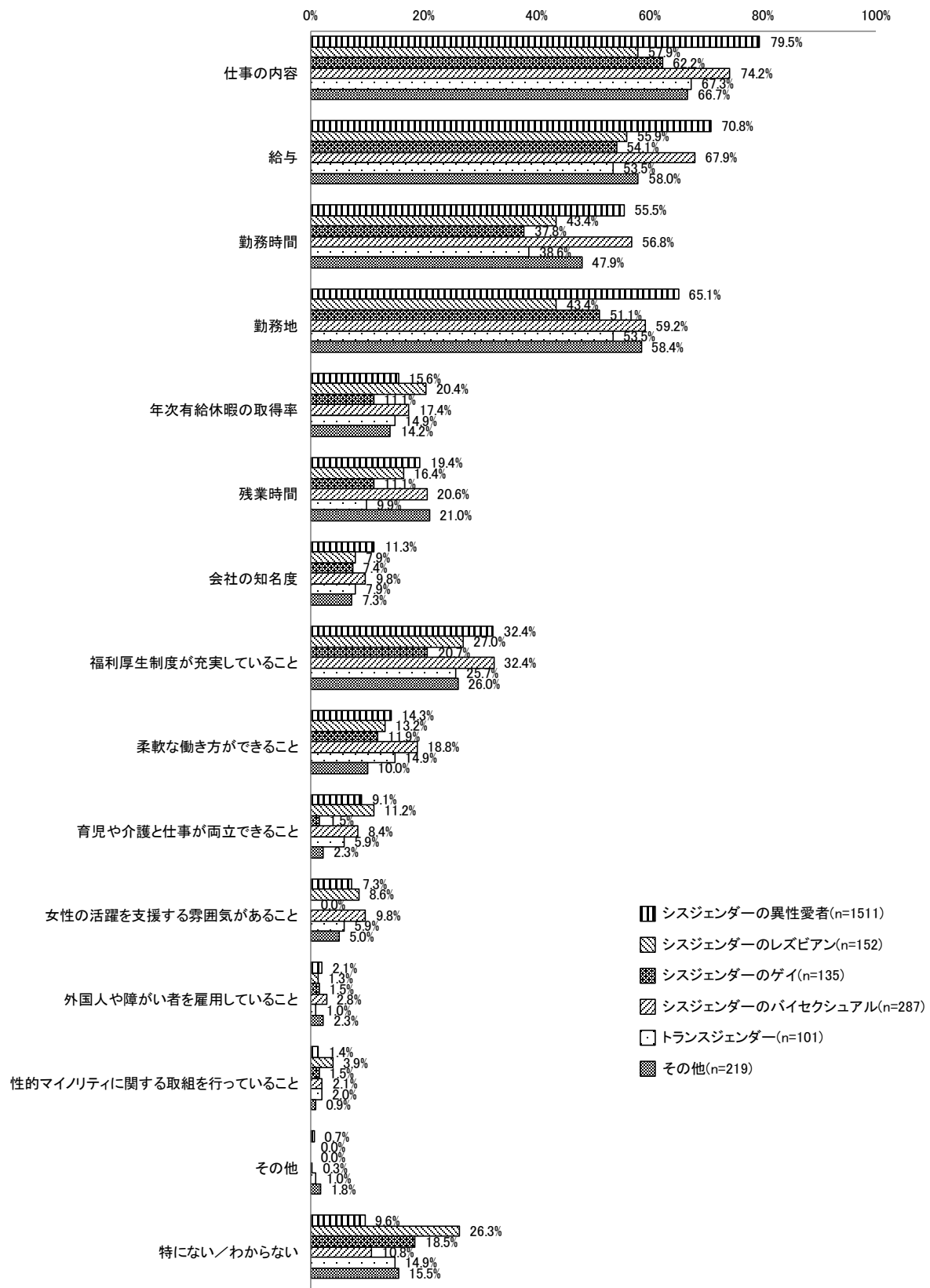
「トランスジェンダー」では、「仕事の内容」が 67.3%、「給与」、「勤務地」がそれぞれ 53.5%であった。

「その他」では、「仕事の内容」が 66.7%、「勤務地」が 58.4%であった。

(集計結果の図表は次ページに掲載)



図表Ⅳ- 86 これまでの就職活動において、就職活動をしていたときに重視していた点：複数回答 (Q48)



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無 (Q7) への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

### (3) これまでの就職活動における困難

「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者について、求職時の困難をたずねた。

#### ① これまでの就職活動において、性的マイノリティであることを理由に困ったこと

「シスジェンダーのレズビアン」では、「男性募集」「女性募集」など、性別に関する記載があったこと、「スーツの着用など、選考に臨む際の外見に関すること」がそれぞれ7.9%、「自分自身のことをアピールしづらいこと」が6.6%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「異性愛者であることを前提とした対応や質問をされたこと」が11.9%、「男性募集」「女性募集」など、性別に関する記載があったこと」が8.1%であった。

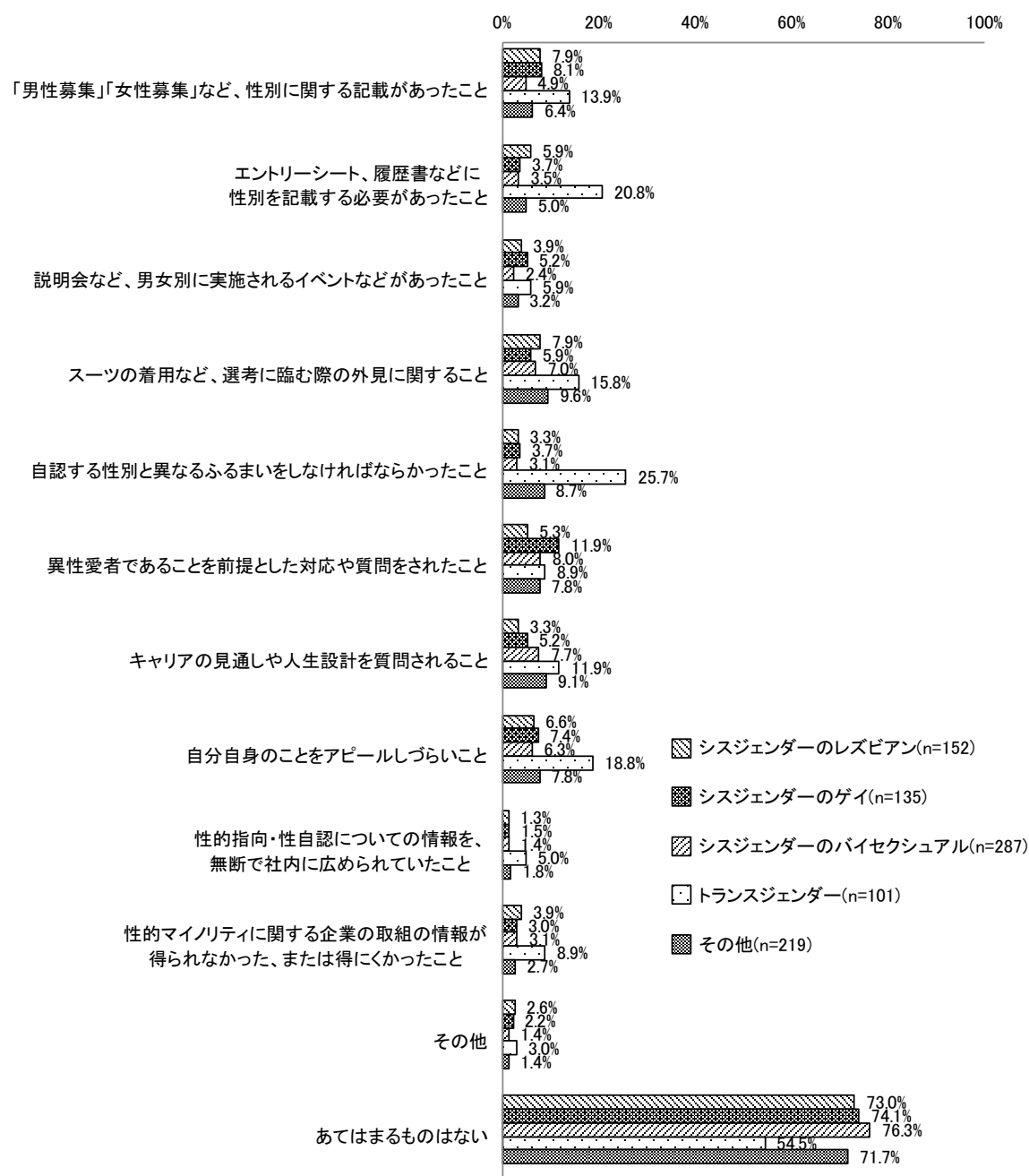
「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「異性愛者であることを前提とした対応や質問をされたこと」が8.0%、「キャリアの見通しや人生設計を質問されること」が7.7%であった。

「トランスジェンダー」では、「自認する性別と異なるふるまいをしなければならなかったこと」が25.7%、「エントリーシート、履歴書などに性別を記載する必要があったこと」が20.8%であった。

「その他」では、「スーツの着用など、選考に臨む際の外見に関すること」が9.6%、「キャリアの見通しや人生設計を質問されること」が9.1%であった。

(集計結果の図表は次ページに掲載)

図表Ⅳ- 87 これまでの就職活動において、性的マイノリティであることを理由に困ったこと：  
複数回答（Q49\_1）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

② これまでの就職活動において、性的マイノリティであることを理由に困ったことのうち、最も困ったこと

「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者のうち、求職時の困難があった人(Q49\_1で1つ以上の困ったことがあると回答があった人)について、最も困ったことをみたところ、「シスジェンダーのレズビアン」では、「男性募集」「女性募集」など、性別に関する記載があったこと」が19.5%、「スーツの着用など、選考に臨む際の外見に関すること」が14.6%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「異性愛者であることを前提とした対応や質問をされたこと」が31.4%、「男性募集」「女性募集」など、性別に関する記載があったこと」が17.1%であった。

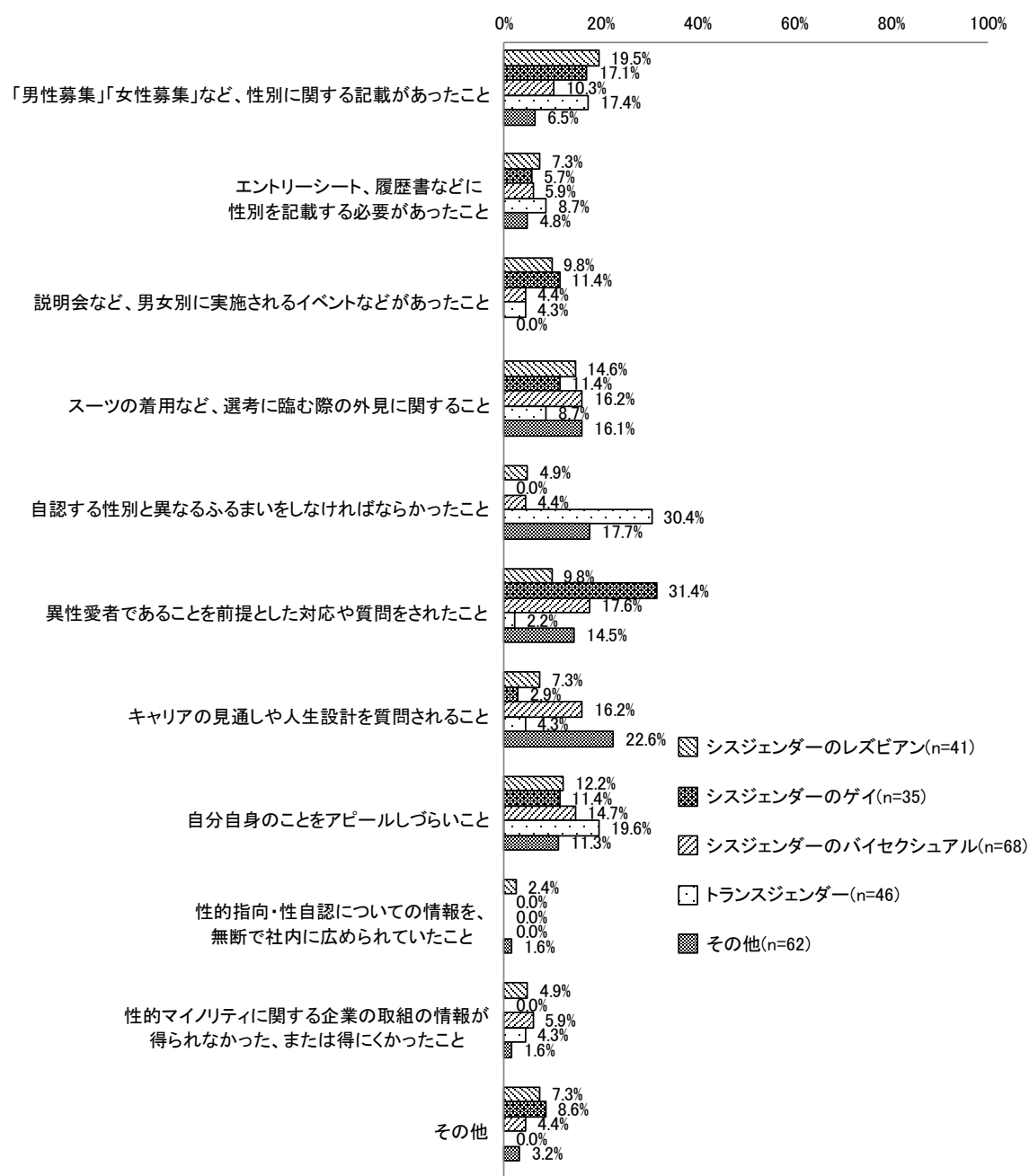
「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「異性愛者であることを前提とした対応や質問をされたこと」が17.6%、「スーツの着用など、選考に臨む際の外見に関すること」、「キャリアの見通しや人生設計を質問されること」がそれぞれ16.2%であった。

「トランスジェンダー」では、「自認する性別と異なるふるまいをしなければならなかったこと」が30.4%、「自分自身のことをアピールしづらいこと」が19.6%であった。

「その他」では、「キャリアの見通しや人生設計を質問されること」が22.6%、「自認する性別と異なるふるまいをしなければならなかったこと」が17.7%であった。

(集計結果の図表は次ページに掲載)

図表Ⅳ- 88 これまでの就職活動において、性的マイノリティであることを理由に困ったことのうち、最も困ったこと：単数回答（Q49\_2）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

③ これまでの就職活動において、性的マイノリティであることを理由に困ったこと（自由回答）

就職活動をしていたときに、性的マイノリティであることを理由に困ったことについて、自由記述で回答を求めたところ、以下のような回答があった。

就職活動をしていたときに、性的マイノリティであることを理由に、困ったことへの回答：自由回答（Q50）

（文末の【】内は、回答者区分を示す。）

■異性愛者であることを前提とした対応をされたことで困難を感じた例

- ・ 結婚の意思をきかれたこと。【シスジェンダーのゲイ】
- ・ 結婚についてきかれた。【その他】

■自身のキャリア選択に係る困難を感じた例

- ・ いつ結婚するの？彼女はいるの？などと言った質問をされる時。同性と付き合っている、付き合っていると云えないので、独身なら転職問題ないよね？などと言われる。【シスジェンダーのゲイ】
- ・ 就職活動時に、まだ将来の展望を描けていなかったこと、家族へのカミングアウトができていなかったこと、実際に治療を始めたらかかる費用や時間についての知識がなかったため、キャリアプランニングができていなかった。【トランスジェンダー】
- ・ 女性だから長くは続かない。長く勤めなくてもよい。と言われた。会社としては、常に新卒位の人間が欲しく、女性が長く勤めることを望まない。【その他】

④ これまでの就職活動において、性的マイノリティであることを理由に困ったことがあった際の相談先

「シスジェンダーのレズビアン」では、「家族」が13.2%、「性的マイノリティの友人」が7.2%であり、「困りごとがあつたが、相談したことはなかった」が5.9%であつた。

「シスジェンダーのゲイ」では、「性的マイノリティの友人」が5.9%、「家族」が5.2%であり、「困りごとがあつたが、相談したことはなかった」が8.1%であつた。

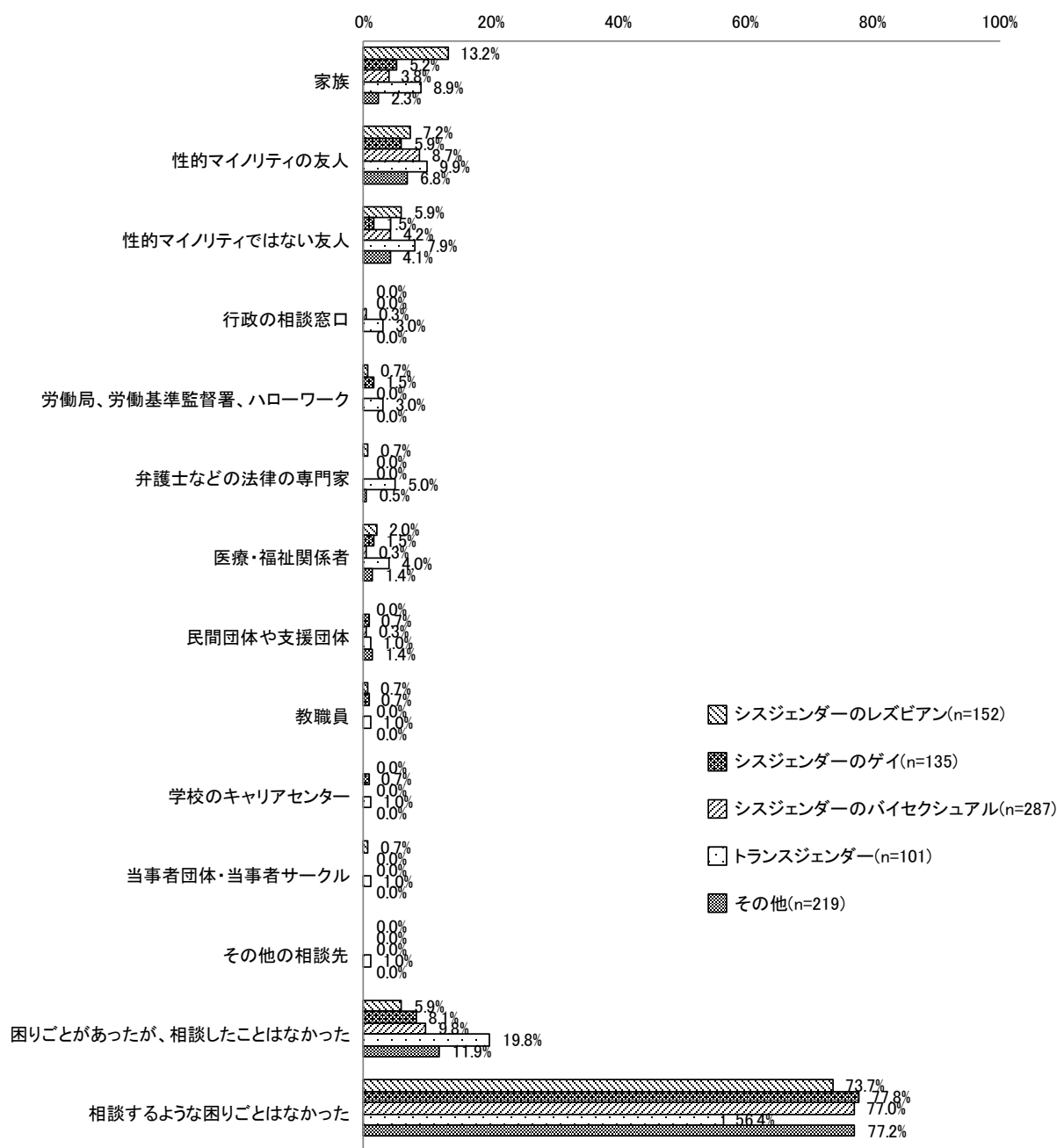
「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「性的マイノリティの友人」が8.7%、「性的マイノリティではない友人」が4.2%であり、「困りごとがあつたが、相談したことはなかった」が9.8%であつた。

「トランスジェンダー」では、「性的マイノリティの友人」が9.9%、「家族」が8.9%であり、「困りごとがあつたが、相談したことはなかった」が19.8%であつた。

「その他」では、「性的マイノリティの友人」が6.8%、「性的マイノリティではない友人」が4.1%であり、「困りごとがあつたが、相談したことはなかった」が11.9%であつた。

(集計結果の図表は次ページに掲載)

図表Ⅳ- 89 これまでの就職活動において、性的マイノリティであることを理由に困ったことがあった際の相談先：複数回答（Q51）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

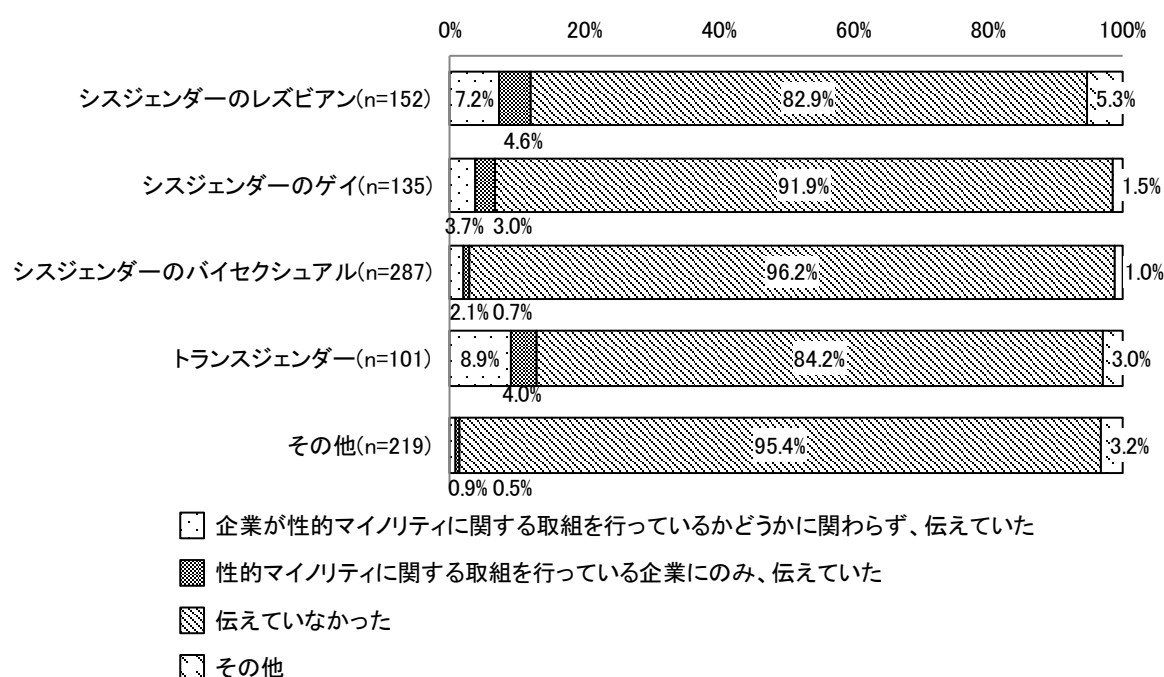


#### (4) これまでの就職活動において、性的マイノリティであることを伝えていたか

「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者について、就職活動をしていたときに、性的マイノリティであることを伝えていたかをみた。

「企業が性的マイノリティに関する取組を行っているかどうかに関わらず、伝えていた」、「性的マイノリティに関する取組を行っている企業にのみ、伝えていた」のいずれかと回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 11.8%、「シスジェンダーのゲイ」では 6.7%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 2.8%、「トランスジェンダー」では 12.9%、「その他」では 1.4%であった。

図表Ⅳ- 90 就職活動をしていたときに、性的マイノリティであることを伝えていたか：単数回答（Q52）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

#### Q52 の回答が「その他」の場合の自由回答 (文末の【】内は、回答者区分を示す。)

- 「当時、性的マイノリティであると自認していなかった」という回答
  - ・ 数年前まで意識していなかった。【その他】
  - ・ 現職入社時には性的マイノリティではなかった。【その他】

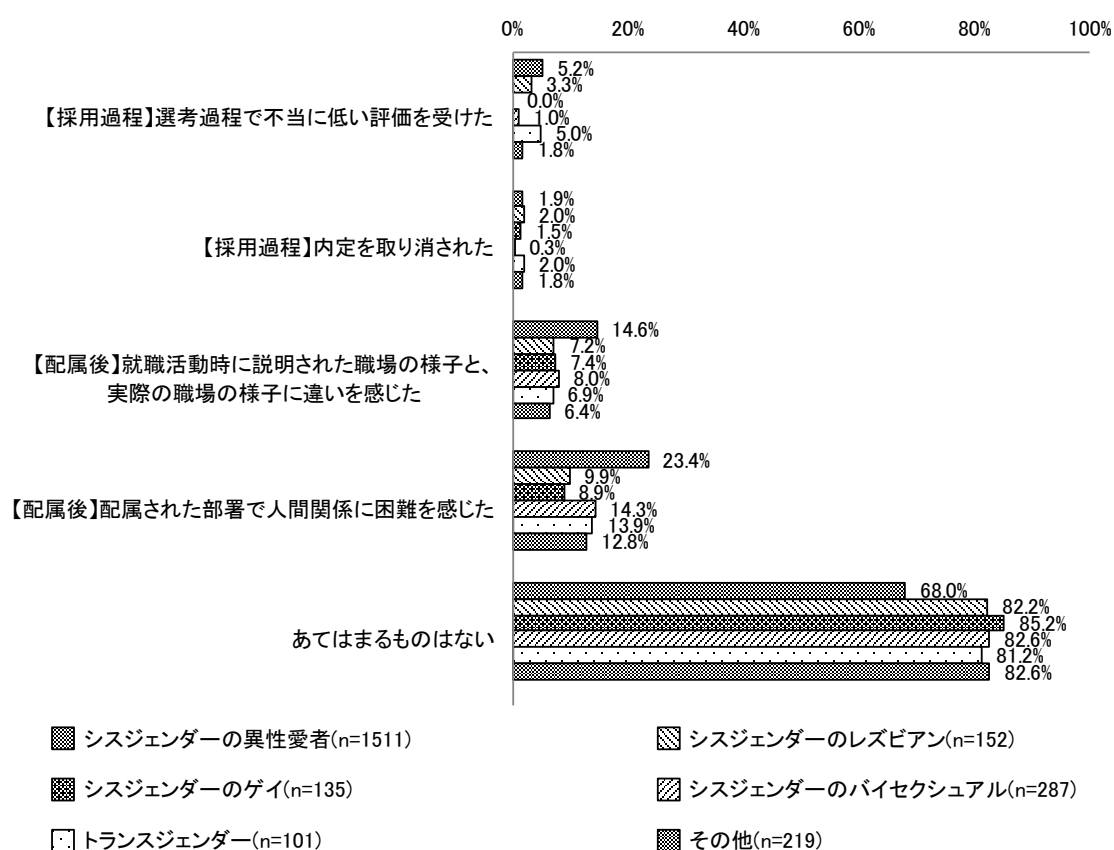
## (5) 就職活動時から配属後までの経験

「シスジェンダーの異性愛者」では、「配属された部署で人間関係に困難を感じた」が 23.4%、「就職活動時に説明された職場の様子と、実際の職場の様子に違いを感じた」が 14.6%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「配属された部署で人間関係に困難を感じた」が 9.9%、「就職活動時に説明された職場の様子と、実際の職場の様子に違いを感じた」が 7.2%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「配属された部署で人間関係に困難を感じた」が 8.9%、「就職活動時に説明された職場の様子と、実際の職場の様子に違いを感じた」が 7.4%であった。「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「配属された部署で人間関係に困難を感じた」が 14.3%、「就職活動時に説明された職場の様子と、実際の職場の様子に違いを感じた」が 8.0%であった。「トランスジェンダー」では、「配属された部署で人間関係に困難を感じた」が 13.9%、「就職活動時に説明された職場の様子と、実際の職場の様子に違いを感じた」が 6.9%であった。「その他」では、「配属された部署で人間関係に困難を感じた」が 12.8%、「就職活動時に説明された職場の様子と、実際の職場の様子に違いを感じた」が 6.4%であった。

図表Ⅳ- 91 就職活動時から配属後までの経験：複数回答（Q53）



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## (6) 転職の状況

### ① これまでに転職した経験

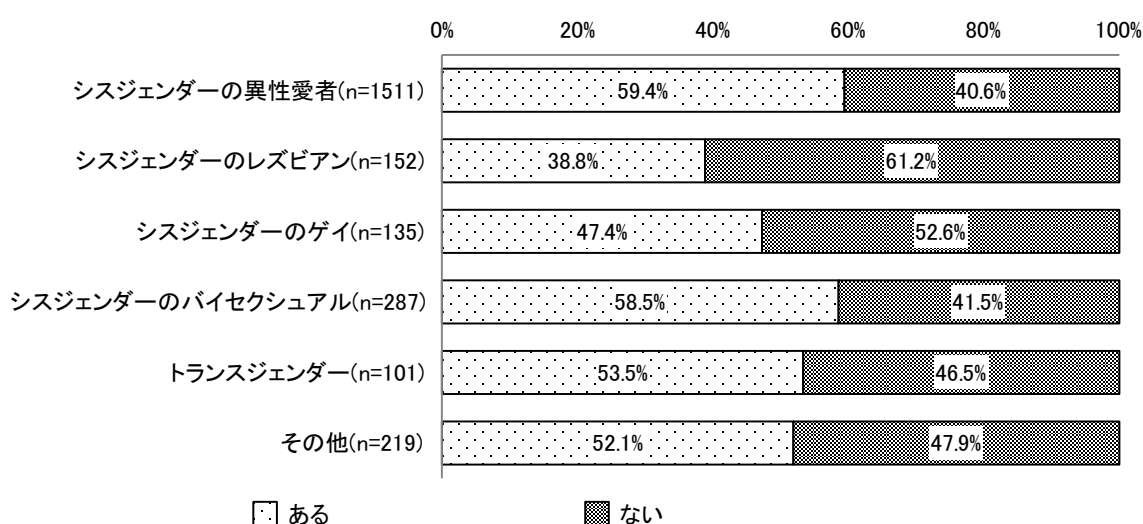
転職した経験が「ある」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 59.4%であった。

同様に、転職した経験が「ある」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 38.8%、「シスジェンダーのゲイ」では 47.4%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 58.5%、「トランスジェンダー」では 53.5%、「その他」では 52.1%であった。

また、転職した経験が「ある」と回答した人に対して、転職回数をたずねたところ、「シスジェンダーの異性愛者」では平均 2.8 回であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では平均 3.8 回、「シスジェンダーのゲイ」では平均 3.0 回、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では平均 3.0 回、「トランスジェンダー」では平均 3.3 回であった。「その他」では平均 3.0 回であった。

図表Ⅳ- 92 これまでに転職した経験の有無：単数回答（Q54）



図表Ⅳ- 93 これまでの転職回数に関する基本統計量：数値回答（Q54）

単位：回

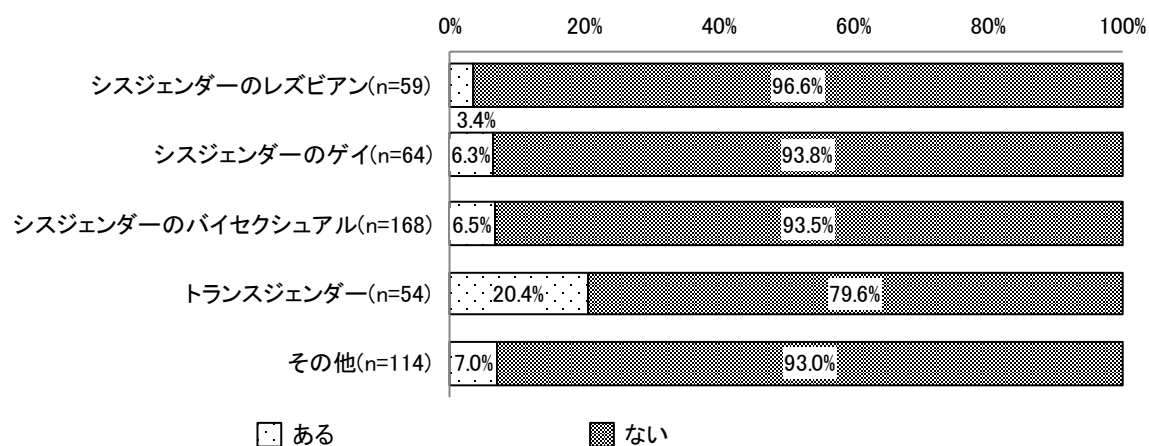
|                  | 件数  | 平均  | 標準偏差 | 最大値 | 最小値 | 中央値 |
|------------------|-----|-----|------|-----|-----|-----|
| シスジェンダーの異性愛者     | 898 | 2.8 | 2.2  | 30  | 1   | 2   |
| シスジェンダーのレズビアン    | 59  | 3.8 | 3.0  | 15  | 1   | 3   |
| シスジェンダーのゲイ       | 64  | 3.0 | 2.1  | 10  | 1   | 2.5 |
| シスジェンダーのバイセクシュアル | 168 | 3.0 | 2.8  | 20  | 1   | 2   |
| トランスジェンダー        | 54  | 3.3 | 2.2  | 12  | 1   | 3   |
| その他              | 114 | 3.0 | 3.1  | 30  | 1   | 2   |

注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無（Q7）への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

② 性的マイノリティであることを理由に、職場で不快な思いをしたことや働きづらくなったことがきっかけで、転職した経験

「シスジェンダーの異性愛者」以外に区分される回答者について、性的マイノリティであることを理由に、職場で不快な思いをしたことや働きづらくなったことがきっかけで、転職した経験があるかをみた。「ある」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では3.4%、「シスジェンダーのゲイ」では6.3%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では6.5%、「トランスジェンダー」では20.4%、「その他」では7.0%であった。

図表Ⅳ- 94 性的マイノリティであることを理由に、職場で不快な思いをしたことや働きづらくなったことがきっかけで、転職した経験：単数回答（Q55）



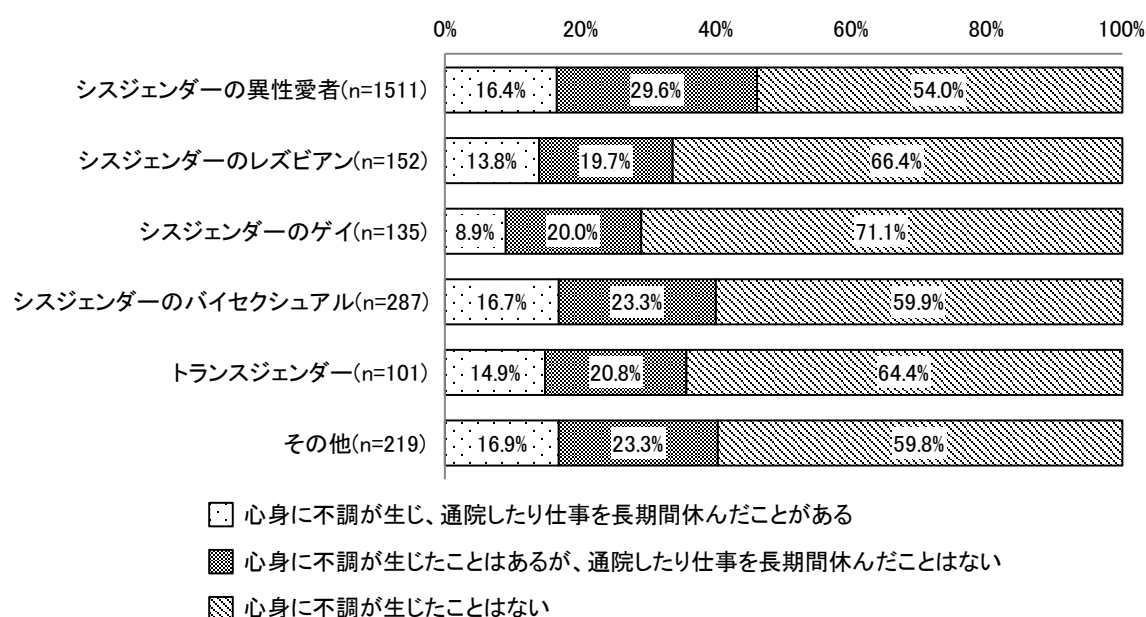
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

(7) 職場で不快な思いをしたことや働きづらくなったことがきっかけで、心身に重大な不調が生じたり、通院したり仕事を長期間休んだ経験

「心身に不調が生じ、通院したり仕事を長期間休んだことがある」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 16.4%であった。

同様に、「心身に不調が生じ、通院したり仕事を長期間休んだことがある」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 13.8%、「シスジェンダーのゲイ」では 8.9%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 16.7%、「トランスジェンダー」では 14.9%、「その他」では 16.9%であった。

図表Ⅳ- 95 職場で不快な思いをしたことや働きづらくなったことがきっかけで、心身に重大な不調が生じたり、通院したり仕事を長期間休んだ経験：単数回答（Q56）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## 2.5 現在の心身の状況や仕事に対する意欲

### (1) メンタルヘルスの状況

メンタルヘルスの状況は、K6 を使用して測定した。K6 とは、うつ病等の精神疾患のスクリーニングを目的として、Kessler ら (2003) によって開発された尺度であり、全 6 項目から構成される。

<sup>1</sup> 国内では厚生労働省の国民生活基礎調査などにおいても広く用いられている。

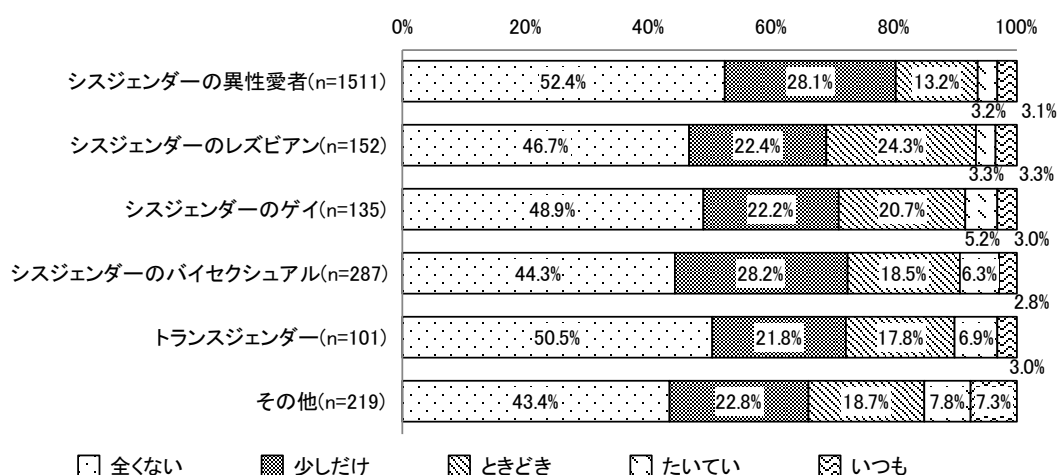
本調査では、Furukawa ら (2008) によって開発された K6 日本語版を用いている。<sup>2</sup> 以下では、K6 の各項目の集計結果と、6 項目を元に算出した K6 得点に関する集計結果を掲載している。

#### ① 過去 30 日間で、「神経過敏に感じた」経験

「全くない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 52.4% であった。

同様に、「全くない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 46.7%、「シスジェンダーのゲイ」では 48.9%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 44.3%、「トランスジェンダー」では 50.5%、「その他」では 43.4% であった。

図表Ⅳ- 96 過去 30 日間で、「神経過敏に感じた」経験：単数回答 (Q57\_1)



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無 (Q7) への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

<sup>1</sup> Kessler, R.C., Barker, P.R., Colpe, L.J., Epstein, J.F., Gfroerer, J.C., Hiripi, E., Howes, M.J., Normand, S-L.T., Manderscheid, R.W., Walters, E.E., Zaslavsky, A.M. (2003) Screening for serious mental illness in the general population Archives of General Psychiatry. 60 (2), 184-189.

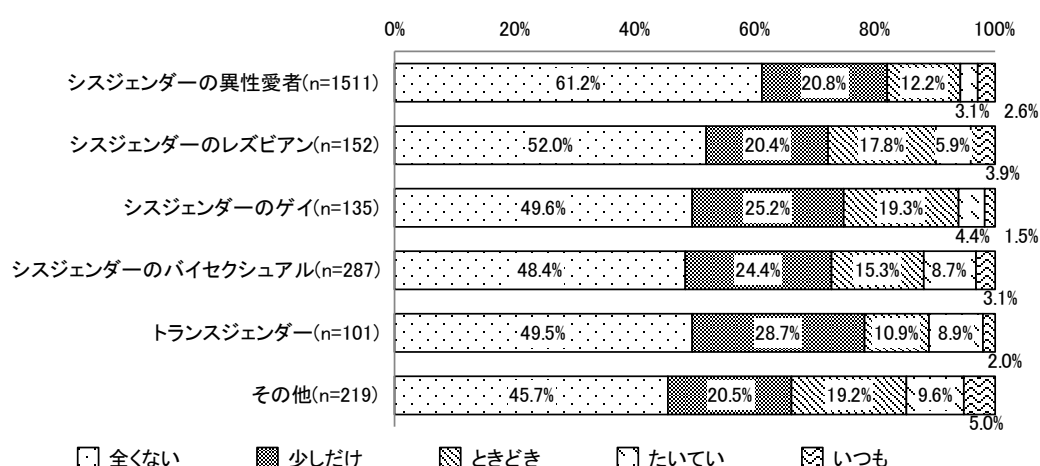
<sup>2</sup> Furukawa TA, Kawakami N, Saitoh M, Ono Y, Nakane Y, Nakamura Y, Tachimori H, Iwata N, Uda H, Nakane H, Watanabe M, Naganuma Y, Hata Y, Kobayashi M, Miyake Y, Takeshima T & Kikkawa T (2008) The performance of the Japanese version of the K6 and K10 in the World Mental Health Survey Japan. Int J Methods Psychiatr Res, 17, 152-158.

## ② 過去 30 日間で、「絶望的に感じた」経験

「全くない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 61.2%であった。

同様に、「全くない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 52.0%、「シスジェンダーのゲイ」では 49.6%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 48.4%、「トランスジェンダー」では 49.5%、「その他」では 45.7%であった。

図表Ⅳ- 97 過去 30 日間で、「絶望的に感じた」経験：単数回答（Q57\_2）



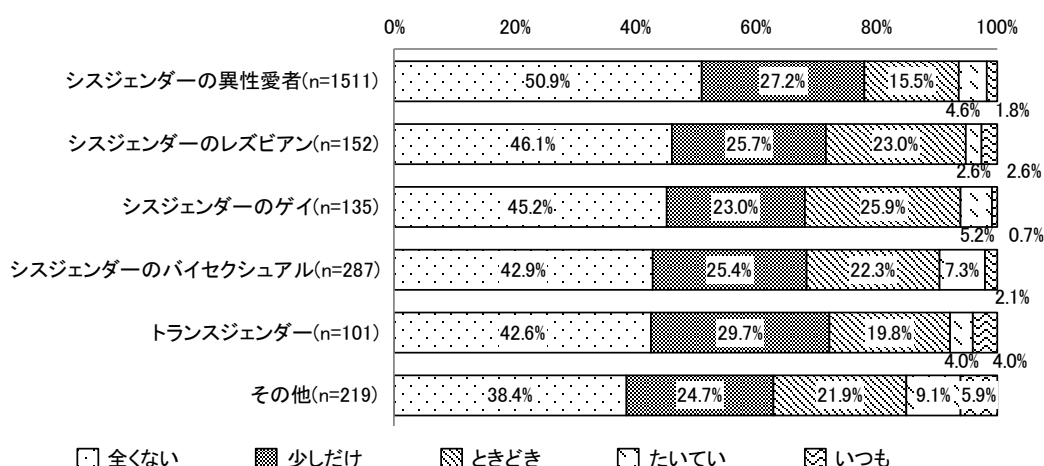
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ③ 過去 30 日間で、「そろそろ、落ち着かなく感じた」経験

「全くない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 50.9%であった。

同様に、「全くない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 46.1%、「シスジェンダーのゲイ」では 45.2%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 42.9%、「トランスジェンダー」では 42.6%、「その他」では 38.4%であった。

図表Ⅳ- 98 過去 30 日間で、「そろそろ、落ち着かなく感じた」経験：単数回答（Q57\_3）



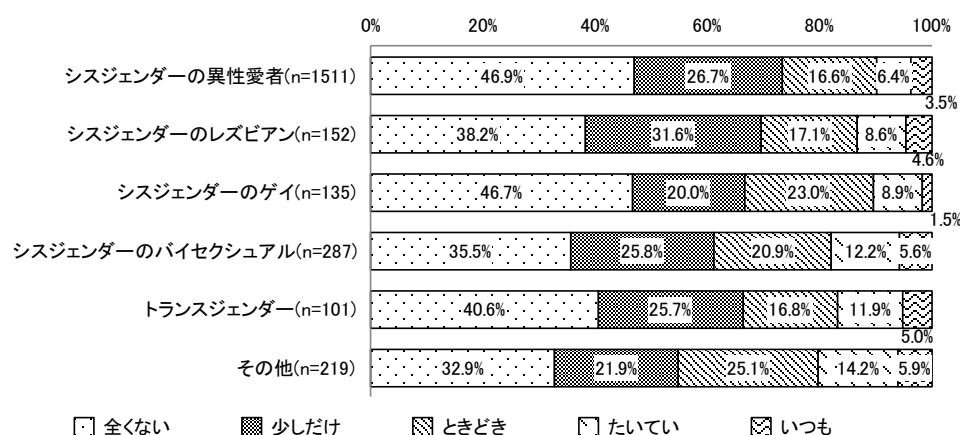
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

#### ④ 過去 30 日間で、「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた」経験

「全くない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 46.9%であった。

同様に、「全くない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 38.2%、「シスジェンダーのゲイ」では 46.7%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 35.5%、「トランスジェンダー」では 40.6%、「その他」では 32.9%であった。

図表Ⅳ- 99 過去 30 日間で、「気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じた」経験：単数回答（Q57\_4）



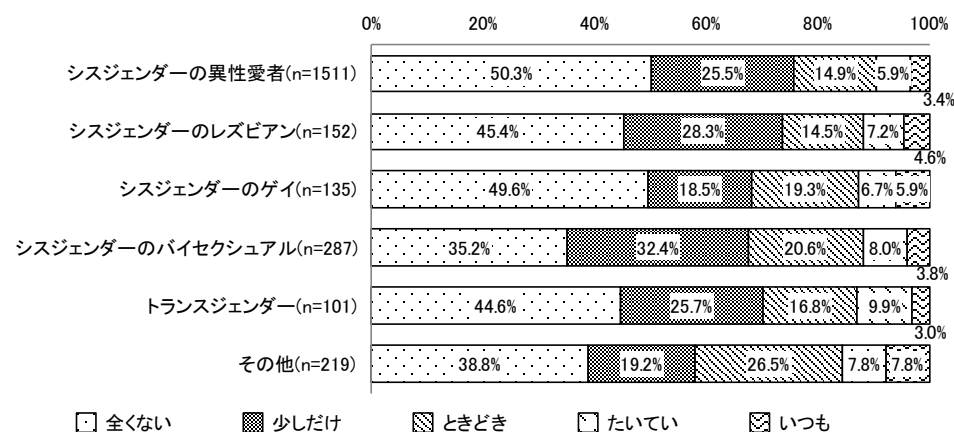
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

#### ⑤ 過去 30 日間で、「何をするのも骨折りだと感じた」経験

「全くない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 50.3%であった。

同様に、「全くない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 45.4%、「シスジェンダーのゲイ」では 49.6%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 35.2%、「トランスジェンダー」では 44.6%、「その他」では 38.8%であった。

図表Ⅳ- 100 過去 30 日間で、「何をするのも骨折りだと感じた」経験：単数回答（Q57\_5）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

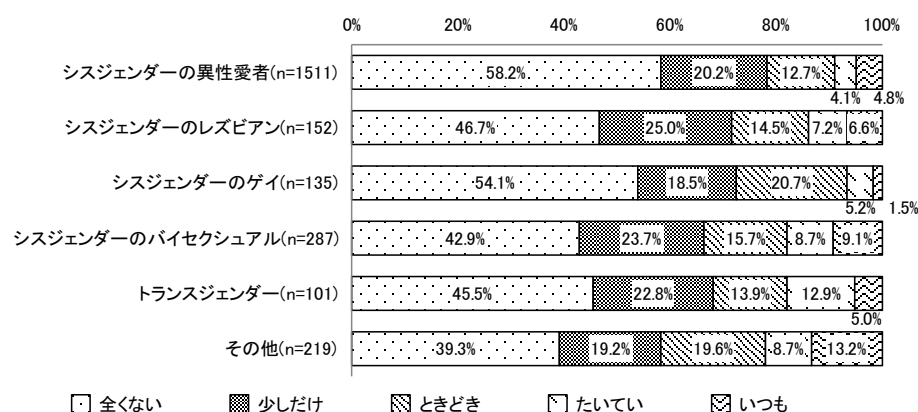


## ⑥ 過去 30 日間で、「自分は価値のない人間だと感じた」経験

「全くない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 58.2%であった。

同様に、「全くない」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 46.7%、「シスジェンダーのゲイ」では 54.1%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 42.9%、「トランスジェンダー」では 45.5%、「その他」では 39.3%であった。

図表Ⅳ- 101 過去 30 日間で、「自分は価値のない人間だと感じた」経験：単数回答（Q57\_6）



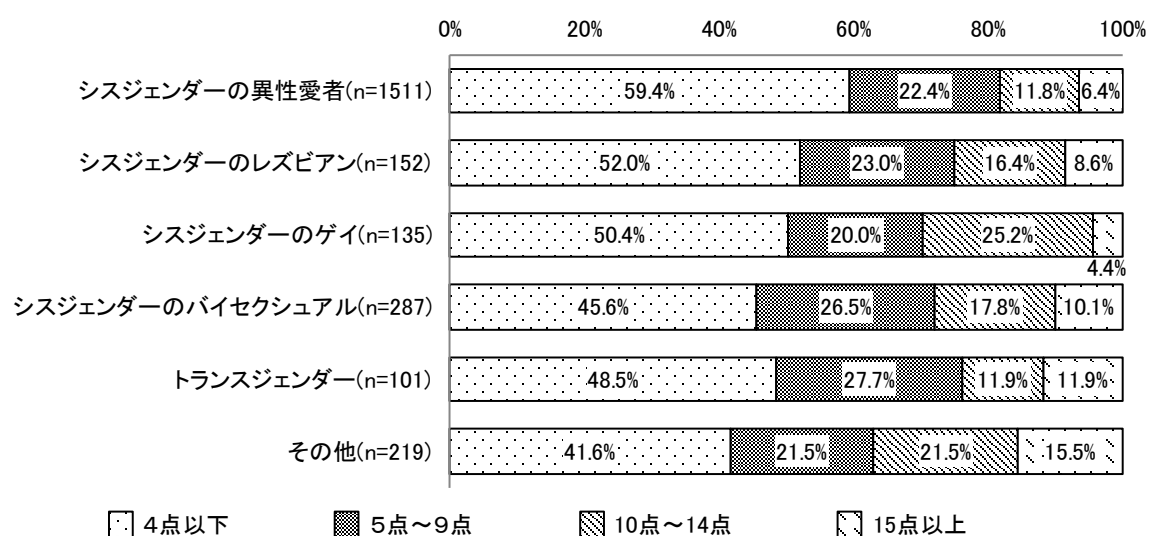
注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## ⑦ K6 得点

K6 の 6 項目 (Q57\_1 から Q57\_6) への回答について、選択肢を「全くない」(0 点)、「少しだけ」(1 点)、「ときどき」(2 点)、「たいてい」(3 点)、「いつも」(4 点) と点数化し、合計点を算出して K6 得点とした。したがって、点数が高いほど、メンタルヘルスの状況が悪いことを意味する。集計にあたっては、「平成 28 年 国民生活基礎調査」(厚生労働省)と同様に、「0～4 点」、「5～9 点」、「10～14 点」、「15 点以上」にカテゴリ化している。

「4 点以下」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 59.4%、「シスジェンダーのレズビアン」では 52.0%、「シスジェンダーのゲイ」では 50.4%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 45.6%、「トランスジェンダー」では 48.5%、「その他」では 41.6%であった。

図表Ⅳ- 102 K6 得点



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

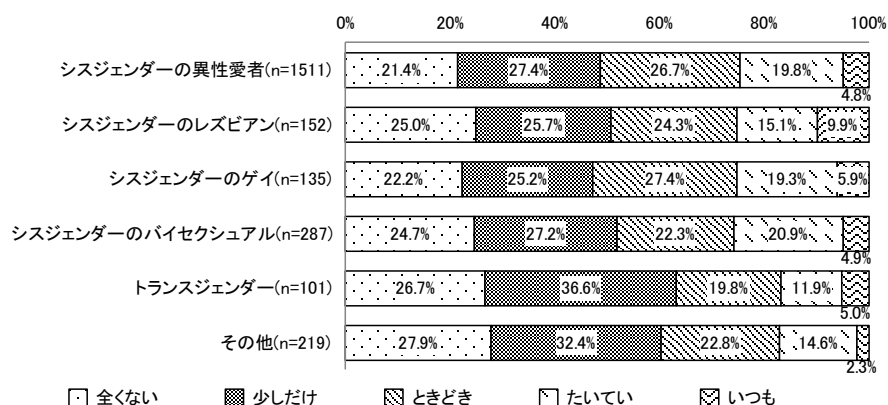
## (2) 仕事に対する意欲

### ① 過去 30 日間で、「いまの仕事が楽しい」と感じた経験

「いつも」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 4.8%であった。

同様に、「いつも」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 9.9%、「シスジェンダーのゲイ」では 5.9%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 4.9%、「トランスジェンダー」では 5.0%、「その他」では 2.3%であった。

図表Ⅳ- 103 過去 30 日間で、「いまの仕事が楽しい」と感じた経験：単数回答（Q58\_1）



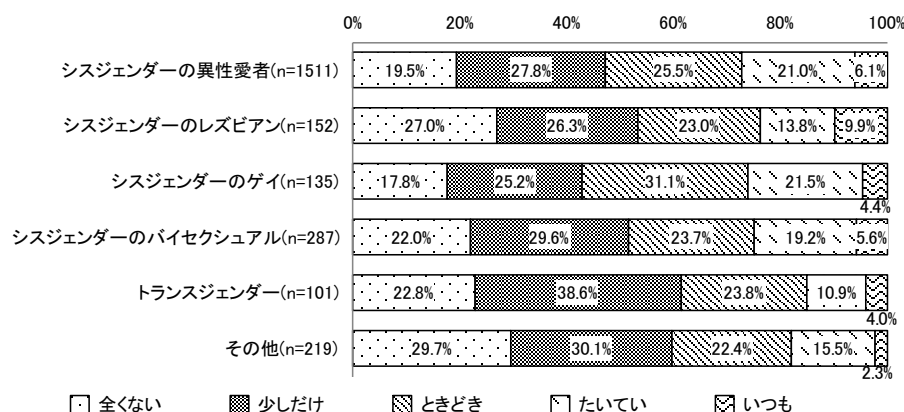
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

### ② 過去 30 日間で、「いまの仕事に対して意欲的だ」と感じた経験

「いつも」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 6.1%であった。

同様に、「いつも」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 9.9%、「シスジェンダーのゲイ」では 4.4%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 5.6%、「トランスジェンダー」では 4.0%、「その他」では 2.3%であった。

図表Ⅳ- 104 過去 30 日間で、「いまの仕事に対して意欲的だ」と感じた経験：単数回答（Q58\_2）



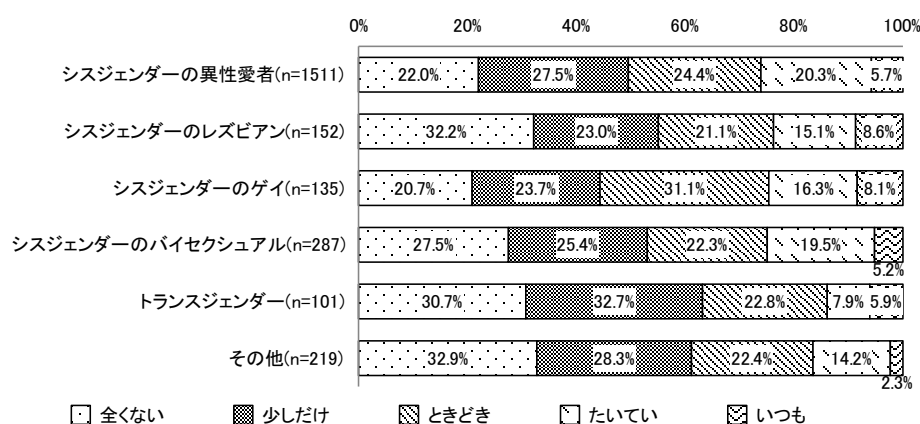
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

### ③ 過去 30 日間で、「いきいきと仕事することができている」経験

「いつも」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 5.7%であった。

同様に、「いつも」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 8.6%、「シスジェンダーのゲイ」では 8.1%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 5.2%、「トランスジェンダー」では 5.9%、「その他」では 2.3%であった。

図表Ⅳ- 105 過去 30 日間で、「いきいきと仕事することができている」経験：単数回答  
(Q58\_3)



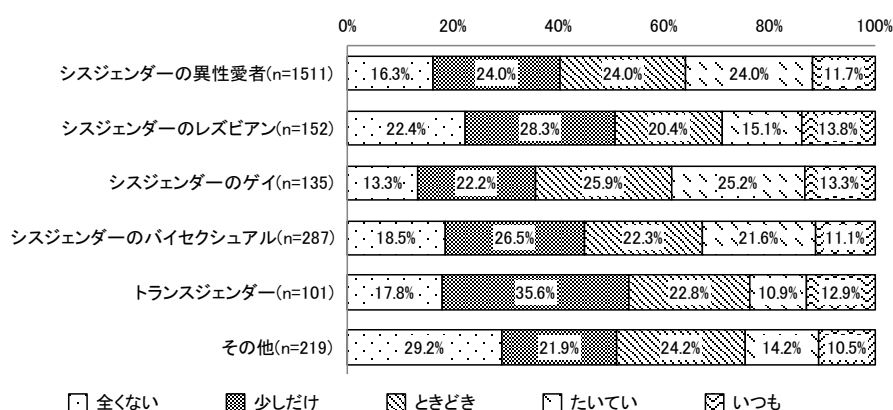
注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

### ④ 過去 30 日間で、「仕事を通じて能力を発揮したいと思う」経験

「いつも」と回答した人の割合は、「シスジェンダーの異性愛者」では 11.7%であった。

同様に、「いつも」と回答した人の割合は、「シスジェンダーのレズビアン」では 13.8%、「シスジェンダーのゲイ」では 13.3%、「シスジェンダーのバイセクシュアル」では 11.1%、「トランスジェンダー」では 12.9%、「その他」では 10.5%であった。

図表Ⅳ- 106 過去 30 日間で、「仕事を通じて能力を発揮したいと思う」経験：単数回答  
(Q58\_4)



注)回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。

## 2.6 行政への要望

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）」では、「職場における性的マイノリティに関するルールの明確化（ガイドライン等）」が38.6%、「職場における性的マイノリティに関する取組に対する情報提供（事例の紹介等）」が34.9%であった。

「シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人なし）」では、「職場における性的マイノリティに関するルールの明確化（ガイドライン等）」が22.5%、「職場における性的マイノリティに関する取組に対する情報提供（事例の紹介等）」が19.7%であった。

「シスジェンダーのレズビアン」では、「職場における性的マイノリティに関するルールの明確化（ガイドライン等）」が21.1%、「職場における性的マイノリティに関する取組に対する情報提供（事例の紹介等）」が18.4%であった。

「シスジェンダーのゲイ」では、「職場における性的マイノリティに関するルールの明確化（ガイドライン等）」が26.7%、「職場における性的マイノリティに関する取組に対する情報提供（事例の紹介等）」が20.0%であった。

「シスジェンダーのバイセクシュアル」では、「性的マイノリティに関する学校教育」が31.7%、「職場における性的マイノリティに関するルールの明確化（ガイドライン等）」が25.8%であった。

「トランスジェンダー」では、「職場における性的マイノリティに関する取組に対する情報提供（事例の紹介等）」が28.7%、「職場における性的マイノリティに関するルールの明確化（ガイドライン等）」、「性的マイノリティに関する労働者からの相談への対応」がそれぞれ27.7%であった。

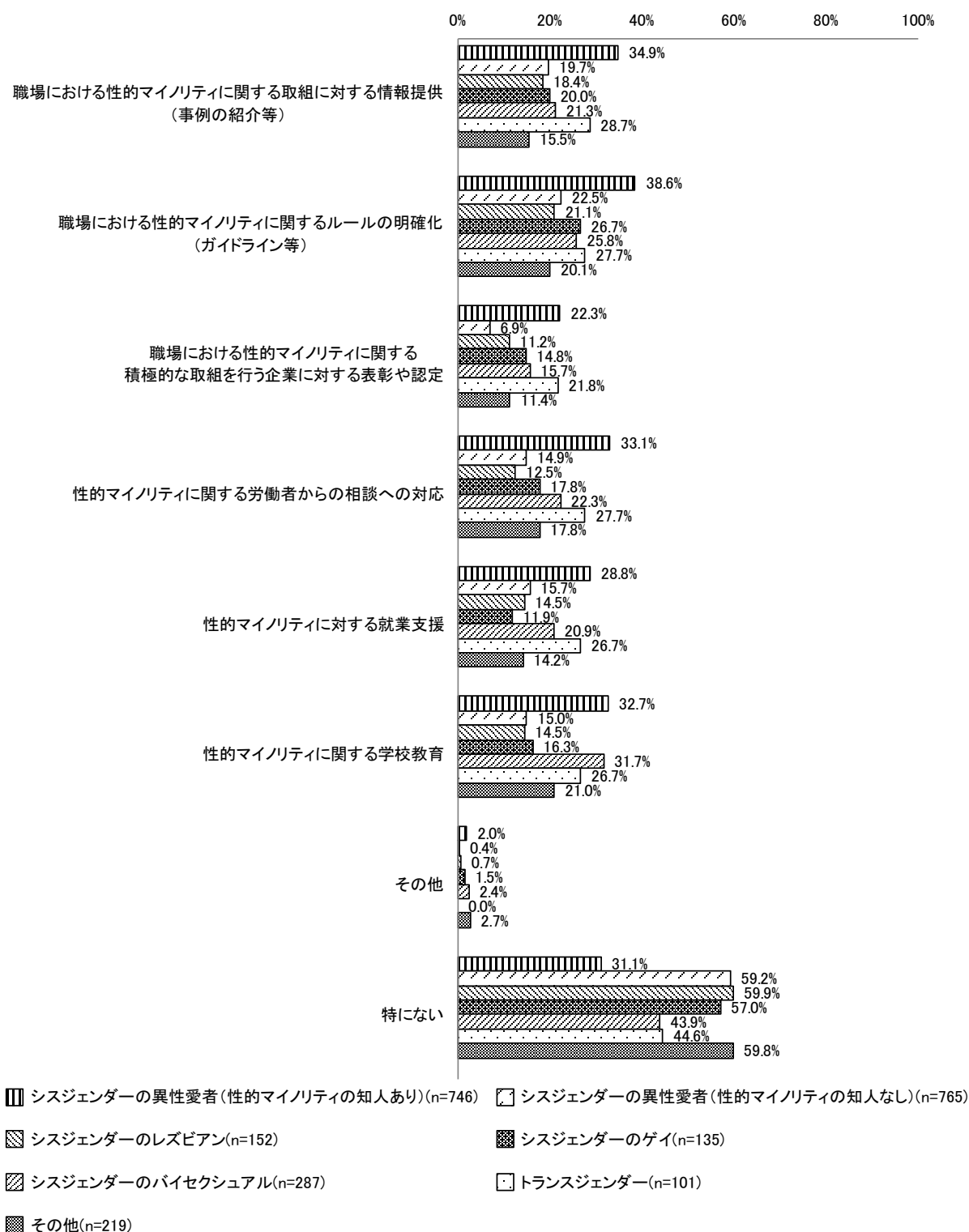
「その他」では、「性的マイノリティに関する学校教育」が21.0%、「職場における性的マイノリティに関するルールの明確化（ガイドライン等）」が20.1%であった。

### Q59 の回答が「その他」の自由回答 (文末の【】内は、回答者区分を示す。)

- |                                                                                                                                                                                                                    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>■性的指向・性自認に基づく差別的な取り扱い等に関する規定を設けることを求める例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 差別しない取り決め【シスジェンダーの異性愛者（性的マイノリティの知人あり）】</li><li>・ 性的マイノリティに対する差別的取り扱いへの罰則制定【その他】</li><li>・ 法令による差別禁止と実質的平等の保障【その他】</li></ul> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

(集計結果の図表は次ページに掲載)

図表Ⅳ- 107 職場における性的マイノリティに関する取組として、行政に期待すること：複数回答（Q59）



注) 回答者の区分は、出生届に記載された性別(Q1)、性自認(Q2)、性的指向(Q3)、性的マイノリティの知人等の有無(Q7)への回答に基づくものである。集計対象について詳しくは p. 100 を参照のこと。